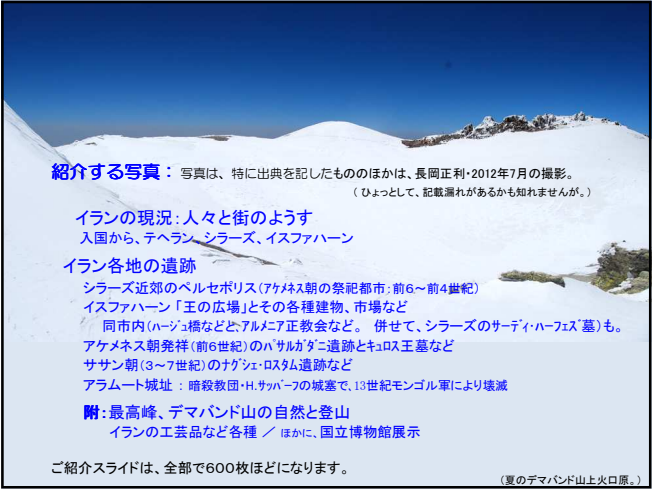
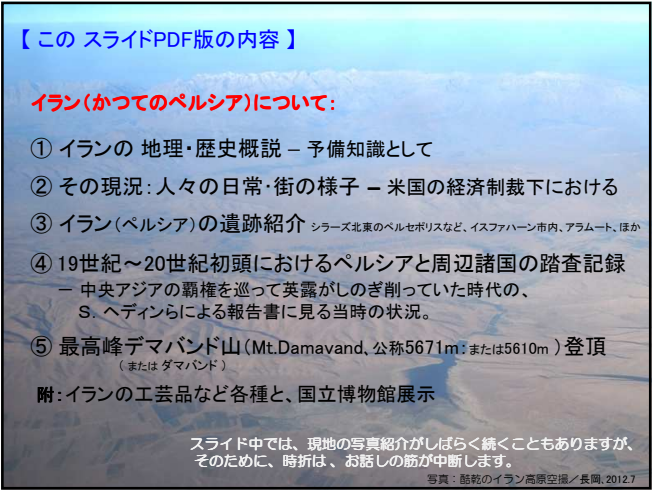
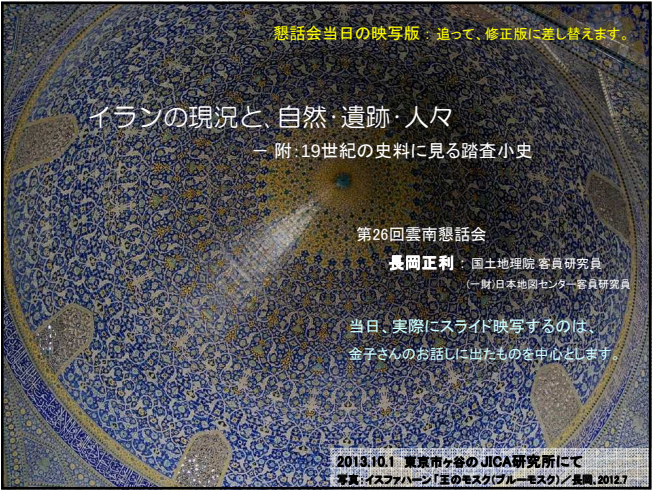
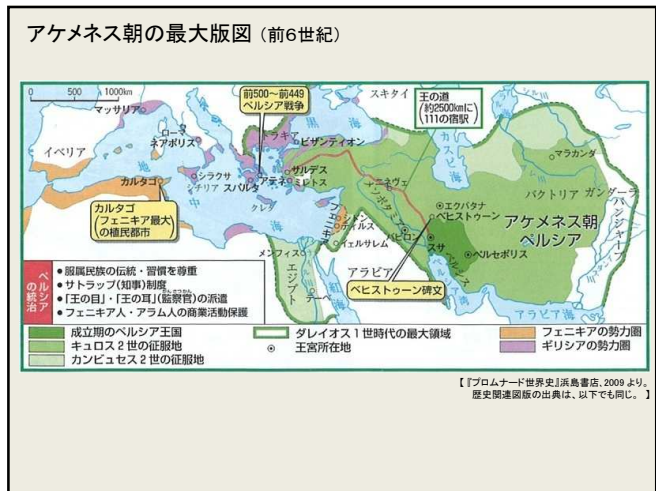
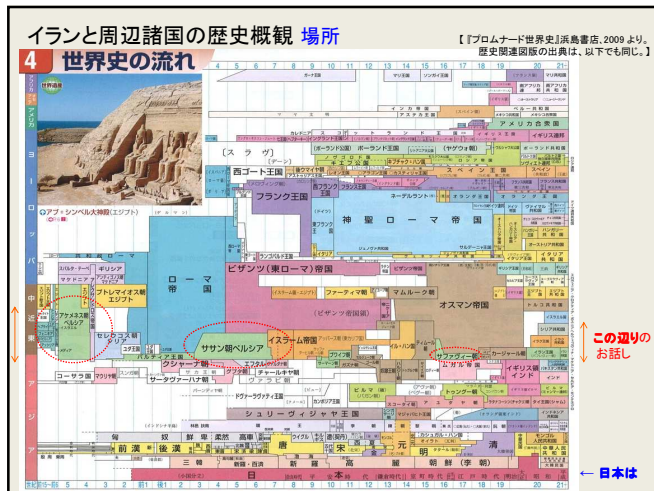
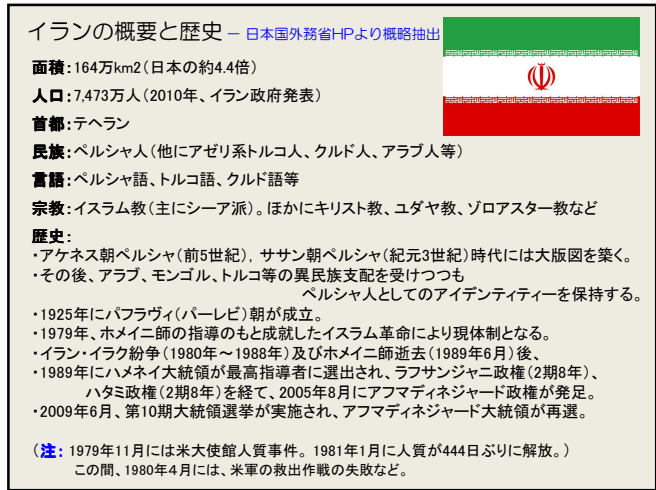
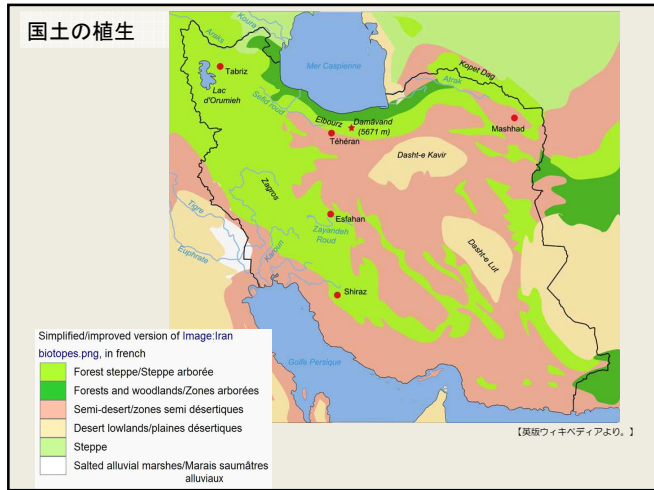
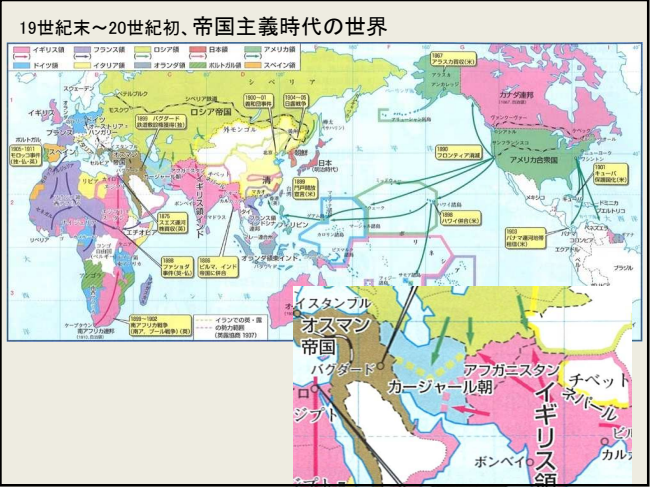
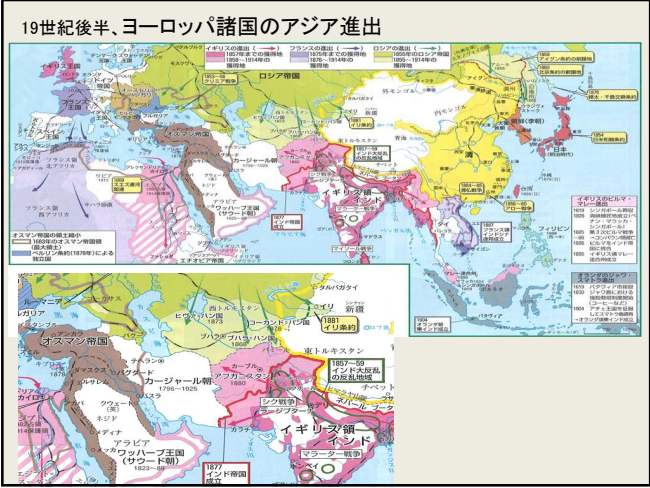
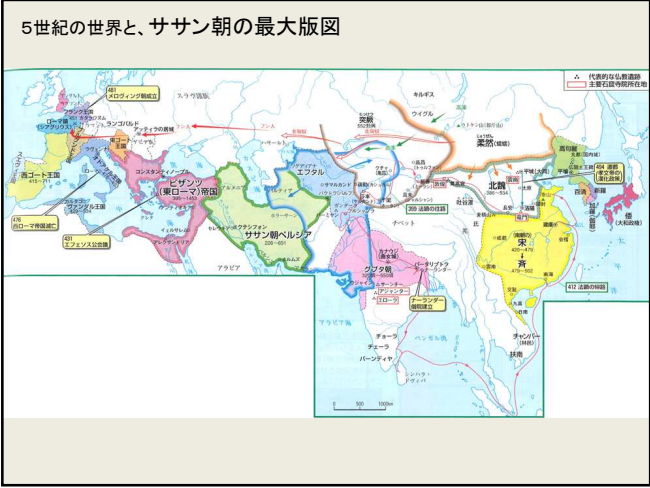




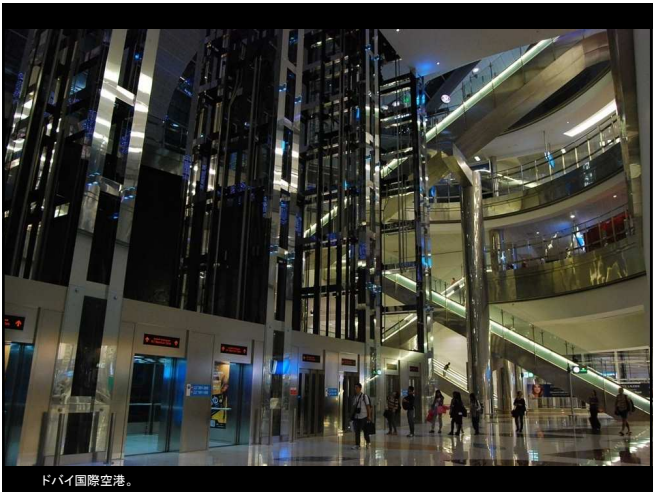




(東京市ヶ谷・JICA研究所にて)

ご参考: 第二次世界大戦後のアジア







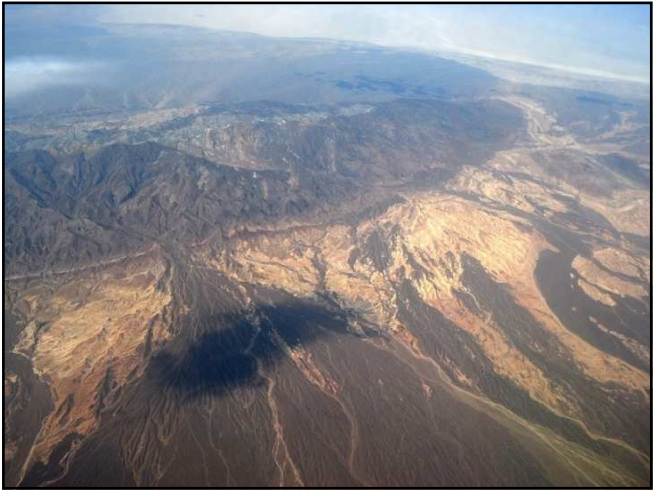
ドバイ国際空港を発ち、ペルシア湾を越えてテヘランへ向かう。



ペルシア湾を渡って、間もなくイラン上空へ。



延々と続く、沙漠上空の麗乾の世界。



テヘランに近づくと、灌漑農耕地が。



テヘラン国際空港 着。



ここで、エミレーツ航空（アラブ首長国連邦）のお嬢さんとお別れ。

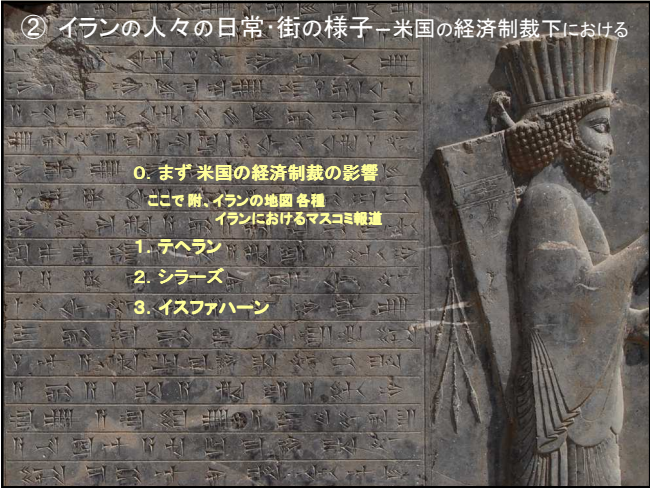
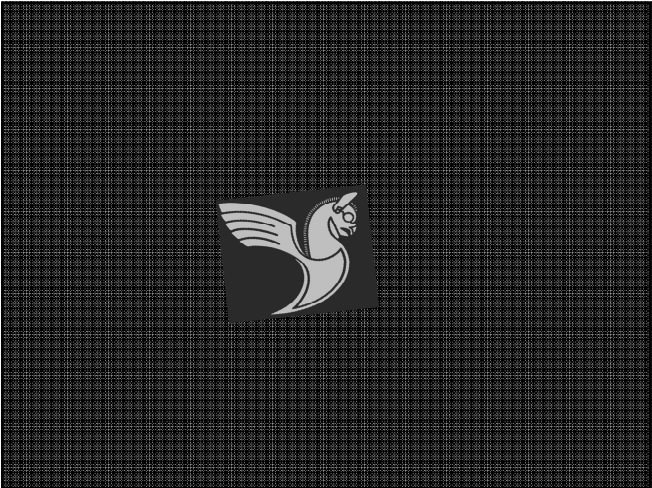
これはドバイ〜テヘラン便で
前スライドが 成田〜ドバイ便。
その服装と化粧の違いにご注意を

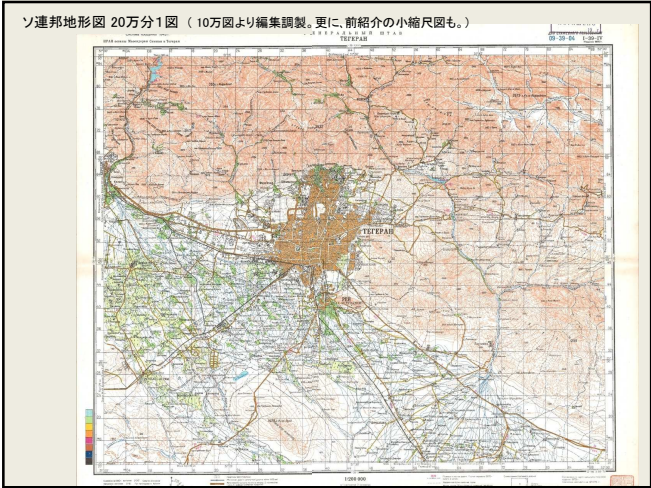
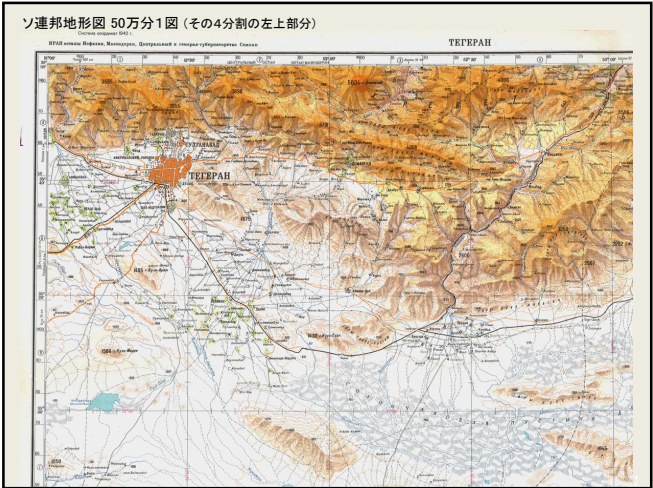
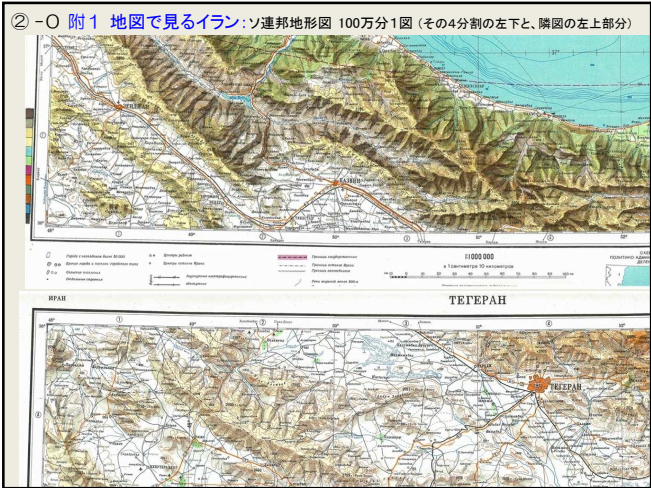


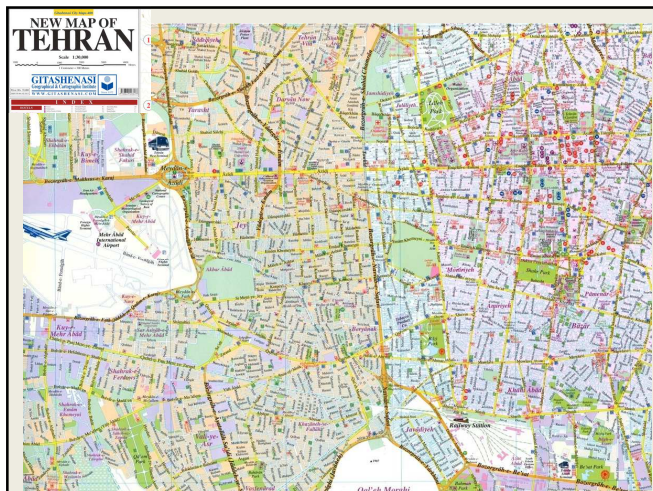
テヘラン国際空港 到着フロア。



テヘラン国際空港 入口の前。







[illegible]

映画「アルゴ」3.13 ブルーレイ&DVD セット
 トップ 最新情報 作品情報 ムービー イメージ Blu-ray&DVD コメンリ 上映劇場

HOLLYWOOD

第83回 アカデミー賞® 3部門受賞!!
 作品賞・脚色賞・編集賞

第76回 ゴールデン・グローブ賞 2部門受賞!
 作品賞 (ドラマ部門)・監督賞 (ベネチア国際映画祭)

アフレック クラーストン アーキン グッドマン
 アルゴ

CIA史上、最もありえない救出作戦
 それは「二重映画」作戦だった。

18年間封印されてきた実話。
 ブルーレイ&DVDセットリリース
 レンタル/オンデマンド (VOD) 配信

3.13

アカデミー賞受賞! 緊急上映!! >>

<http://www.warnerbros.co.jp/argo/>

1979年イランアメリカ大使館人質事件 [編纂]

詳細は「[イランアメリカ大使館人質事件](#)」を参照

1979年11月4日、イマーム戦列支持ムスリム学生団が、アーヤツッラー・ホメイニーの支持のもとテヘランのアメリカ大使館を占拠した。これは大使館によるスパイ行為のためであった。52人のアメリカ人が444日間にわたって人質となった。1980年4月7日、合衆国はイランとの国交を断絶。1981年4月24日以降、**スイス政府**がテヘランの**利益代表部**を通じて合衆国の權益を代行した。一方、合衆国におけるイランの權益は、ワシントンD.C.のバキスタン大使館内に設けられた**イラン利益代表部**によって代行されることになった。

1981年1月19日の**アルジェ合意**により、**オランダ・ハーグにイラン・合衆国損害裁定委員会**が、合衆国とイラン相互の主張を処理するために設置された。ただしハーグを通じての合衆国とイランの接触は、法的外限に限定された。条約調印の**1981年1月20日**、人質は解放された。

「(合衆国イラン・イスラーム共和国利益代表部)も参照



ブレイング・マンティス作戦 [編集]

1988年4月にアメリカ合衆国とイランは直接交戦している。イランが行ったペルシア湾への機雷敷設に対し、アメリカ海軍が報復として攻撃を行ったものである。作戦名は**ブレイング・マンティス作戦**。4月14日に作戦は行われ、イランのフリゲートが撃沈された。なお、交戦は1日で終了した。

1988年: イラン航空655便撃墜事件 [編集]

詳細は「**イラン航空655便撃墜事件**」を参照

1988年7月3日、合衆国の巡洋艦**ヴィンセンス**が**イラン航空**のエアバスA300B2を撃墜するという事件が発生。**ホルモズ海峡**を越えたイラン領空内でのスケジュールにある民間航空機の撃墜であり、子供66人を含む6カ国あわせて290人の一般人が死亡した。1996年2月22日、合衆国は撃墜によるイラン人犠牲者248人に対する補償6180万ドルの支払いに同意した。ただし3000万ドル以上と見積もられる航空機自体の補償は現在に至るまでなされていない。

イランの核開発計画に関わる要因 [編集]

2003年以来、合衆国はイランが核兵器開発を計画していると主張。これに対し、イランは核開発計画は発電のみを目的にしていると反論している。



ウィキソースに**Nuclear Non-Proliferation Treaty**の原文があります。

2005年6月、合衆国国務長官**コンドリーザ・ライス**は**IAEA**事務局長**モハメド・エルバラダイ**について、イランに対する姿勢をより強固にせねば、3期目の選出はないだろう」と述べている^[20]。合衆国とイランはともに**核拡散防止条約**(NPT) 関係国である。2005年5月の1ヵ月にわたる会議上、IAEAは核燃料およびその処理について報告が不十分であるとして、イランが**NPT**保障措置管理****に違反していると発表している^[21]。これに対し、NPT第4条では、非核兵器保有国に対して非軍事的原子力エネルギー開発の権利を認めており^[22]、さらに合衆国および他の公認の核兵器保有国は第6条違反であるとする反発があった。第6条は核軍縮を定める規定であるが、2006年現在で核兵器保有国がそれを行っていないとするものである。

2003年から2006年初にかけて合衆国とイランの関係は逐次緊張を増した。この時期、IAEAによる核関連施設への査察が継続しており、これはイランが自発的に加盟したNPT追加条項に基づくものである。

2006年3月8日、合衆国およびEU3カ国代表は、イランが**未濃縮六フッ化ウラン**の保有を指摘、十分な濃縮が行われれば最大10個の原子爆弾製造が可能であり、これは「安全保障理事会が行動すべき時」と声明を発表した^[23]。ただし未濃縮ウランは、**加圧水型原子炉**の**プーシェフル原子力発電所**では使用できず、また濃縮がなければ原子爆弾にも使用できない。

2006年対イラン制裁 [編集]

詳細は「**イランをめぐる国際的危機**」を参照

合衆国はイランの核開発、およびイラン政府によるイラクにおける**シーア派**民兵に対する後方支援および財政的支援を問題として、国際的制裁を呼びかけた。後者についてイラン政府はこれを否定している^[34]。合衆国政府は2006年9月8日、合衆国金融機関関連の銀行を除いて、間接的取引を含めた**イラン銀行**との取引を禁する制裁を発動した。財務次官**スチュアート・リービー**の発表によれば、主要イラン国有銀行として、**サデーラート・イラン銀行**が**ヒズブッラ**を含むテロ集団に対する資金移転を行った疑いがあるとされたためである。この時点ではイラン金融機関は合衆国の金融市場での直接の取引は禁止されたが、第三国を通じての取引は可能であった。その後サデーラート・イラン銀行による取引は第三国経由でも凍結されているが、リービーによればイランのその他の銀行に対しては適用されないとされている。右の制裁はイランおよびヒズブッラに対するプッシュ政権の新たな努力であり、リービーは2001年以降、ヒズブッラ支配下の組織にサデーラート・イラン銀行を通じて、イランから直接に5000万ドル以上が流入しているとする。その上で、合衆国政府はイランとの取引を行わないようヨーロッパ諸銀行および金融機関を説得したいとしている^[35]。

「**国際連合安全保障理事会決議1737**」も参照

核開発問題 [編集]

詳細は「**イランの核開発問題**」を参照

イランの核開発については、イラン政府は常に、イランの核開発は平和利用の原子力発電のためであり、軍事目的の核兵器を開発する意思は無いと主張している。しかし、国連安保理常任理事国であるアメリカ、ロシア、中国、イギリス、フランスの5か国の政府とドイツ政府は、イラン政府の主張は本音・真実ではなく、軍事目的の核兵器の開発のための偽装であるとの疑いを持ち、国連安保理は2006年12月、2007年3月、2008年3月にイランを制裁する決議を採択した。しかし、イラン政府は国連安保理の制裁決議は受け入れないと表明し、イランの平和利用目的の核開発は誰にも妨害させない、誰も妨害できないと主張している^{[42][43]}。アメリカの国家情報会議(NIC National Intelligence Council)は、イランは2003年に核兵器の開発を中止しているので、アメリカ政府が主張するイランの核兵器開発疑惑は事実ではないと政府に報告した^[44]。

核エネルギー開発に関する非欧米の見方 [編集]

欧米にこの問題や、その他の事柄でイランを極度に危険視してとりあげるのは、イランが欧米に依存しない、イスラムという価値観に基づく体制だからである、という見方がイランではある^[45](下記の「イランの主張」参考)。一方、日本ではイランが危険な国であるかのような論議があるが、アハマドネジャト大統領は「貫して核兵器を持つつもりは無いとし、「核爆弾は持つてはならないものだ」とアメリカのメディアに対してははっきりと言いつけている」(Newsweek誌2009年10月7日号)。その上で、アメリカの学生と大統領自身もニューヨークで交流するなど欧米に対して対話する努力を積極的に行い、アジア、南米、ヨーロッパなど様々な国のトップなどとも交流し、国内でも女性の関係増進(女性の権利の向上などの画期的な改革を行うなど、様々な努力を行っている。また、イランは中国とも同盟を結んでいる。そのため、イランに理解を示す国々は日本でもあまり知られていないが数多くあり、イランが危険だから核エネルギー開発も阻止されなければならないという論議は決して世界共通にはななく、トルコ、ブラジル、ベネズエラ、キューバ、エジプト、その他の非同盟諸国もイランの平和的核エネルギー開発を支持している。2009年10月にトルコのエルドアン首相はイランを訪れ、アハマドネジャト大統領と会談した際に核エネルギーの開発はイランの権利である」というイランの立場を理解を示し、当然であるとの姿勢を示した^[46]。また、非同盟諸国は2006年9月の首脳会議でイランによる平和利用目的の核開発の権利を確認する宣言等を採択した^[47]。

対イラン制裁(2010年) [編集]

2010年2月16日、クリントン米国務長官は中東歴訪を終え帰国した。国連安保理による対イラン制裁の強化に向け、湾岸諸国の協力を取り付けるのが狙いとみられていた。**カタール**では「イランは軍事独裁に向かっている」と発言、サウジアラビアなどでも同じような発言を繰り返した。オバマ政権は、政権発足以来対イラン外交の強化を方針としてきたが、一転して制裁などの強硬姿勢を前面に押し出している。^[56]

2010年7月1日、オバマ政権はイランの金融・エネルギー部門と取引する企業への制裁強化を柱とする対イラン制裁法案に署名、同法は成立した。イランに**ガソリン**を輸出する企業や、核開発にも関与する**革命防衛隊**と取引する金融機関への制裁を盛り込んでおり、米国の対イラン独自制裁としては史上最も厳しい内容である^[57]。



日本経済新聞

9月25日(土曜日)

English
中国語

ニコニコ生放送
最新ニュースを
大人のための食事
NIPPON TVチャンネル

Web刊

速報 ニュースリーダー マーケット マネー テクノロジー ライフ スポーツ 朝刊夕刊 My日報

トップ 特集 フォト 国内ニュース 経済活動 社会・生活 健康 消費生活 東京五輪

国際経済からイラン排除 EU、制裁を強化

【ジュネッセル次男】 露出連合(EU)は15日、イランの核開発問題への制裁強化策の一環として、同国に銀行間の決済に必要なサービスを提供することを禁止すると発表した。イランの銀行に 照準を定め、送金などの国際的な金融取引のネットワークから事実上、締め出す狙いがある。

世界規模の送金網から排除される対象になるのは、EUの資金決済の対象となっているイランの個人や企業・団体。EUの措置を受けて、ペルギーに本部を置く銀行間決済ネットワーク(国際銀行間通信協会) [SWIFT]は15日、イランの銀行への決済情報提供サービスを17日から停止すると発表した。

SWIFTは世界各国の主要な金融機関が加盟し、国際的な資金の流れを保つのに不可欠な組織となっている。イランの銀行は今後、国外から送金を受け取ることが難しくなるとみられる。この措置により貿易に関連したイラン企業の資金繰りが苦しくなるとの見方もある。

米財務省高官は15日、SWIFTによるサービスの打ち切りを歓迎するとの声明を発表。イランの銀行が国際金融界で孤立を深める見通しを強調するとともに「不正な核開発を続けるイラン政権への大規模な圧力強化が必要」との認識を改めて表明した。同時に制裁の効果が高まるように欧州などと連携を深める方針も示した。

一方、日本は欧米の圧迫制衡に歩調を合わせてイラン産原油の輸入を減らすそうとしている。一部の取引で代金の決済が続ければ、SWIFTのサービス停止が影響する可能性もある。

電子版の
お申し込みはこちら

新聞(電報)の
お申し込みはこちら

今市市場価格

日経平均株価

14,732.61

-9.81

24日 25日

日経500株

15,234.59

-66.79

24日 25日

日経1000

6,511.66

-14.08

24日 25日

日経225

26,750.78

-1,320.94

25日 26日

日経300

10,000.00

-100.00

25日 26日

日経400

10,000.00

-100.00

25日 26日

日経500

10,000.00

-100.00

25日 26日



ワールドWaveTone

WaveTone

特集まるごと

特集の内容をテキストと音波でチェックできます

日本語 WaveTone

英語 英語まるごとポータル



2013年7月8日(月)

イランは変わるのか 穏健派ロウハニ新大統領



News
イランはどう変わるか

来月(8月)イランの新しい大統領に就任する、穏健派のロウハニ氏。
欧米との対話で経済制裁の緩和を引き出す姿勢をアピールし、世界からも注目されています。

穏健派 ロウハニ氏
「対等な立場から外国と対話をします。
今までの過激な路線のせいで、国民は苦しんできました。」

強硬派のアフマディネジャド大統領のもと、欧米と対立を深めてきたイラン。
「世界との対話」を掲げるロウハニ氏の登場で、閉塞状況の打開に期待が高まっています。

市民
「外国との関係改善を期待しています。」

強硬派から穏健派へ。
新大統領でもイランはどう変わるのか、今後を読み解きます。

高尾
「核開発問題をめぐって国際的に孤立するイラン。
厳しい経済制裁で人々の暮らしが疲弊する中、中東を求める声を受けて、穏健派のロウハニ氏が新しい大統領に就任することになりました。
ロウハニ氏は、改進黨の元々有識者総裁のもとで欧米の責任者をつとめた経験があり、それまでの強硬路線とは違い、「世界との対話」を強調しています。」

鎌倉
「イラン国内ではロウハニ氏の登場で、欧米との関係改善や経済再生への期待が高まっています。」





WEBRONZA+

政治・国際

経済・雇用

社会・メディア

科学・環境

文化・エンタメ



イラン大統領選、ロウハニ勝利の謎

2013.06.25日

高橋和夫

6月のイラン大統領選挙での最大の謎は、なぜロウハニ候補が圧勝したかではない。なぜハメネイ最高指導者がロウハニの勝利を許したかである。言うまでもなく、イランの現在の政治システムでは最終的な権力は最高指導者とよばれる宗教指導者の手に握られており、国民の選挙で選ばれる大統領は野党の党首的な存在でしかない。最高指導者の意向で大統領選挙を左右できるのだ。

ロウハニの勝利の説明は、そんなに難しくない。保守派の候補が乱立した中、改革派はアレフ候補を推し、中道穏健派はロウハニ候補を支持していた。保守派に勝たせないためには、両者の協力が不可欠と見られていた。投票の前に両者の票が割れるのを避けるためにアレフは出馬を取りやめた。これで穏健派と改革派はロウハニ候補一人に票を集められた。保守派候補同士が足の引っ張り合いをする中、ロウハニが独走する結果となった。

ロウハニの選挙運動は、投票直前になって大きな盛り上がりを見せた。ロウハニは、イランは警察国家のようにになっている。治安当局が大学や組合など社会のあらゆる層に浸透して国民は、安全ではない、自由ではない、しかも経済制裁で生活水準は落ち込んでいる、政治犯は釈放されるべきである、イラン国民は、もっとまともな生活をするべきである、と現状を激しく非難した。

すると人々は喝采を送った。棄権をすれば、よりよいイランを築く機会を失ってしまうとロウハニが呼びかけると、投票当日には予想外の数の有権者が投票に参加して、ロウハニ大統領を誕生させた。

しかし繰り返そう。この選挙で説明が難しいのは、なぜロウハニが勝ったかではない。なぜロウハニをイマメイが勝たせたかである。大きく言って、これには二つの解釈がある。



イラン大統領選挙で支持者に手を振って応えるロハニ（ロウハニ）師＝2013年6月8日、テヘラン

拡大

第一は、ハメネイは予想外の情勢の展開に驚いているうちに、あれよあれよと言う間にロウハニが大統領となってしまった。

第二は、ハメネイは、最初からロウハニの勝利を意図しており、結果は予想通りであるとする解釈である。

この二番目の説が正しいとすると、なぜハメネイはロウハニに勝たせたのだろうか。それは、現在の欧米との対決路線が破綻しているからである。経済制裁により国民生活は困窮しており、イランとしても妥協を模索せざるを得ない。となるとロウハニのような穏健な人物が必要となる。

ハメネイは体制の生き残りと自分の地位の保全のために、穏健派の勝利を意図していたのだ。その証拠として挙げられるのが、ロウハニの体制批判とも思える選挙での言動を許容したことだ。ロウハニの出馬資格を剥奪しようとする一部の急進派の声をハメネイが抑えた事実がある。もし、この解釈が正しいのであれば、ハメネイはロウハニに仕事をさせるだろう。つまり、欧米との妥協を模索させ、経済制裁の緩和を実現しようとするだろう。

はたして、この解釈は正しいのか。答えはハメネイのみぞ知るわけである。だが、この解釈に關しては、筆者自身は深読み過ぎると感じている。

……[続きを読む](#)

BBC
News
Sport
Weather
Capital
Culture
Autos
TV
Radio
More...

NEWS EUROPE

Home
UK
Africa
Asia
Europe
Latin America
Mid-East
US & Canada
Business
Health
Sci/Environment
Tech
Entertainment
Video

20 September 2013 Last updated at 18:43 GMT

France's Hollande to meet Iran's Rouhani at UN

The office of French President Francois Hollande says he will meet his Iranian counterpart on the sidelines of the UN General Assembly in New York next week.

It comes as President Hassan Rouhani has indicated a more moderate and Western-friendly attitude than his predecessor, Mahmoud Ahmadinejad.

There has been speculation that Mr Rouhani might also meet US President Barack Obama in New York.

Correspondents say this would herald a major thaw in US-Iran relations.

French officials said the meeting between Mr Hollande and Mr Rouhani on Tuesday had been organised at the request of Iran.

Top Stories

Syria chemical weapon data probe

Sri Lanka key vote begins in north

Blackberry to cut 4,500 global jobs

Date set for Taliban chief release

Diplomats protest over Israel clash

ADVERTISEMENT

Francois Hollande and Hassan Rouhani will discuss issues including the Syria crisis

朝日新聞

ニュース

スポーツ

カルチャー

電機

健康

特選

ビューティ

天気

東京

東京

天気

気象

天気

天気

天気

東京

東京

天気

気象

天気

天気

消費増税へケハンダシ

手続の解除、一気通貫

続ハナになってまかせか?

ニュース

経済

中国

記事

2013年07月21日 07:09

ロハニ師・オバマ氏、接触あるか イラン大統領、訪米へ



18日、アメリカで放送したNBCテレビのインタビューに答えるイランのロハニ大統領(左)。核兵器の開発も否めなくなると述べた(イラン大統領府提供) ©ロイター

【テヘラン＝ 神田大介】国際社会で孤立してきたイランが、穏健派ロハニ新政権の下で融和姿勢をアピールしている。ロハニ大統領は24日の国連総会の一環討論演説のため、近く渡米。オバマ米大統領との接触が実現するかどうかに期待が高まっている。

ホワイトハウスのカーニ報道官は19日、オバマ氏とロハニ氏の正式会談の予定はないが、何らかの意見交換をする「可能性は常にある」と述べた。また、AFP通信は「フランスのオランド大統領がロハニ師と会談する

ロハニ師は19日、ワシントン・ポスト紙(電子版)への寄稿で「建設的対話」を欧米に呼びかけたほか、18日には米NBCテレビのインタビューで「核兵器は開発しない」とも明言。対話ムードを盛り上げた。

さらに、イラン司法府は19日、2009年の反政府デモで活動家の弁護を手がけ、収監された女性弁護士ナスリントウデさんから政治犯約10人を釈放、欧米から批判されてきた人権問題でも「改革」をアピールする。

日本経済新聞

9月25日 [木曜日]

Web 刊

経済 企業 政治 株・金融 スポーツ 社会 その他ジャンル

米大統領、イラン核問題「外交的解決探る」 国連演説

2013/9/25 05:13 (2013/9/25 1:37更新)

【ニューヨーク=中山真】オバマ米大統領は24日の国連総会で演説し、イラン核開発問題の外交的な解決に向けた取り組みを加速する考えを表明した。イランが米欧に歩み寄る姿勢を示しているのをふまえ、国際的な義務の履行を呼びかけた。米英仏など6カ国とイランは今週中に外相級協議を開く予定で、米・イランの交渉が動き出す可能性がある。

オバマ大統領はイラン核開発問題を「短期的に米国の外交努力を集中させる課題」と説明。穏健派のロウハニ大統領の就任を受け、ケリー米國務長官にイランとの間で外交的解決を追求するよう指示したと述べた。「障害は大きいかもしれないが、外交的な道が試されなければならない」と信じている」とも訴えた。

具体的には、ロウハニ氏が核兵器保有を否定したこととに接して「意味のある合意に向けた下地になる」と指摘。「イランの平和的な核利用を尊重する形で解決を達成できる」とした。

さらに「核開発問題を解決できれば、共通の利益と相互の信頼に基づく関係に向けた長い道のりの大きな一歩になる」と表明。1979年のイラン革命以来、国交断絶の状態となっている2国間関係の改善に応じる用意があるとの考えを明らかにした。

BBC NEWS MIDDLE EAST

Home UK Africa Asia Europe Latin America Mid-East US & Canada Business Health Sci/Environment Tech Entertainment Video

Related video / audio

Warmer relations for the US and Iran? 24 September 2013

Iran is no threat to the world 24 September 2013

Resolution achievable over Iran 24 September 2013

Iran nuclear weapons pledge 19 September 2013

Opportunity for Syria diplomacy 23 September 2013

Moderate' Iran open to US talks

25 September 2013 Last updated at 06:22 BST

US President Barack Obama has welcomed the "moderate" stance of new Iranian President Hassan Rouhani.

Mr Rouhani, who was elected earlier this year, has pledged a more open approach in international affairs, and told the UN General Assembly that his country "posed absolutely no threat to the world".

Kim Ghattas reports.

Read more

Iran ready for nuclear talks, says President Rouhani

BBC NEWS MIDDLE EAST

Home UK Africa Asia Europe Latin America Mid-East US & Canada Business Health Sci/Environment Tech Entertainment Video

Related video / audio

Nuclear weapons cannot be tolerated 26 September 2013

Which countries have nuclear weapons? 26 September 2013

Moderate' Iran open to US talks 25 September 2013

Warmer relations for the US and Iran? 24 September 2013

Iran is no threat to the world 24 September 2013

Resolution achievable over Iran 24 September 2013

Rouhani wants Iran nuclear deal 'in months'

26 September 2013 Last updated at 19:21 BST

Iran's new president has told the United Nations that every effort must be made to rid the world of nuclear weapons.

President Hassan Rouhani has also said that he wants to reach an international deal on the country's nuclear programme in as little as three months.

Nick Bryant reports from New York.

Read more

Iran nuclear programme: US and China call for response

BBC NEWS WORLD

Home UK Africa Asia Europe Latin America Mid-East US & Canada Business Health Sci/Environment Tech Entertainment Video

Related video / audio

High-level UN-Iran nuclear talks 26 September 2013

Rouhani wants nuclear deal 'in months' 26 September 2013

Nuclear weapons cannot be tolerated 26 September 2013

Moderate' Iran open to US talks 25 September 2013

Warmer relations for the US and Iran? 24 September 2013

Iran's Rouhani to address the UN 24 September 2013

Iranian President Rouhani's Q&A in New York

27 September 2013 Last updated at 22:43 BST

Iranian President Hassan Rouhani held a news conference in New York before flying back to Iran after attending the UN General Assembly's annual meeting.

BBC NEWS US & CANADA

Home UK Africa Asia Europe Latin America Mid-East US & Canada Business Health Sci/Environment Tech Entertainment Video

Related video / audio

Rouhani's Q&A in New York 27 September 2013

High-level UN-Iran nuclear talks 26 September 2013

Rouhani wants nuclear deal 'in months' 26 September 2013

Nuclear weapons cannot be tolerated 26 September 2013

Moderate' Iran open to US talks 25 September 2013

Warmer relations for the US and Iran? 24 September 2013

President Barack Obama on Iran: 'A basis for resolution'

28 September 2013 Last updated at 07:48 BST

US President Barack Obama has spoken by phone to Iran's Hassan Rouhani - the first such top-level conversation in more than 30 years.

After the call, Mr Obama said both sides wanted to resolve the dispute over Tehran's nuclear programme.

Read more

Iran nuclear: Obama and Rouhani speak by phone

朝日新聞 DIGITAL

ニュース スポーツ カルチャー 地域 特集・オピニオン

「世界にっぽん」一気読み 都市生活 東京図録はよい読書 手帳を離れ

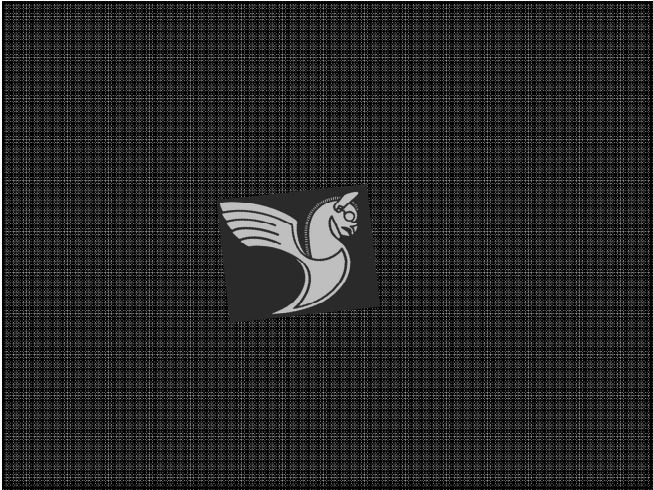
ニュース 国際 中国 記事 2013.09.28 12:08:22

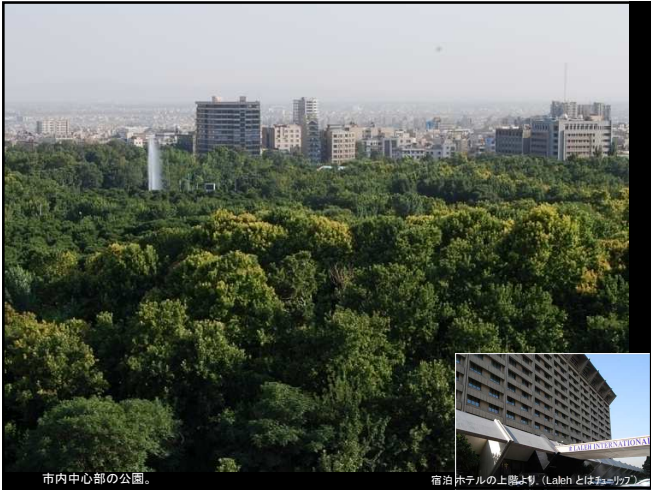
イスラエル、米イラン関係改善に焦り 「だまされるな」

【カイロ=山尾有紀恵】イスラエルが、事実上の同盟関係にある米国と、敵対するイランの関係改善に焦りを募らせている。26日の米イラン外相会談に続き、27日にはオバマ米大統領とイランのロウハニ大統領の首脳対話の実現、「イランの甘い言葉にだまされるな」と訴えている。

「予想通り、偽善に満ちた朝明的な演説だった」。イスラエルのネタニヤフ首相は26日、ロハニ師が米国などとの対話に前向きな姿勢を示した 国連総会 の演説をこう評した。「人権を訴えながら、罪のないシリア」国民の虐殺に黙っている。テロを非難しながら、世界中でテロを行っている」とも指摘。イランが核開発をめくり譲歩する姿勢を見せ続けているのは「核兵器を獲得するための時間稼ぎだ」と断じた。

エルダラン民間 防衛相 は27日のイスラエル軍放送のインタビューで、「ロハニ師の温かな顔や美辞麗句が米国民に向けられている間に、見えないところで(ウラン濃縮の)遠心分離機が回っている」と述べ、ロハニ師との対話経緯に感服する欧米諸国に警鐘を鳴らした。





市内中心部の公園。

宿泊ホテルの上隣より、(Laleh とはホテル)



Lale Hotel から少し先へ行った交差点。



市内では、バス交通が発達。



以下は、市内中心部の公園にて。緑と水が豊か。



上は、公園で出逢った猫。

下は、ペルシア語版ウィキペディアより、ペルシア猫。



水辺はいつも、伝統的に、人々の憩いの場所。



カラテ(極真館)が盛ん。



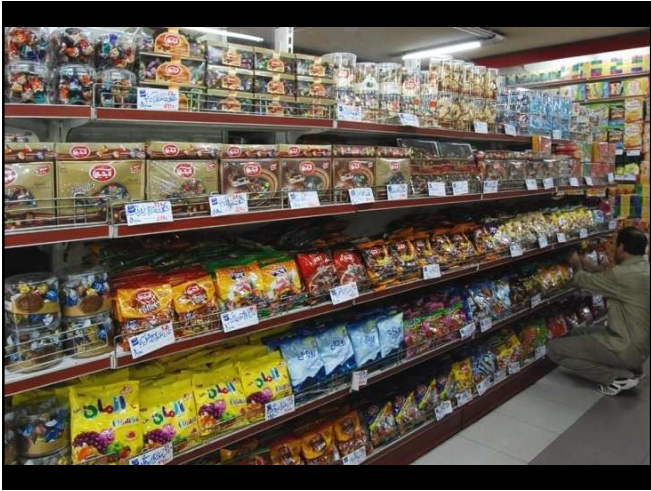
バドミントンも盛ん。ほかに、ローラースケートなども。

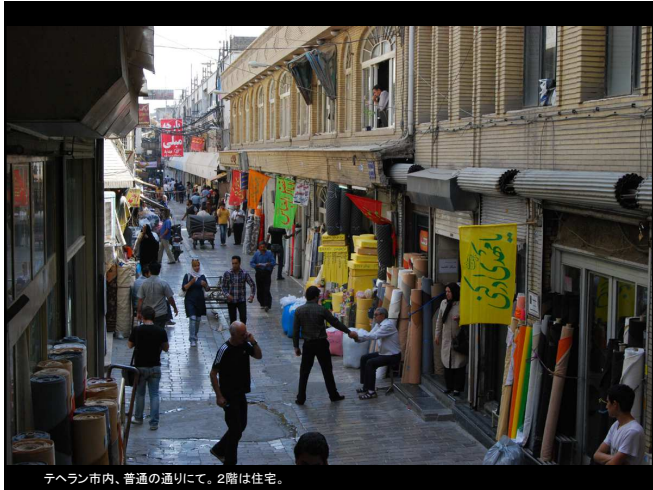


テヘラン市内での、繁華街などではない、ごく普通の市街地の交差点。



スーパーマーケットには、商品(食糧品)が豊富に。





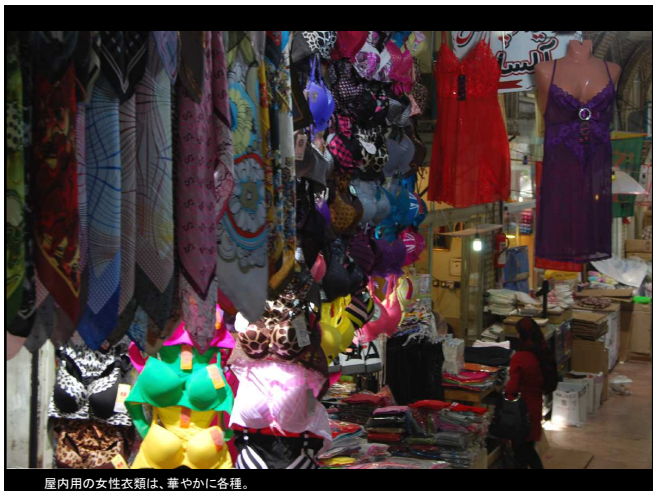
テヘラン市内、普通の通りにて。2階は住宅。



街路に面した商店。



大賑わいの、伝統的なバザール入口。



屋内用の女性衣類は、華やかに各種。





市内での、昼の盲段の状況。(バスの窓から。)

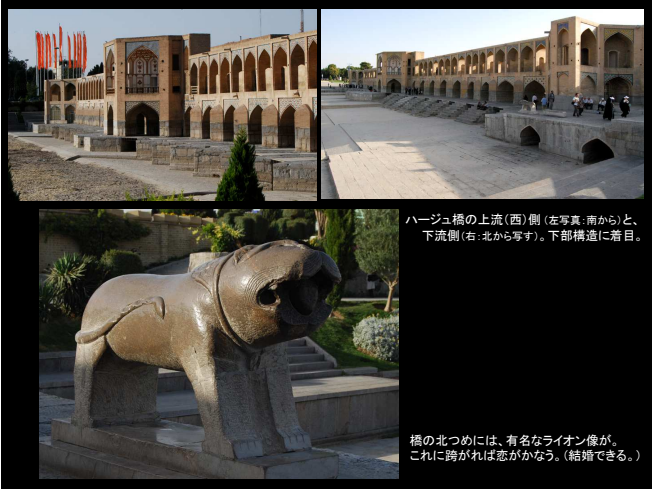
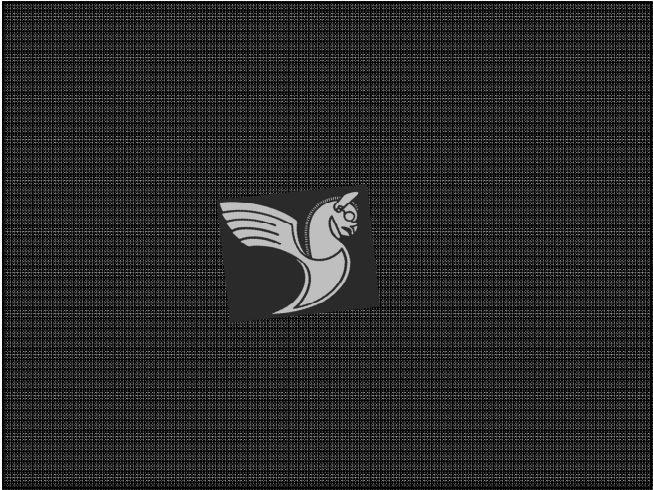


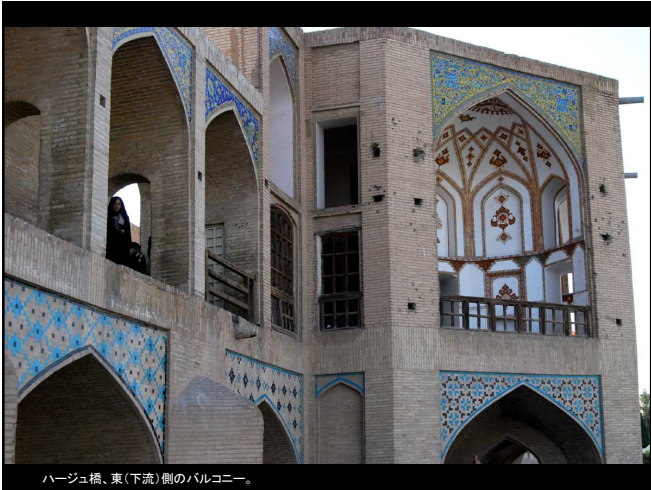
平日夕方の、郊外から市内への幹線道路の状況。

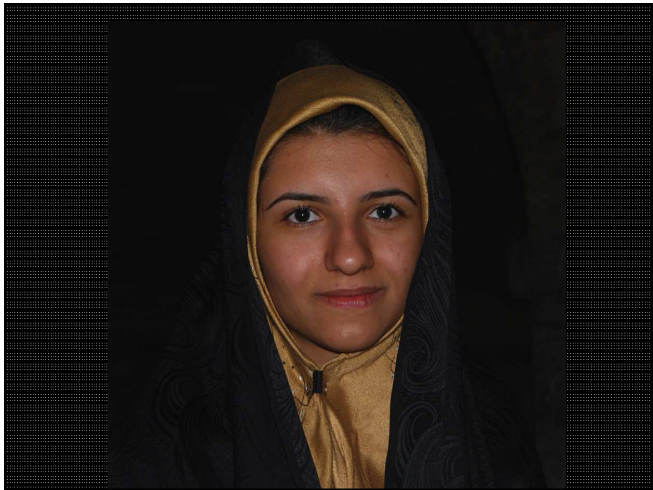


通勤列車は数分ごとに、どの列車も総二階車結。









スィー・オ・セ橋の北 (kowsal International Hotel の対岸) にある、ショッピングモール内にて。





スィー・オ・セ橋北つめて、朝。



イスファハーン市内の公園にて、朝のくつろぎ。



イスファハーン市内の日中。





イスファハーン「王の広場」を囲む廻廊一階に設けられている市場(伝統的なバザール)にて。

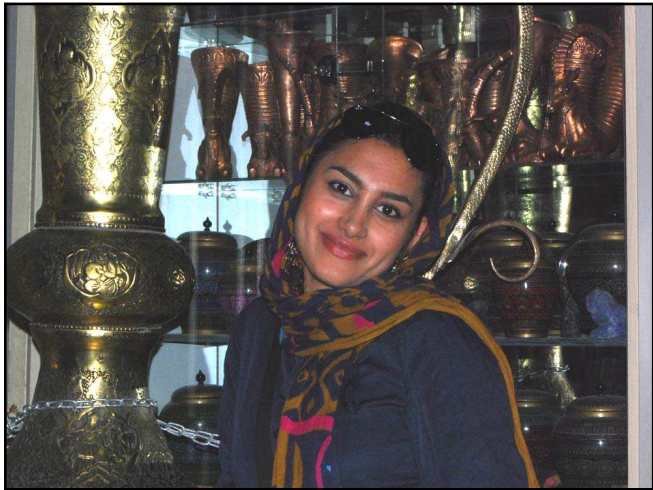
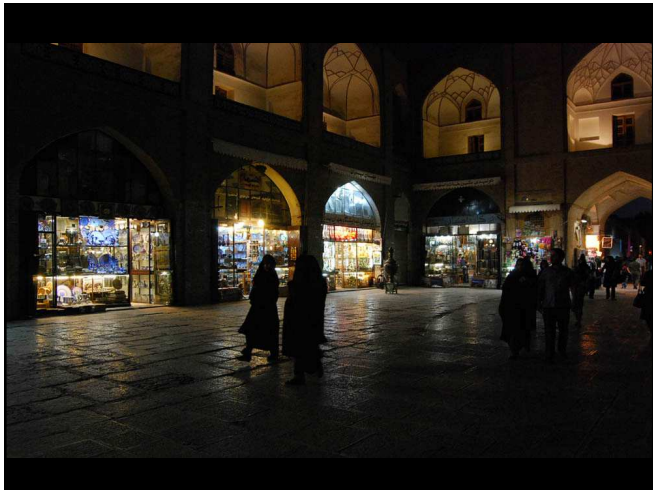


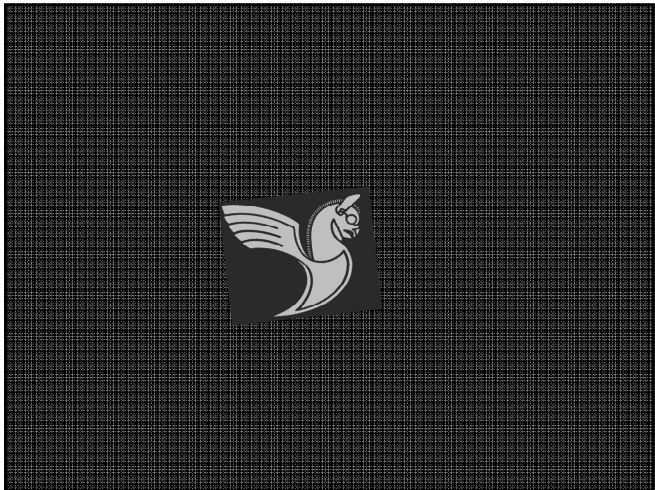


チャードル姿とは裏腹に、原色の布地・衣類が。



イスファハーン「王の広場」。夏の涼しい夕暮れともなれば、大勢の人々が。





② -3 シラズ市内にて



ホテル上階から見た周辺の景観。シラズは乾燥地帯の中の巨大なオアシス。



市内中心部のキャリム・ハーン城塞と、その広場。



シラーズにも、伝統的な、巨大な市場が。





女性は、家庭内では、このような色彩豊かな衣類を。





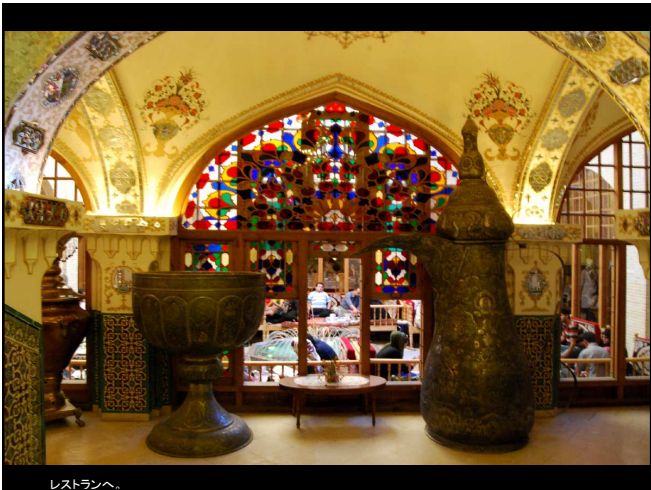
シラーズの繁華な商店街にて。







市内の公園には、様々の遊具も。



レストランへ。



店内の噴水脇の、伝統的な語り部の場。





伝統音楽の楽団。歌手は必ず男性。



レストランの壁面装飾。







延々と、酷暑・酷乾の大地を。



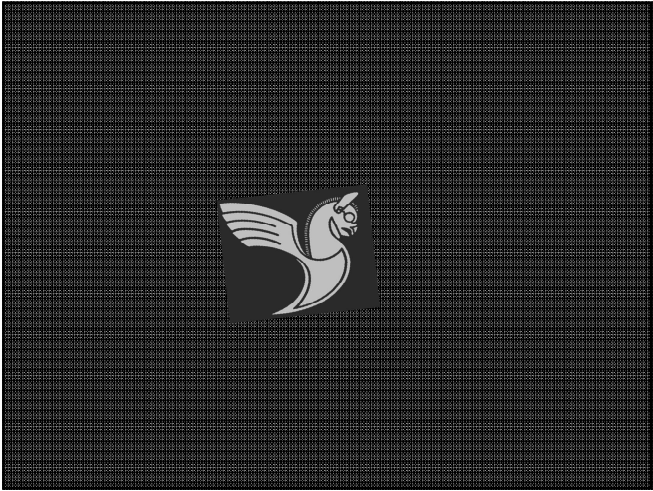
郊外の有様：パサルガダエで
アケメネス朝の遺跡を見た後、
炎熱の沙漠を、更に、イスファハーンへ向けて。



水が得られる地では農耕も。麦の刈りあとと、羊。



途中のオアシスにあった小さなモスク。



③ その遺跡紹介

1. シラーズ近郊のペルセポリス(アケメネス朝の祭祀都市：前6～前4世紀)

2. イスファハーン「王の広場」とその各種建物
同 市内の ハーシュ橋などと、サデー・ハーフス墓

3. アケメネス朝発祥(前6世紀)のバサルガダエ遺跡とキュロス王墓など

4. ササン朝(3～7世紀)のナグシェ・ロスタム遺跡など

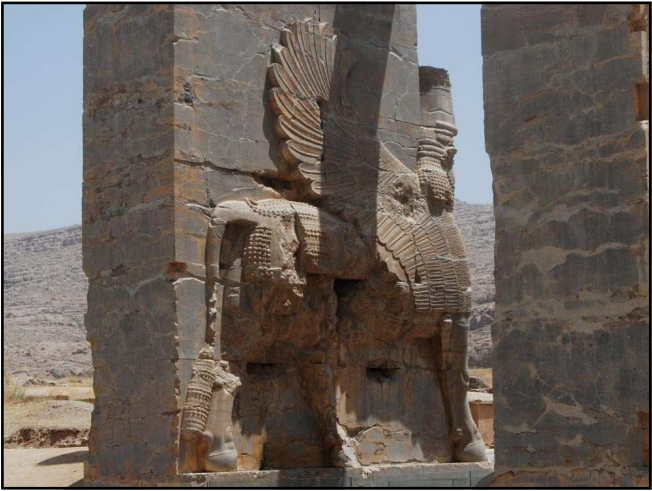
5. アラムート城址：ハッサン・サッパーフの城塞で、13世紀のモンゴル軍によって破壊

③ -1 シラーズ近郊のペルセポリス(アケメネス朝の祭祀都市：前6～前4世紀)

(英版ウィキペディアより)

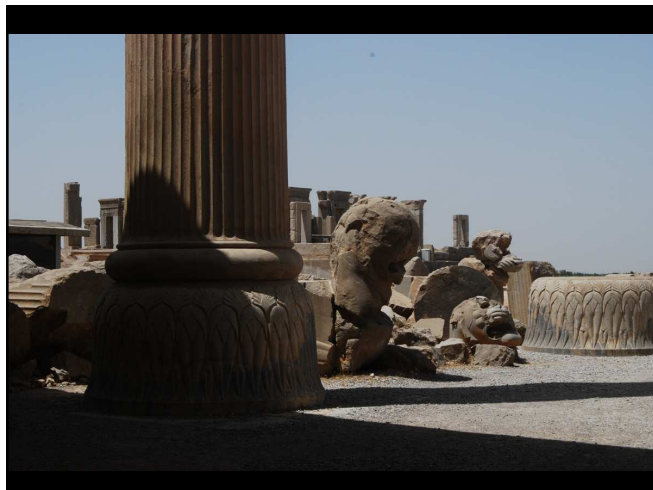
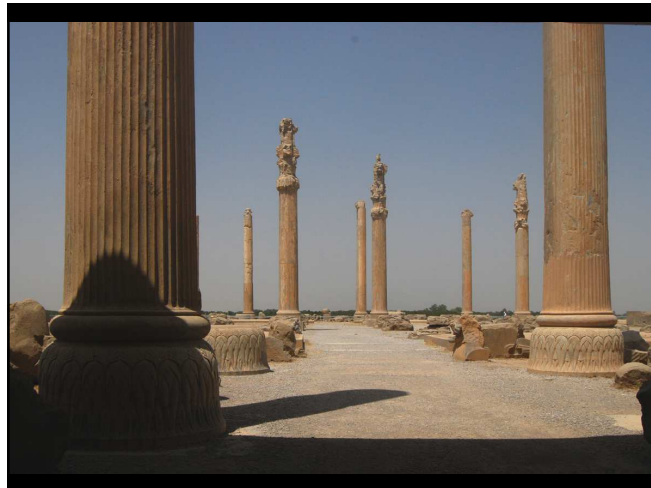


ペルセポリス、正面より：前方基壇の上に聳えるのは、クセルクセス門（万国の門：次ページに）。

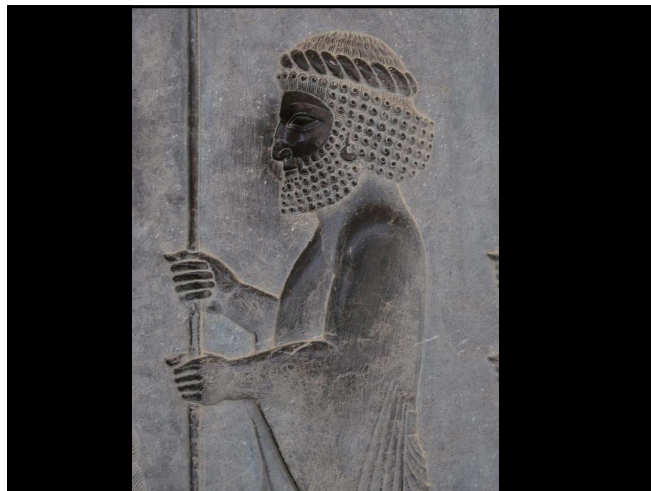


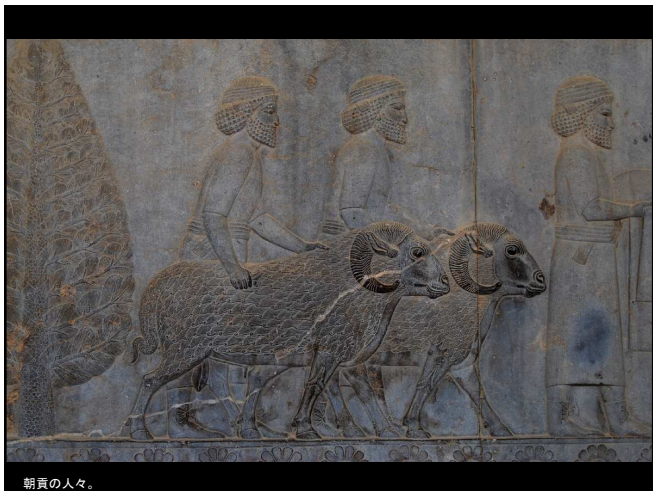


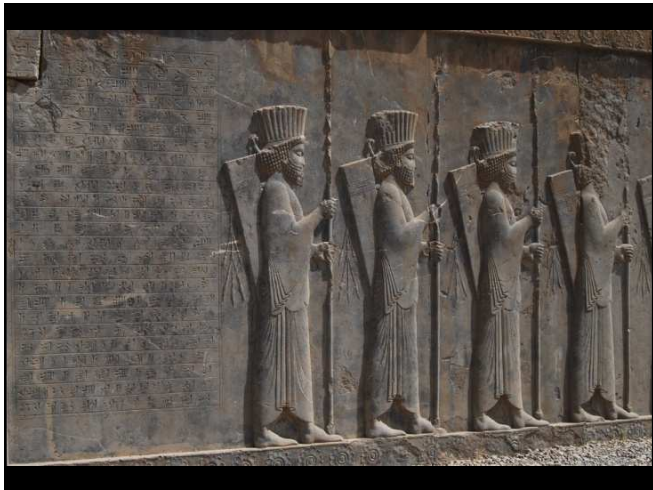
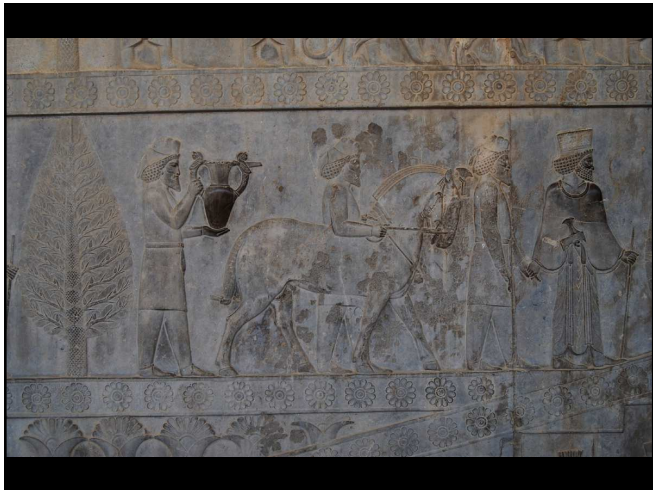
ペルセポリス、アパダーナ(謁見の間)の列柱。



ペルセポリス、アパダーナ(謁見の間)入り口階段の側面。







クセルクセスⅠ世宮殿
(ハデーシュ)の、大王と侍臣。



百柱の間の、勇者と野獣。



百柱の間より、アルタクセルセス二世王墓を見る。
次ページで、その墓室前へ登る。



アルタクセルセス二世王墓。



墓のレリーフに見る建物の構造。双頭の鷲像の間に梁が入る。



アルタクセルセス二世王墓より見たベルセポリス中央部分。手前より、兵營、百柱の間、アバダーナ(謁見の間)。
左奥は博物館。その手前は宝庫など。(アバダーナには、ここに見るように、現在は、大きな飯鉢の屋根がかかっている。)



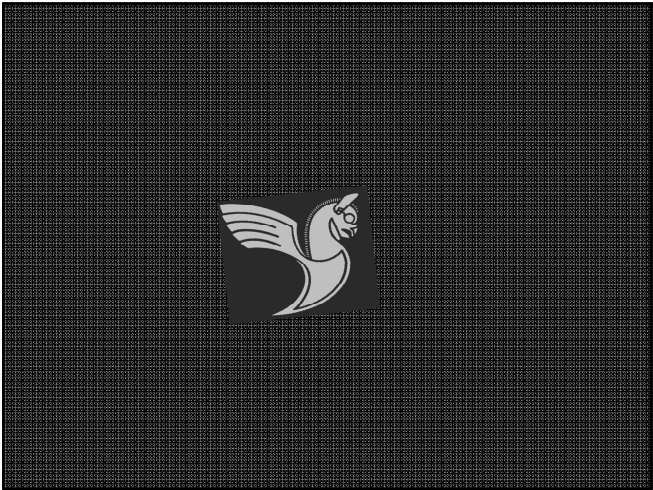
研究者により復元された神殿の構造。石製列柱の上はレバノン杉材で覆かれた屋根。

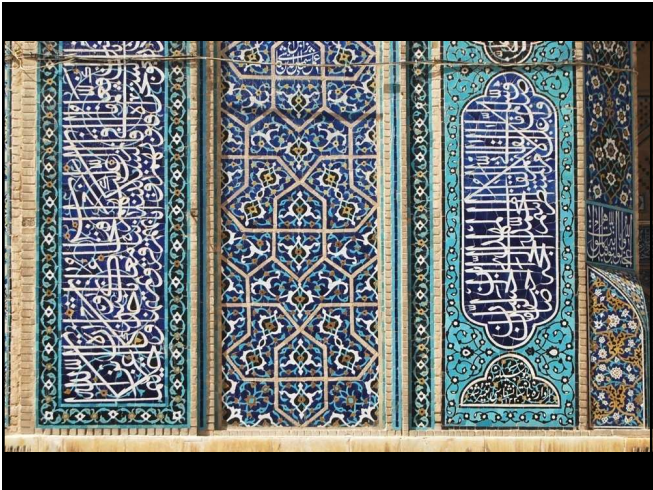
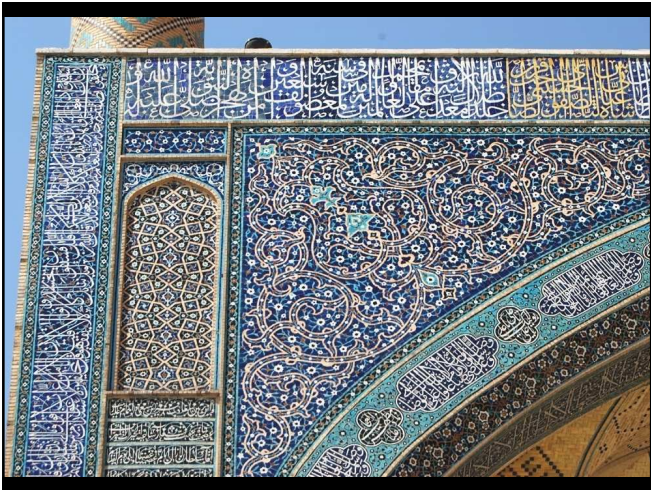
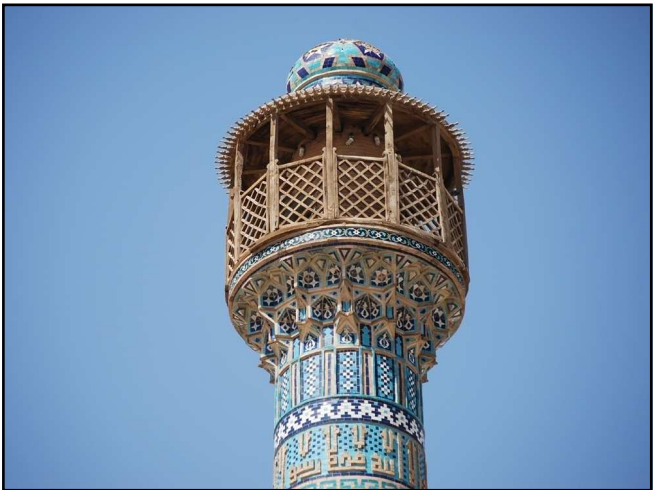
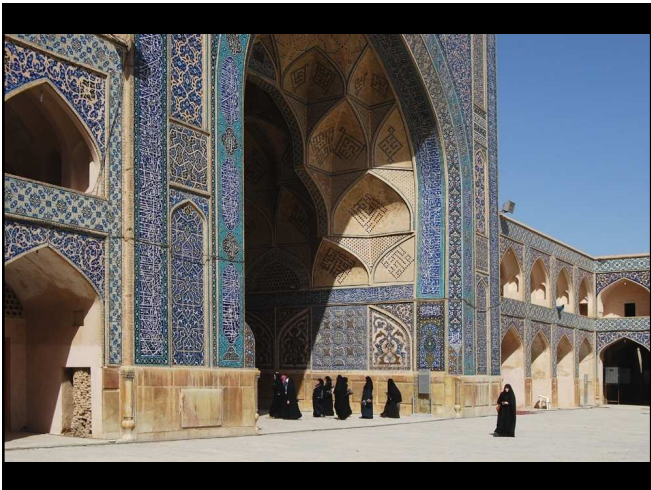
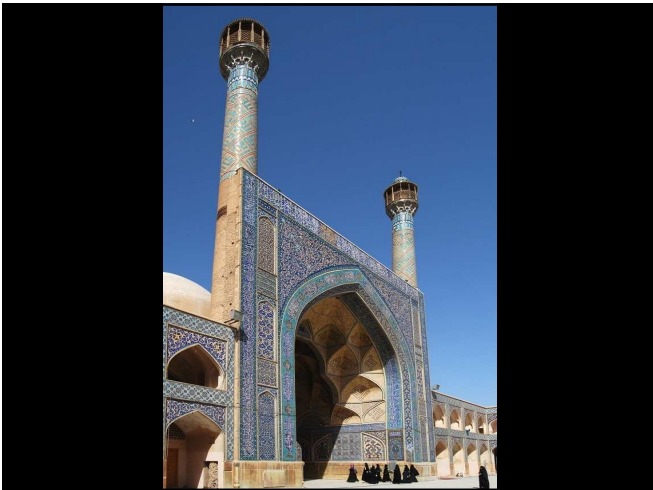


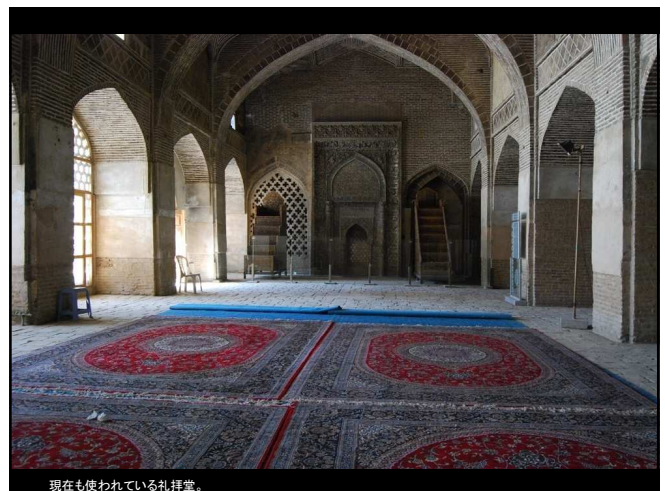
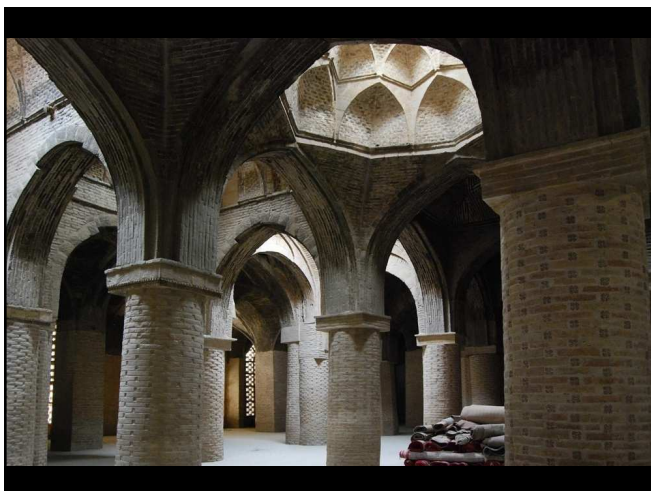
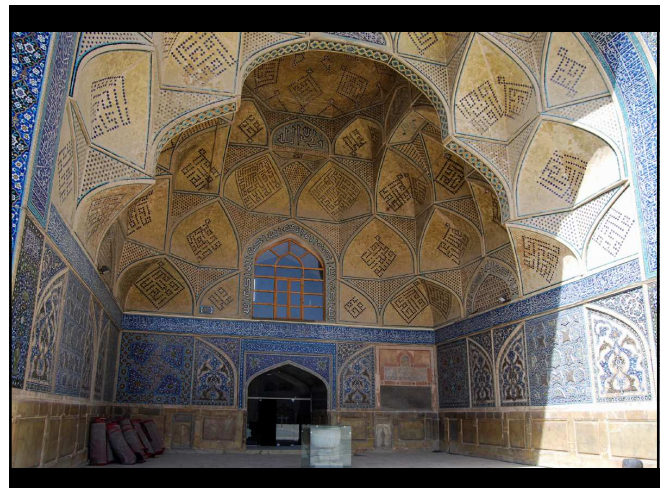
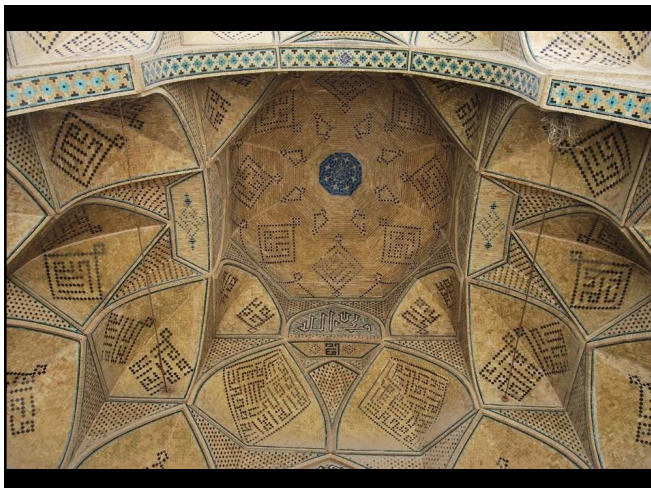
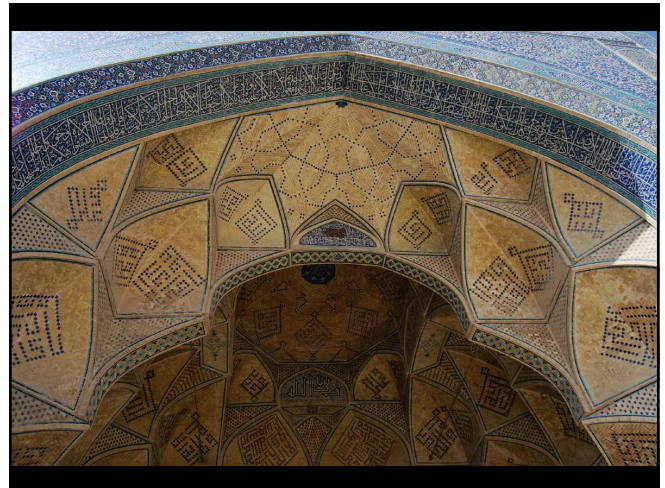
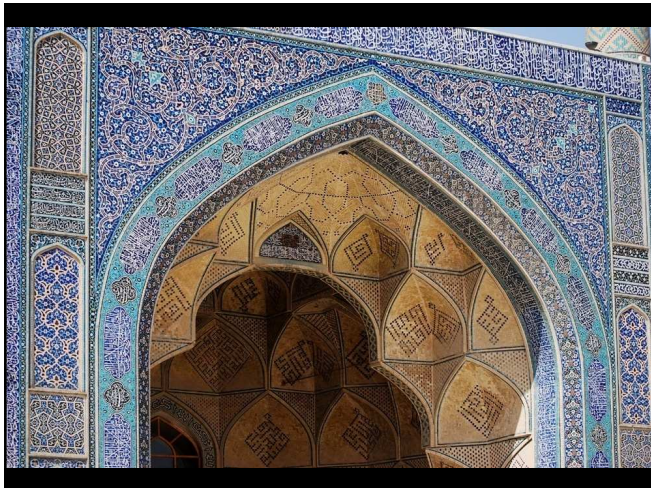
イラン航空シンボルマークの、双頭の翼。



イランは、出版の面でも大国。売店にあった、ペルセポリス関係の書籍。



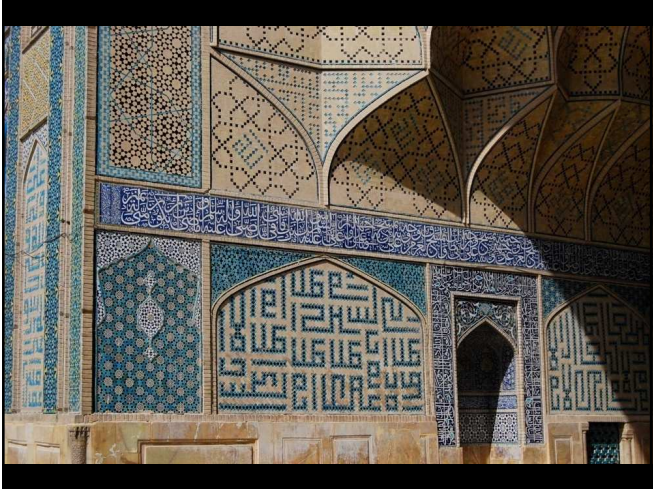
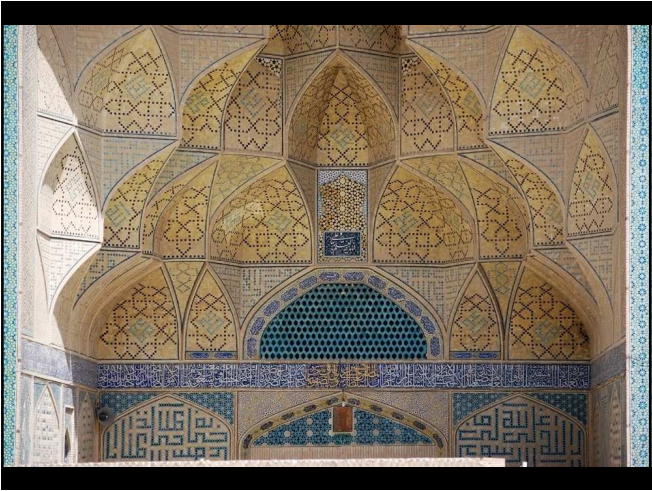
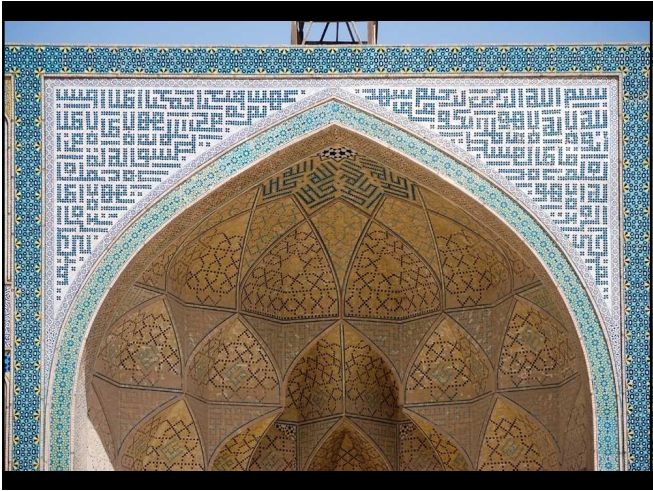
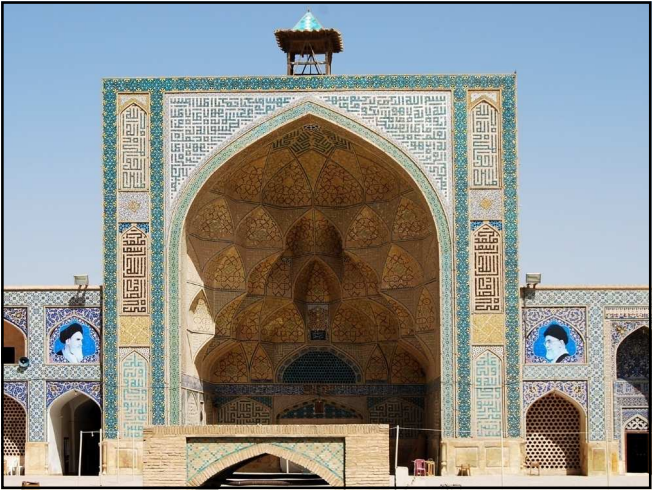


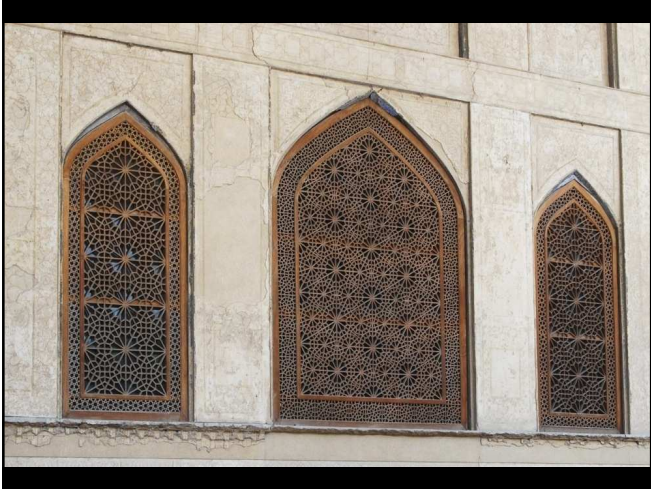
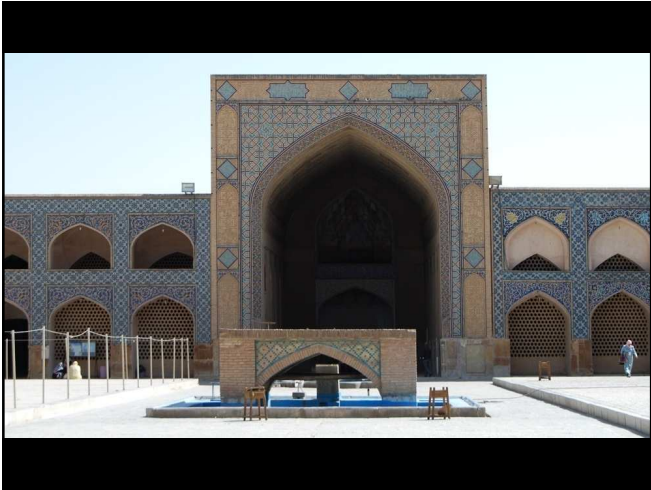


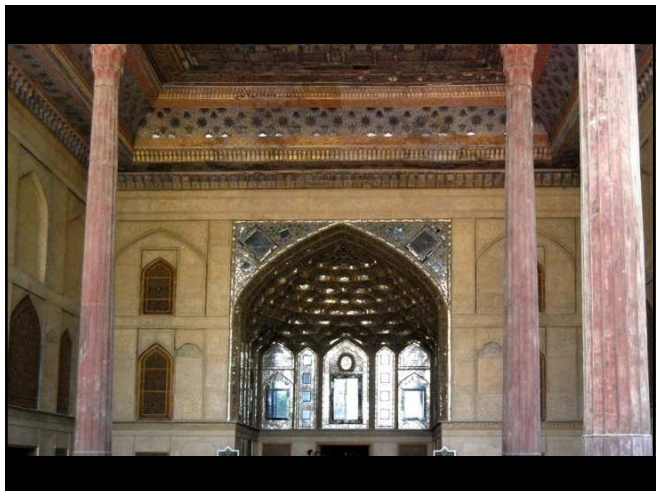
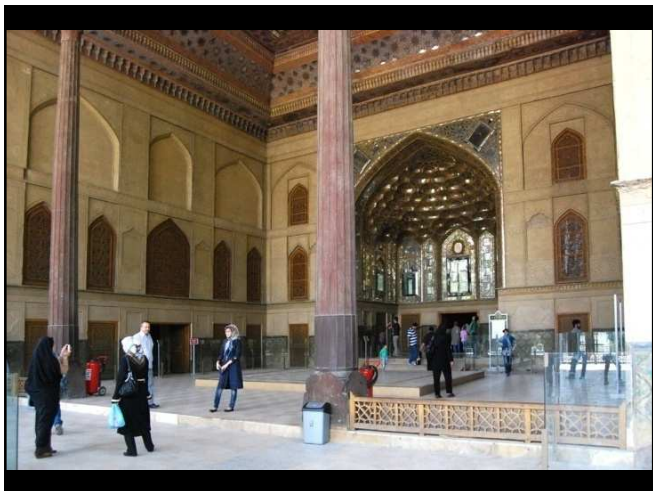
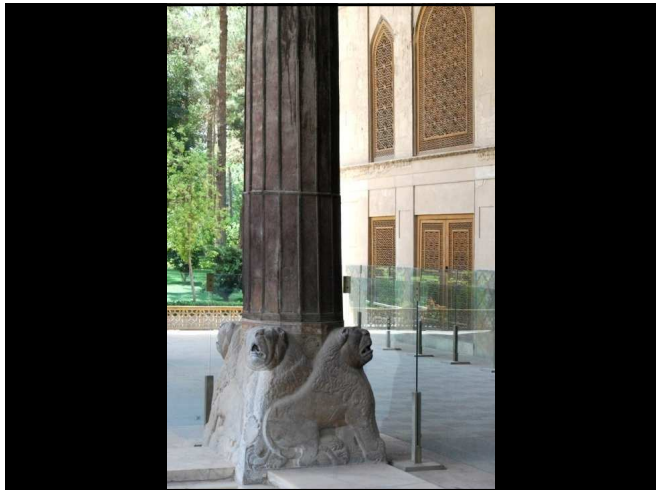
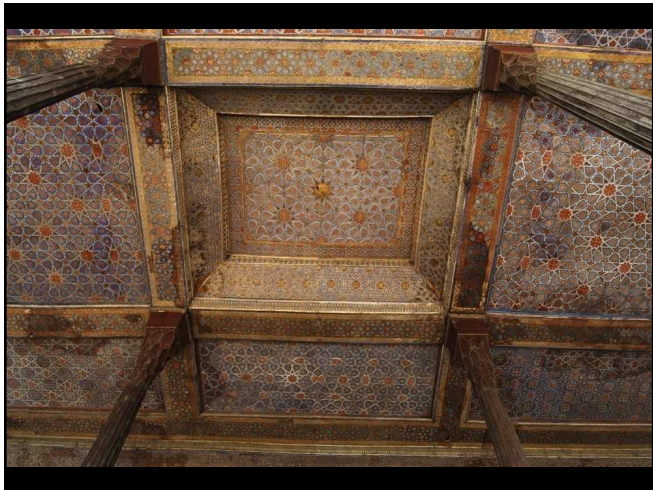
現在も使われている礼拝堂。



壁面には、ホメイニ師が！？







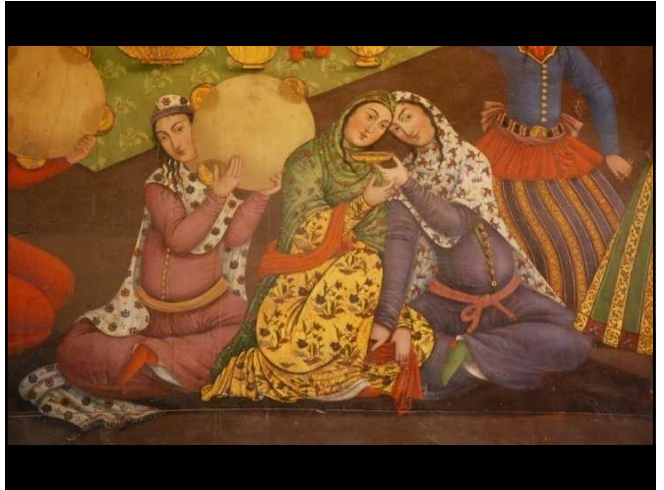


建設当時は柱をも覆っていたという、鏡を使った装飾。



壁面には、サファヴィー朝の栄華を偲ばせる歴史画が。



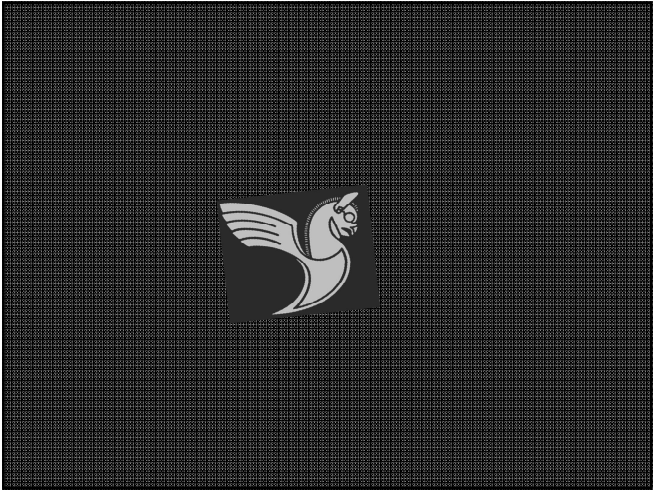


左人物の部分拡大を、次ページに。

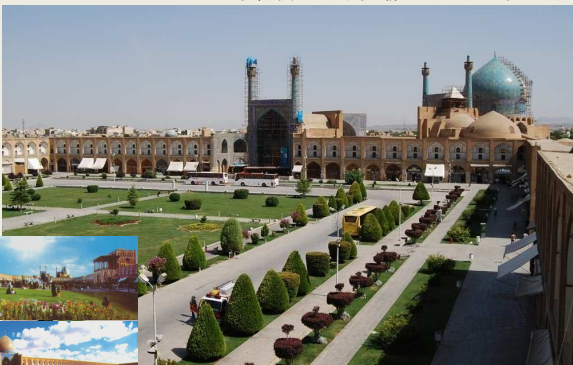




こちらには、伝統的なペルシアの絵も。

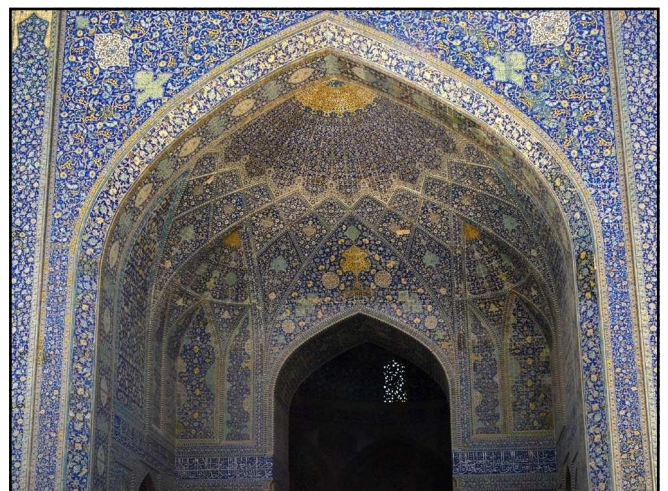
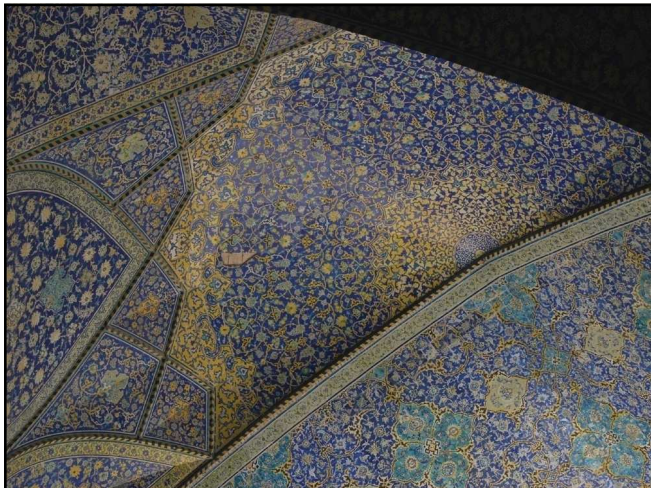
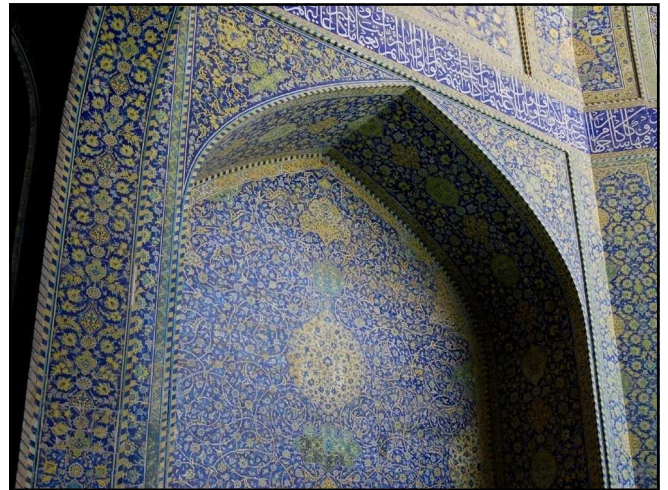


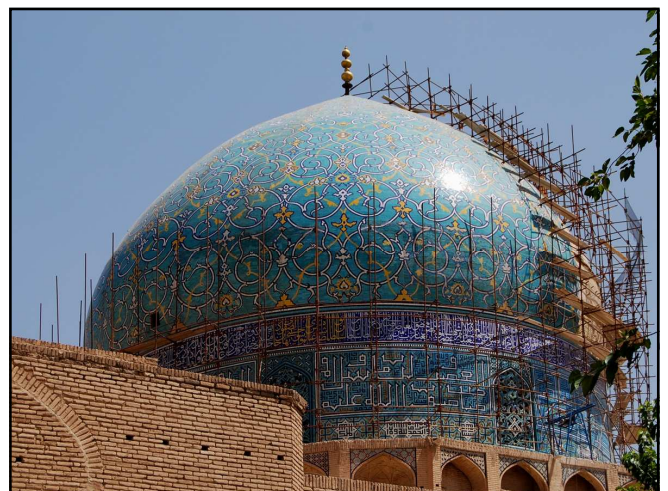
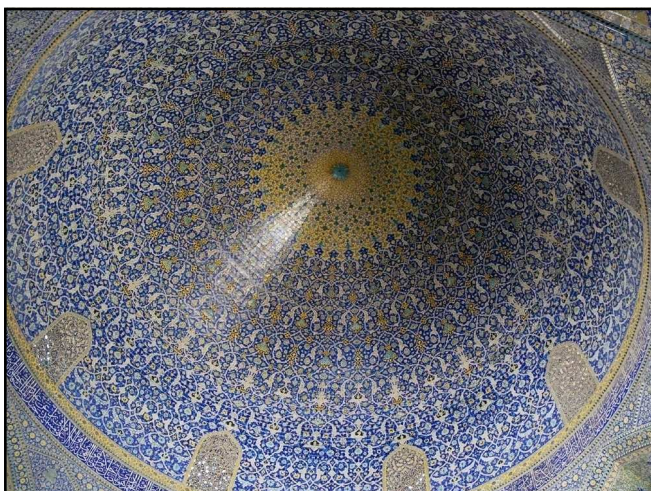
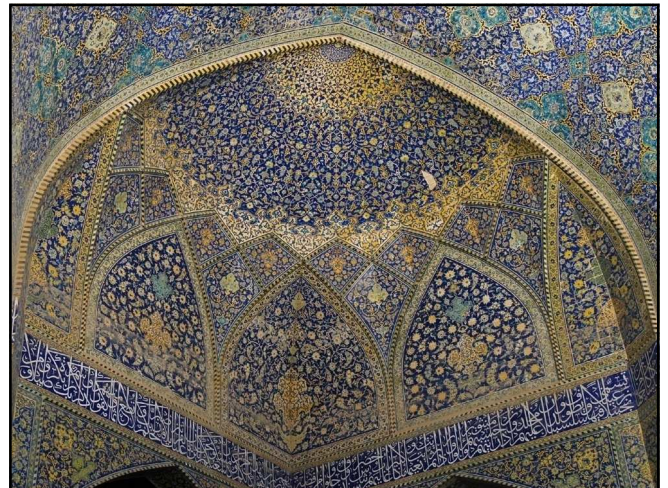
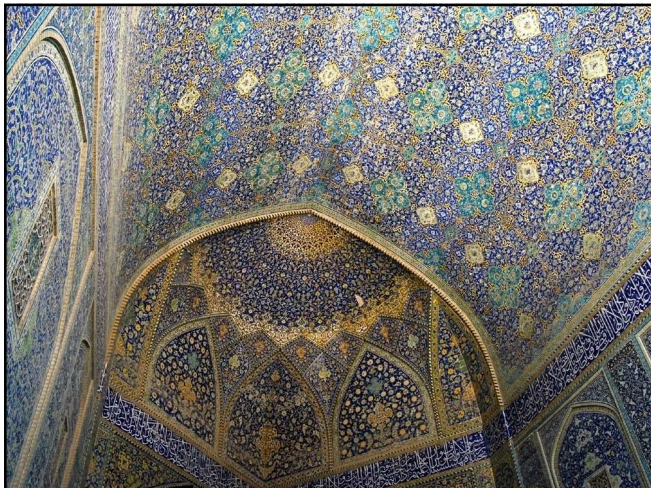
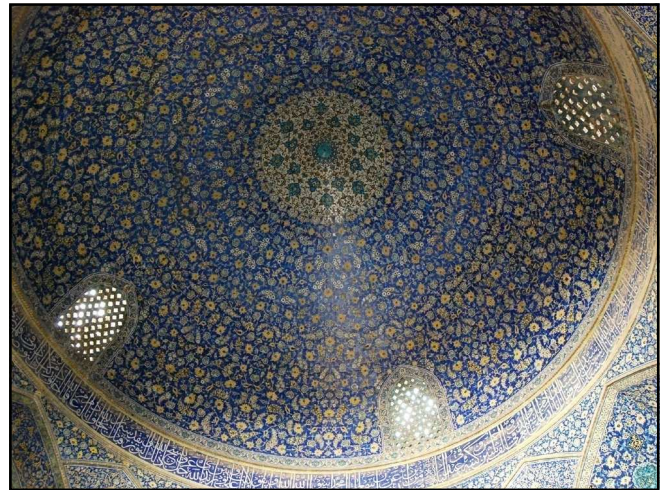
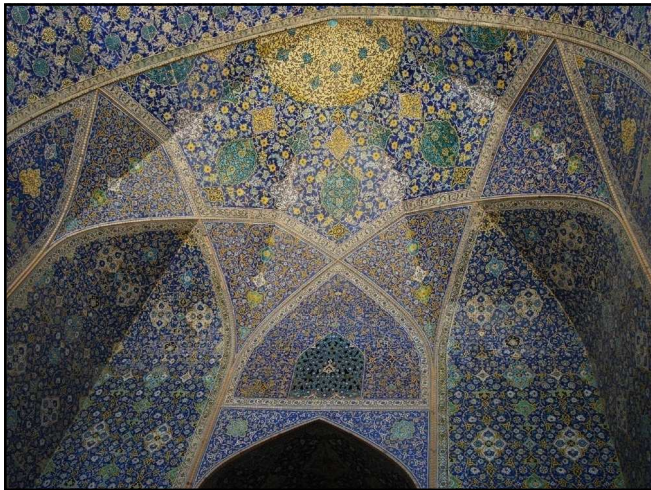
③ -2 つづき **イスファハーン「王の広場」と、その各種建物、市場など**
16世紀末、サファヴィー朝のアッバースⅠ世による

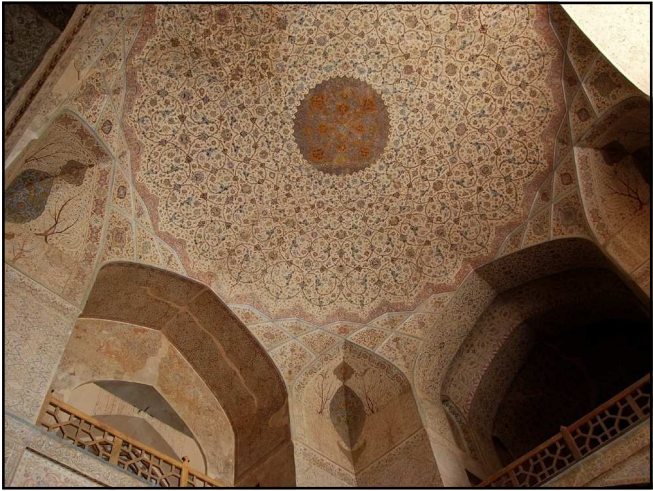
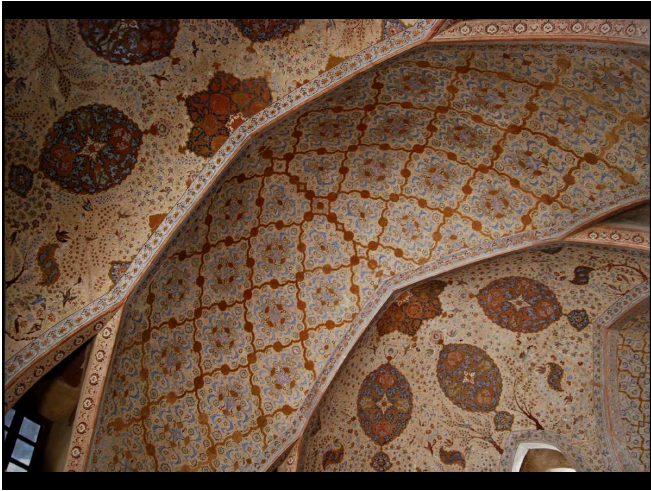
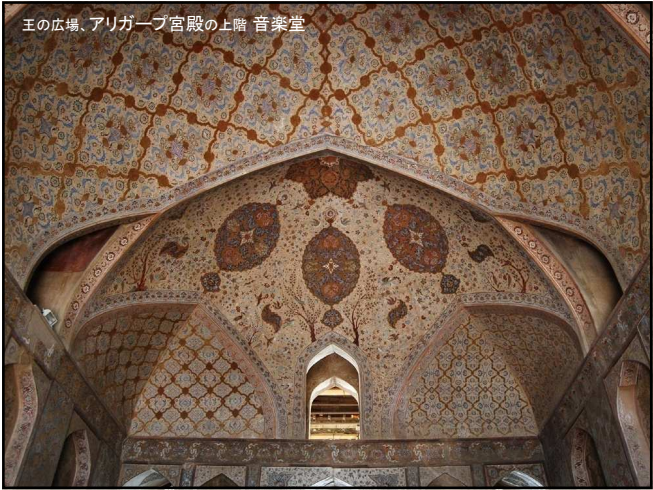


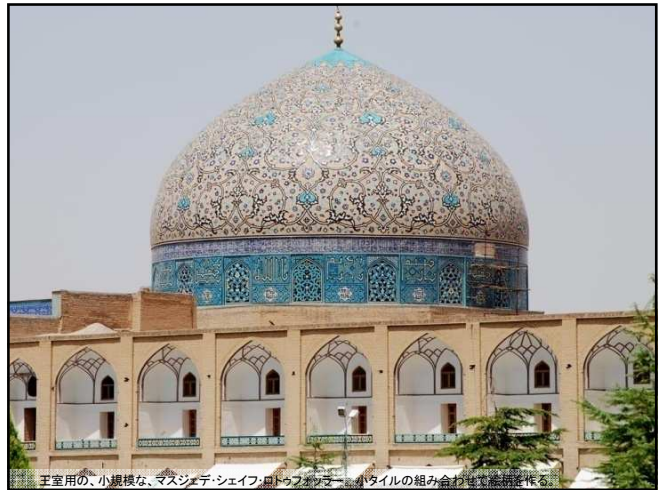
「王の広場」（現称「イマーム広場」）の本来の姿は、左のようらしい。
（ともに、イスファハーン・Kowsarホテルのパンフレットより。）
左は、上写真の正面「ブルーモスク」の左手にある、「シェイフ・ロトファッラ・モスク」。



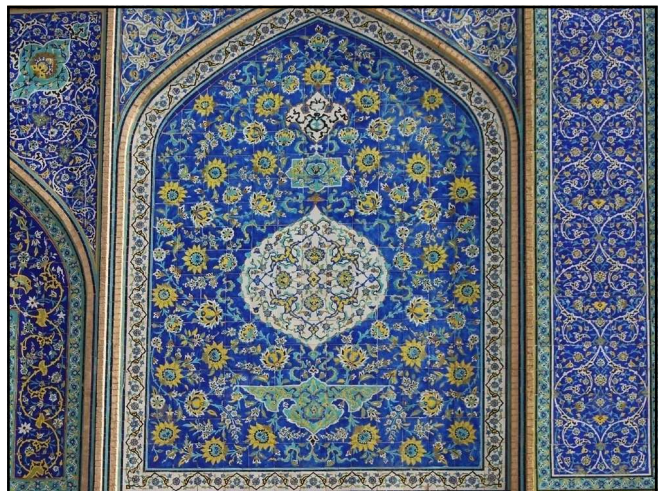
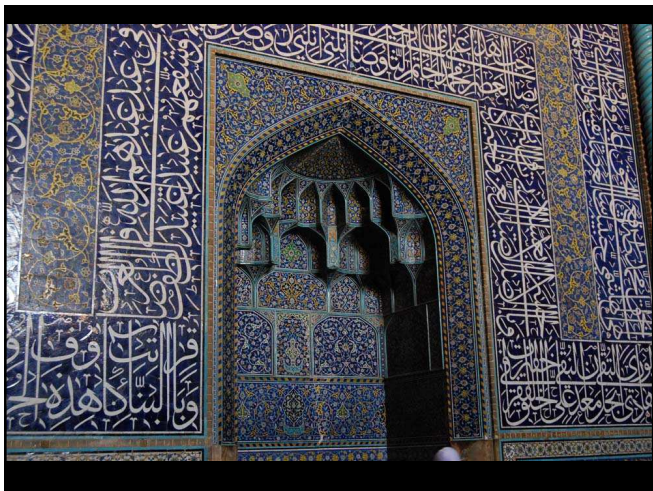
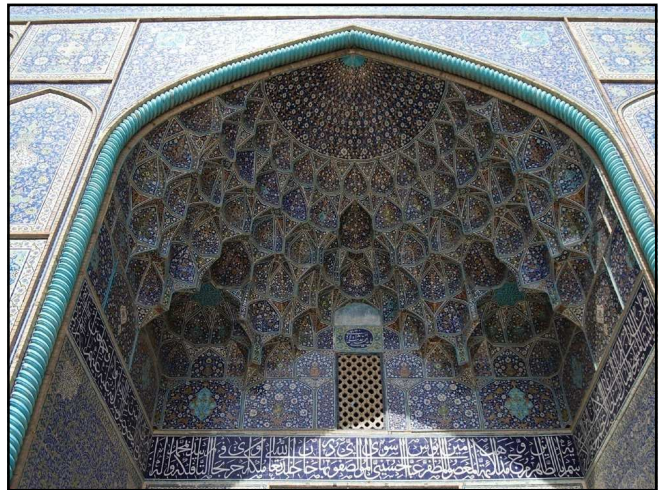








王室用の、小規模な、マスジェデ・シェイフ・ロドゥフ・カザーン。タイルの組み合わせで彩りを添える

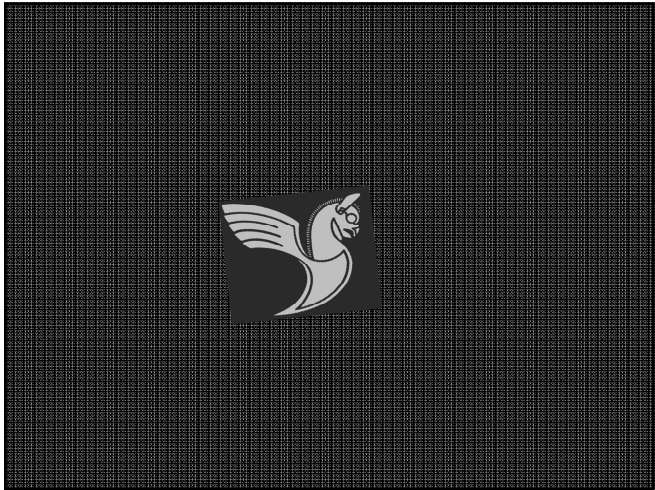




天頂部から光が差しているように見えるが、これは、天井曲面での光の反射が見せる現象。



イスファハーン「王の広場」。夏の涼しい夕暮れともなれば、大勢の人々が。



③ - 2 つつき **イスファハーン市内**（ハージュ橋などと、サーディ・ハーフェズ墓）と、アルメニア正教会

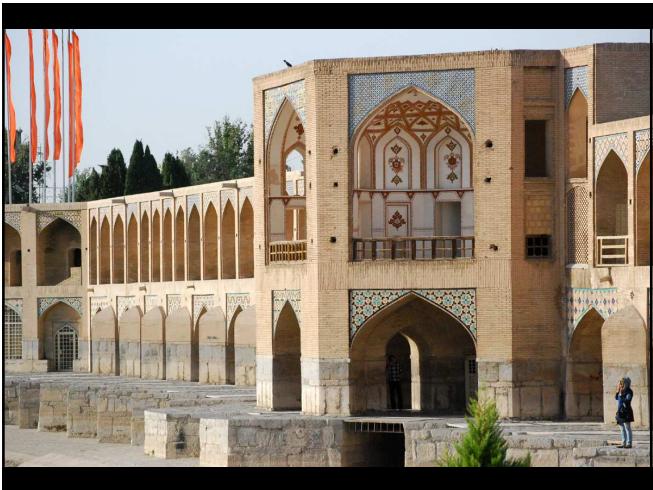
西から東に流れるザーヤンデ河にかかる、スィー・オセ橋（33アーチ橋）の上流側。この東2kmにハージュ橋。



スィー・オ・セ・ポル：2階建ての1階部分は、夏も涼しい絶好のくつろぎ場所。

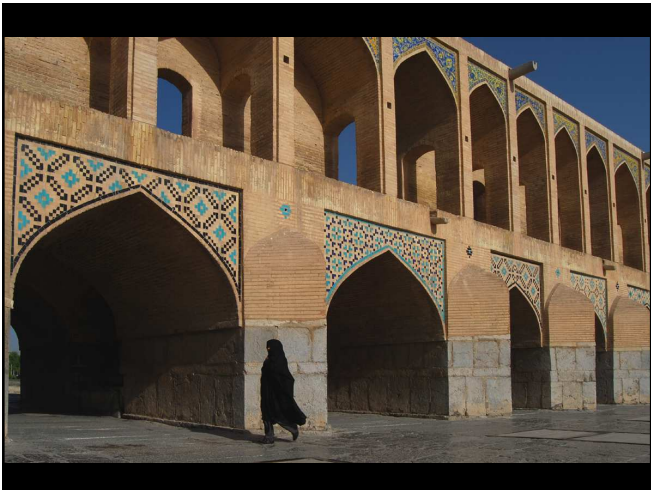


ハーजू橋の上流（西）側：夏は洪水期だが、融雪期には満々と水をたたえる。（左はコウサルホテルのパンフより。）



ハーजू橋の下流（東）側。





以下、ハージュ橋 上部通路の装飾。





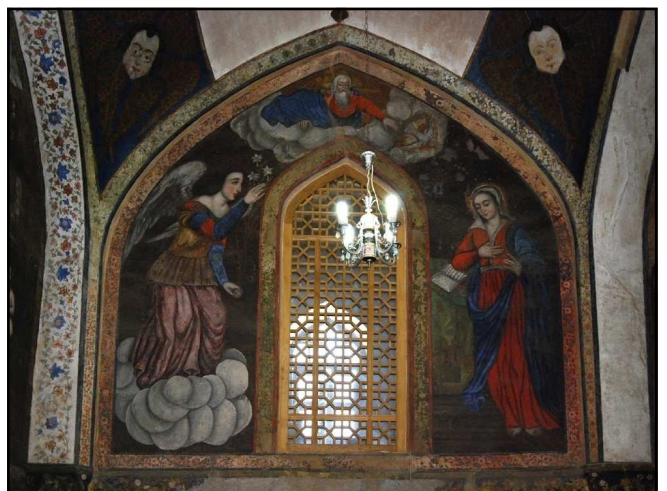
スィー・オ・セ橋：涼しい夕暮れともなれば、燈がともって、人々のそぞろ歩きの。



アルメニア人居住地区にあるヴァンク教会(アルメニア正教)

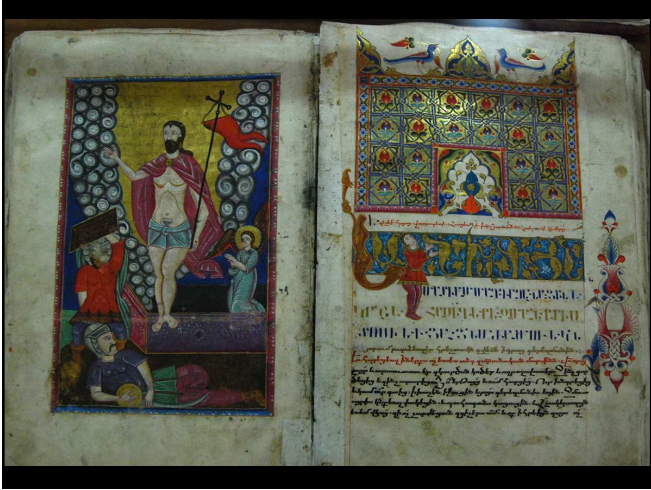
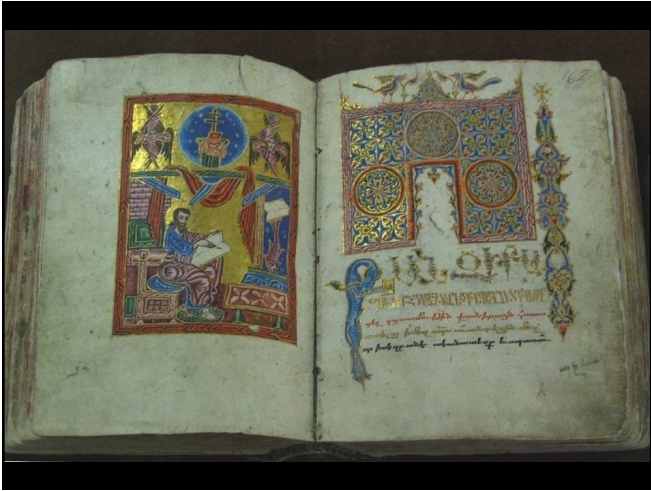


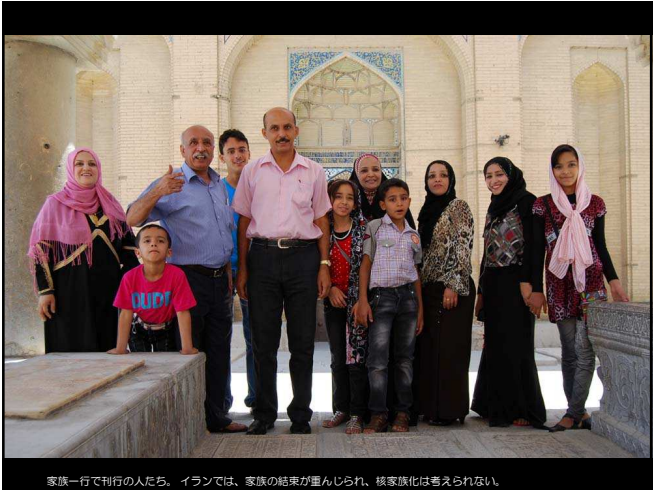
アルメニア人居住地区。





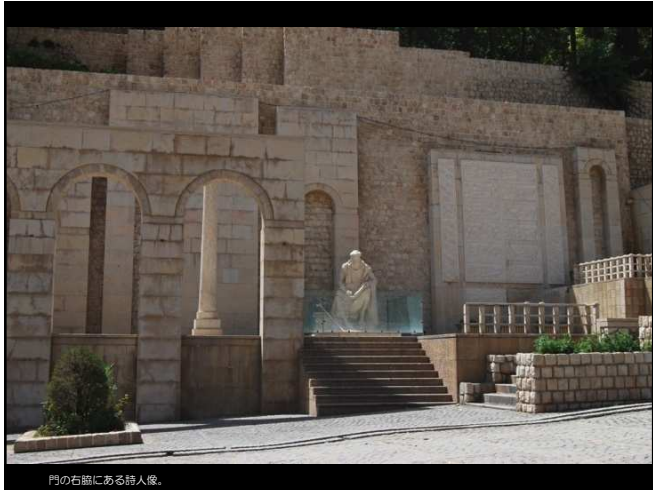
豪華装幀の聖書や聖歌集が。





家族一行で刊行の人たち。イランでは、家族の結束が重んじられ、核家族化は考えられない。





門の右脇にある詩人像。

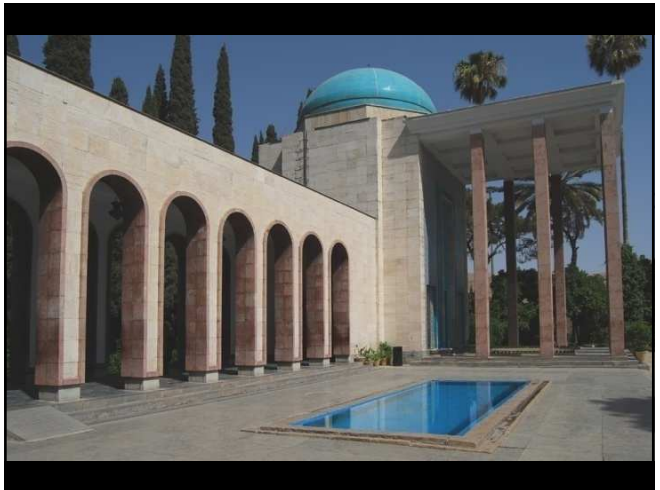


門をくぐって、外側を見る。詩人像は、門の外、左に。



古くから、詩人が暮らせる国

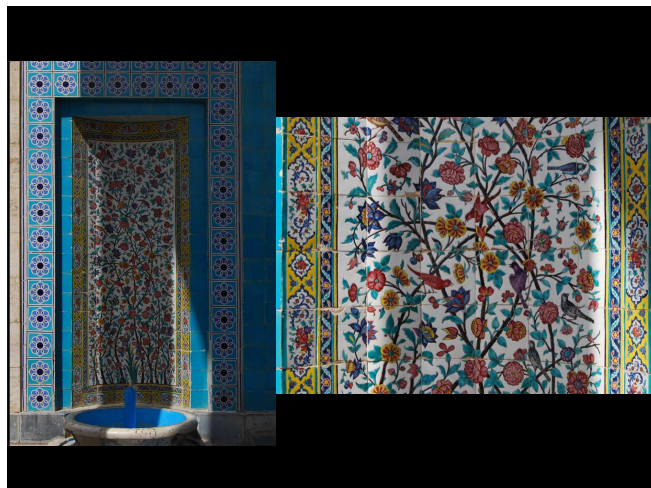
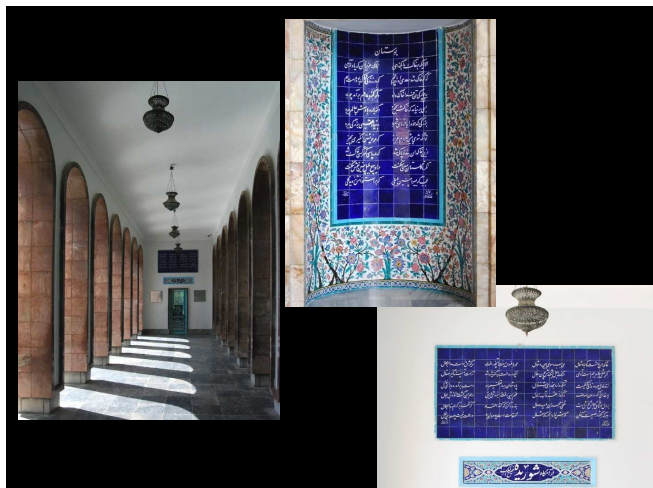
水と緑が豊かな、サアディー廟。



ドーム屋根下の、
大理石製サアディーの棺。



「イランの現況と、自然・遺跡・人々ー 附：19世紀の史料に見る踏査小史」
(当日の金子さんご依頼により、末尾にルバイアートを追加の版。)





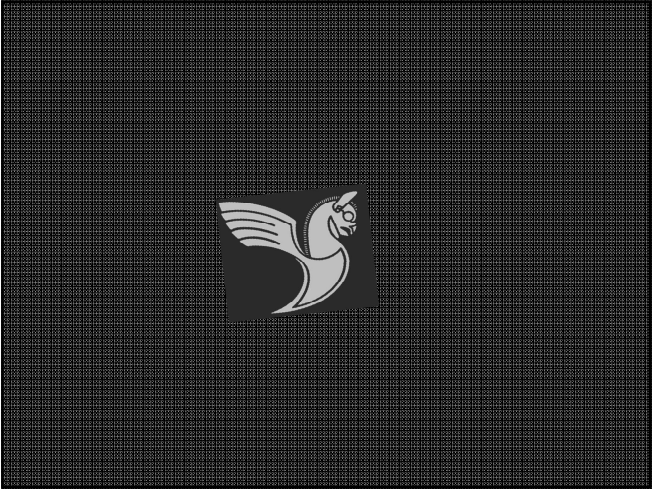
大理石の棺をさすって、詩人を偲ぶ人たち。



ともに詩を語るべき友を待つ。



市内の、キャリームハーン城塞広場近くで、
建物壁面に見たタイル装飾。



④ -3 アケメネス朝発祥(前6世紀)のハサルガダエ遺跡とキュロス王墓など

ペルセポリスの北東にあるハサルガダエは、紀元前546年にキュロスⅡ世によって建設が開始されたペルシャ帝国の最初の首都。後に、ダレイオス(ダリウス)Ⅰ世がスーサに遷都。



アレクサンダーは、ペルセポリスを破壊した後に、このキュロスⅡ世墓を訪れたとされる。イスラムによるペルシア征服時代、アラブ軍はハサルガダエにたどり着いた際に、遺跡を破壊する計画を持っていた。当時の墓守は、アラブ軍隊に、これがソロモン王の母を祀るものと説明、信じさせる事によって、破壊を回避した。その結果、墓碑は、クルアーンの韻文に取って代わられて、ソロモン王母の墓として知られるようになった。(ガイドの説明及びウィキペディアにも同趣旨。)



キュロスⅡ世の墓と伝えられる。墓室は上部に。



酷乾の大地には、遺跡を包蔵するマウンドが点々と



丘の上に登る、タヘタフト城塞遺址。





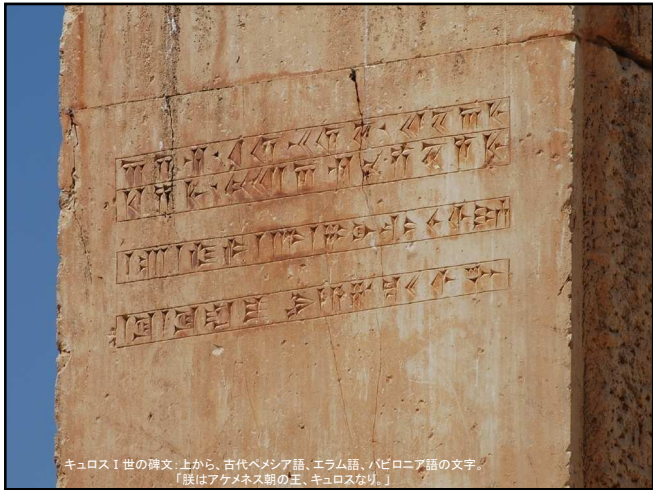
パサルガダエは、ダレイオス(ダリウス)Ⅰ世がスーサに遷都するまでの首都。



「魚」を主題としたものが多い。

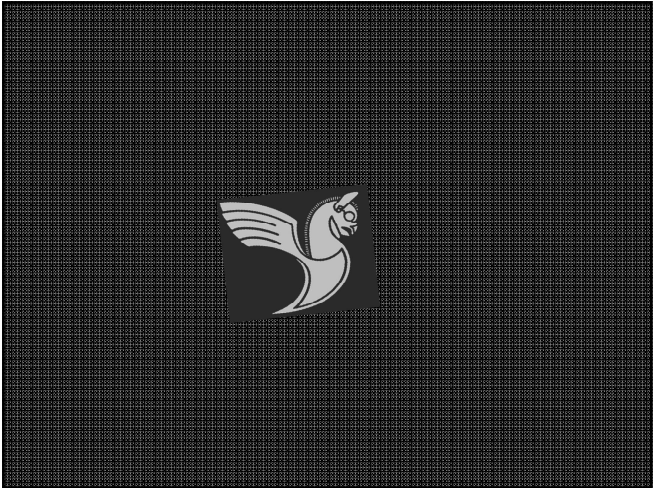


この石標に刻まれた碑文を、次頁に。



キュロスⅠ世の碑文。上から、古代ペルシア語、エラム語、バビロニア語の文字。
「朕はアケメネス朝の王、キュロスなり。」





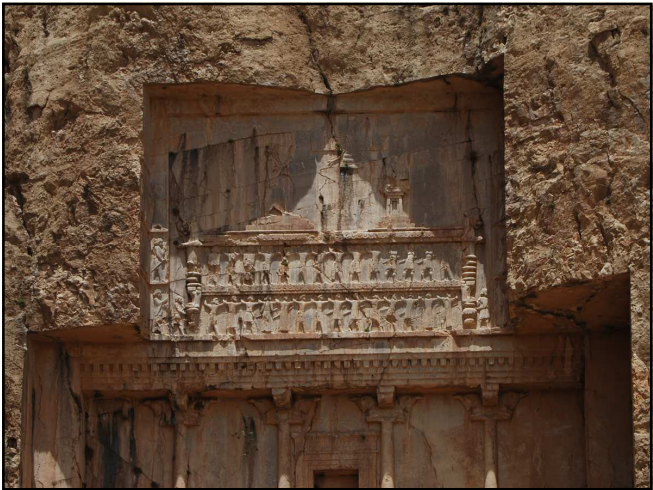
④ -4 アケメネス朝(前6～前4世紀)とササン朝(3～7世紀)のナグシェ・ロスタム遺跡 など

(英版ウィキペディアより。)

ペルセポリスの北方にある巨岩の遺跡、ナグシェ・ロスタムのパノラマ写真。
岩壁にはアケメネス朝時代の王墓や、ササン朝時代のレリーフ(浮き彫り)が刻まれている。
付近にはナグシェ・ラジャブもある。(10数ページあとに紹介。)
4つ並んだ墓は、右から、クセルクセスⅠ世、ダレイオス(ダリウス)Ⅰ世(これのみ碑文から確実視)、
アルタクセルクセスⅠ世、ダレイオスⅡ世と言われている。

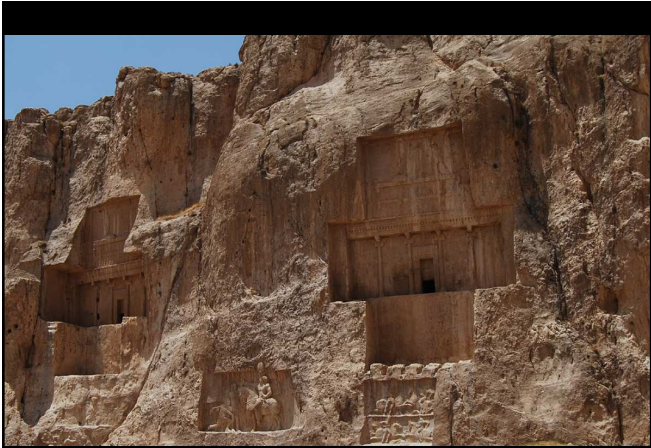
ナグシェ・ロスタムの主要部分

伝承によれば、↑ダレイオス(ダリウス)Ⅱ世 ↑アルタクセルクセスⅠ世 ↑ダレイオスⅠ世の墓
以下では、右から順に、形がよく残っているものご紹介を。最右端には、この写真にはないが、クセルクセスⅠ世の墓。





ナルセ I 世（ササン朝 在位：AC293～302年）の叙任。
ゾロアスター教の最高神アフラマズダー神から、王権の象徴を授与される。



ダレイオス I 世の墓(右)と、その下に「バハラム II 世の勝利」レリーフ。その左は「シャープール I 世に降服するローマ帝国ウァレリアヌス帝」レリーフ。左の墓は、アルタクセルクセス I 世。
以下、順に、



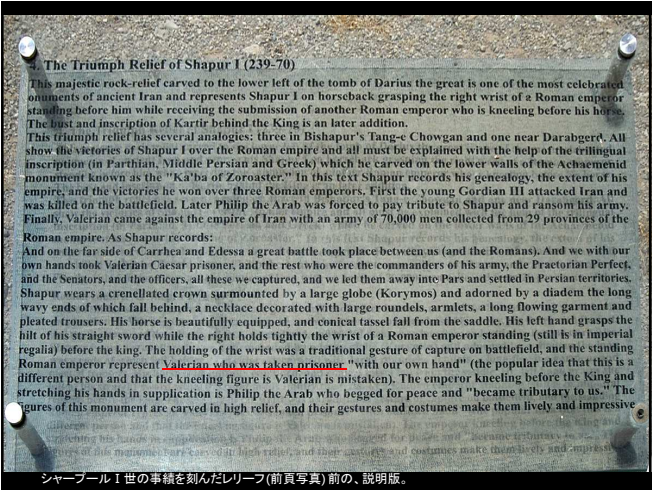
ダレイオス I 世の墓。アケメネス朝ペルシア第3代の王(在位：BC522～486年)で、通称「ダレイオス大王」。



ダレイオス I 世墓の下に彫られた、「バハラム II 世(在位：276～293年)の勝利」。

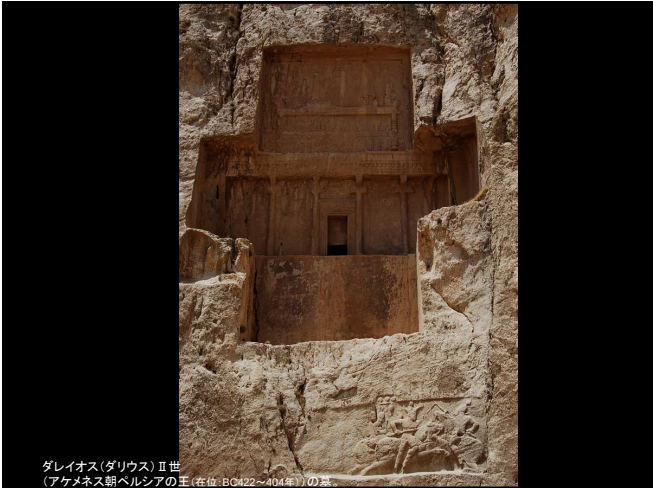


騎乗のシャープール I 世(在位：241～272年と、降服するローマ帝国・ウァレリアヌス帝(中央との説)ら。西暦260年のエデッサの戦い。





アルタタセルクセス I 世墓の下に彫られた、「ホルミズド II 世（在位：302～309年）の勝利」。



ダレイオス（ダリウス）II 世
（アケメネス朝ペルシアの王（在位：BC422～404年））の墓。



ダレイオス II 世墓の下に彫られた、「シャープール II 世（在位：309～379年）の勝利」。



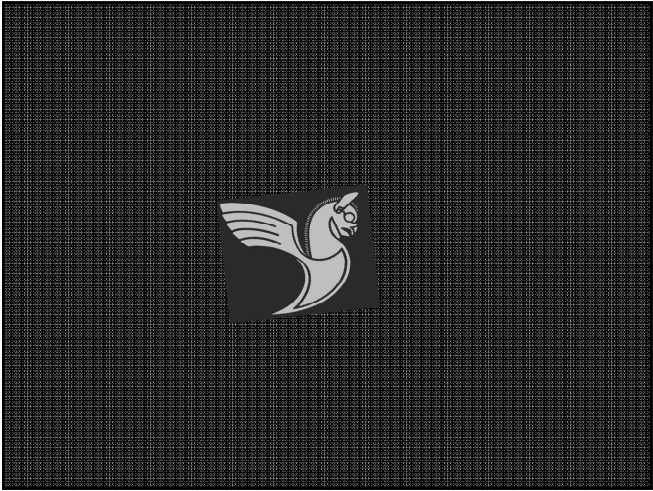
アルダシール I 世（在位：AC226～240年）のレリーフ **私見：ナグシェ・ロスタムで一番見事なレリーフ**
アフラマズダー神から王権の象徴を授与され、ササン朝ペルシアの初代君主（シャール・ハーン・シャール：諸王の王）に。
これによって、400年続いたアルサケス朝・ハルティアの時代が終わり、400年続くササン朝の始まりとなる。
なお、アルダシール I 世の後は、子のシャープール I 世（前述）が継いだ。（ウィキペディアなどによる。）
これと次ページのレリーフは、前に説明の全景写真の、さらに左にある。



そのすぐ右にもレリーフ。



ゾロアスター教の祭壇とも言われる？







見えてきたアラムート城址の山



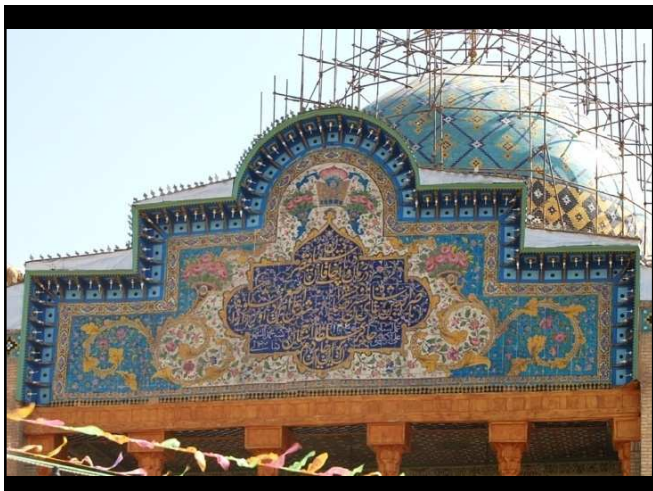
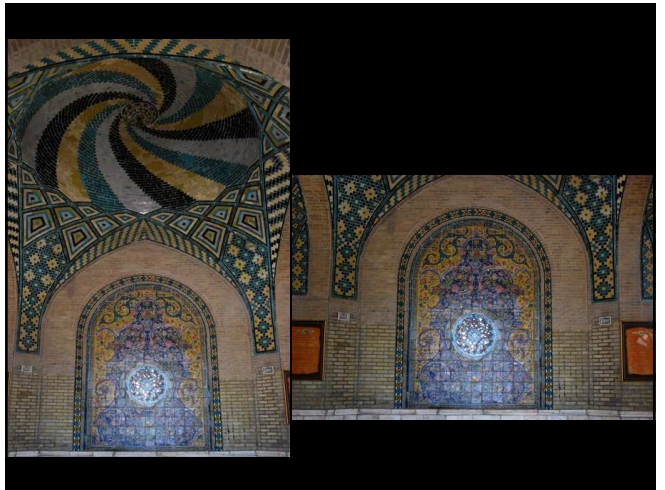
この急峻な1本の道が、山上の城塞へ。













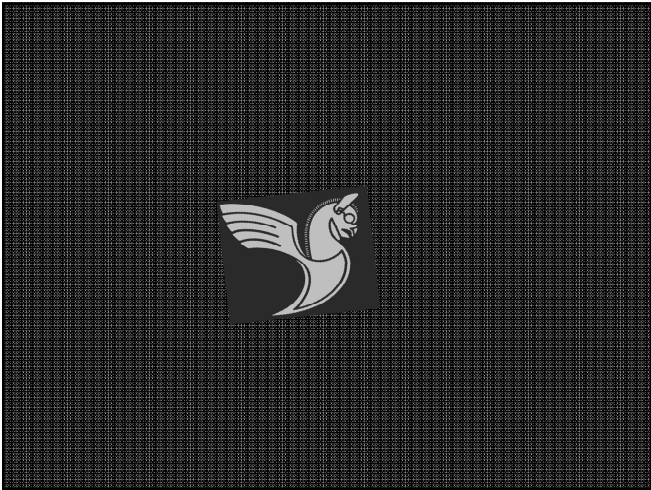
モスクの内外とも、無数の鏡の細片による装飾。



モスクを出たところで、たまたま出逢ったお葬式参列の人々。次ページのように、男女は別。



境内にある、イランイラク戦争戦死者の追悼銘板。



19世紀～20世紀初頭におけるペルシアと周辺諸国の踏査記録

— 中央アジアの覇権を巡って英露がしのぎ削っていた時代の、
踏査などの報告書に見る 当時の状況。

スヴェン・ヘディン

Sven Anders Hedin: 1865.2.19～1952.11.26 スウェーデンの地理学者で、中央アジア探検家。
ストックホルムの中流家庭に生まれた。

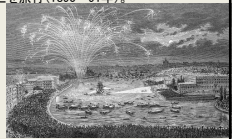
A.E.ノルデンショルドの北東航路探検に感銘を受け、生涯師事した。
ベルリン大学ではリヒトホーフエンの指導をうけて、中央アジア探検を決意した。

ノーベル族が経営するバクー油田の高級技師家庭の家庭教師に招かれ、
その帰路に、ペルシア、メソポタミアに旅行(1885～86年)。
その後、スウェーデン王オスカル2世がペルシアに派遣した使節団の通訳として同行し、
任務終了後に単独で、メルヴ、ブハラ、サマルカンド、カシュガルなどを旅行(1890～91年)。

その後は、広く中央アジア、チベット、中国を探検して、
膨大な報告書と地図を残した。
1908年には、探検旅行の帰途に来日し、東京地学協会での
講演ほか、大歓迎を受けた。

その間、1902年に貴族に列せられ、1909年には、英国から
「ナイト」の称号を得る。

第二次大戦後には、国内ではナチス協力者として批判されるが、
著述に専念して膨大な研究成果を世に出し、1952年にストックホルムで没した。



A.E.ノルデンショルドの北極海での
越冬(上図)と、その華々しい帰還。

ご参考：スヴェン・ヘディン、1865-1952 について

スウェーデンの探検家、中央アジア探検の第一人者。
1893年から1908年までの間に、現地人従者とともに3回にわたり広く中央アジアを探検旅行。
第3次探検の帰途、日本を訪問。
その後、1927年から1933年まで西北科学考察団(支那・スウェーデン探検隊)を、
1933年から1935年まで南京政府依頼の新種自動車探検隊を組織して、
ともに、黄河上流からタリム盆地北東方面に組織的・科学的探検を実施。
晩年はナチスドイツ粘頭下の東欧にあって秘密外交活動、ストックホルムの自宅で長逝、87歳。

以下に、日本訪問の際の講演の最後の部分を、少々長いが転載。(『測量』2005.10月号掲載の長岡純からの転載。)

「…予はこの學術的の探検に就ては終始予一人でこれを遂行したのである、別にこれについては助手をつれてあるいたのではない、従つて旅行中手の忙しきことは又一通りでなかつた。先づ予は總て予の探検線路の地圖を出来得るだけ精密に作らんと試みたのである、即ち是等の前人未踏の地を踏査しこれを世界に紹介するに付ては、地圖の製作はもつとも肝要なることであると信じたからである、予は探検線路の大部分は平板測量をもつて測圖しつつ進んだ、先づ行程の距離を測るには、あらかじめ二百メートルの直線上を、或は駱駝に乗り或は馬に乗つて行進し、この全距離を進むに幾歩を要せしか、又何秒時を要せしかを測り、幾回かこの方法を繰返して其の平均数を求め、これを常に標準として行程を測りながら歩を進めた。また其の行進線路の方向は磁針によつて一々精細に測りつつ進んだのである、然しながらこれだけでは誤差のあることは免れない、殊に日を重めるに従つて其の差も多くなつて来るから、予は時々一ヶ所に滞在して暗夜に天測を試み、其の頂點の経緯度を精細に測量して圖上の訂正を行い、そしてこの行進中には、線路上の地物は勿論その両側にあるものもは出来得るだけこれを精密に記録することを怠らなかつた、即ち遠方の山であれば其の頂點の方位を一々測定し、或いは湖水であれば其の周囲にある種々の地物を目標としてその形を畫き、また其の水の淡・鹹…(中略)…一の山についても、其の名稱は處によって種々であるから、各方面の土人に聞き正して其の名稱を記録して置いたのである、また途上に於いて種々種々の種族の住民に出逢つたが、なるべく彼等と言葉を交へ、其の土地の種々の地名などを聞き正し、また其の風俗・習慣等を知ること注意した。

以下、次ページへ。

スヴェン・ヘディン、前ページよりの続き。

また山を越える場合等に於ては、一々其の標高を測定した、これはアナロイド気圧計によつたが、猶ほ其の外に沸騰水気圧計・水銀気圧計をも携帯して精密に其高さを計つた、殊にアナロイドは三個程精密なるものを携帯して、常時これを手放すことなく、途上の測定を等閑にしまつたのである。また峠の頂からは常に出来得る限りパノラマの展望圖のスケッチを作り、是には主要なる山岳の方位等を一々測定して記入して置いた。此の際一方に於て又寫眞の撮影は必ず行ひつつ進んだ、予は極めて優良なる機械を携へ、且つ探検上の経験によれば、フィルムは携帯に便利ではあるが、これよりもガラスの乾板の方が常に好結果を得たのである、是等の寫眞の現像も途中至る所に勵行して、帰國の後一編にして現像するが如き繁雜なることを避けたのである、…(中略)…然も諸君が予の講演に向つて清聴せられたのは、予の最も光榮とする所である。また若し青年諸君等の中に本席の講演を聞き、予と志を同してアジア大陸中踏険つて居る他の未發の地方を探検せんとする人が出来たならば、こは予の最も幸福とする次第である(拍手大喝采)」(山崎直方譯述、1909、『地學論叢』4輯)

文中に、当時の探検家の地図作成への真摯な態度が伺われる。
アジア内奥部についての地圖の原資料は、このように測量された。



左写真、西本願寺にて大谷光瑞らと。 右：山崎直方夫人らと。

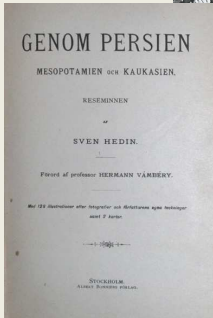
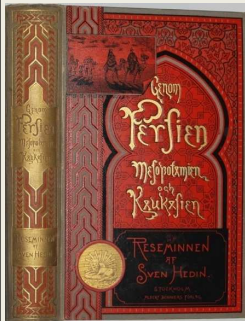
明治41(1908)年、華族会館での小村寿太郎外務大臣主催晩餐会。

ペルシアにおける S・ヘディンの事績

最初のペルシア旅行は、
ノーベル族が経営するバクー油田(カスピ海西岸)技師の家庭教師として招かれ、半年で仕事を終えて、ペルシア人仲間と、テヘランの南へ旅行。戻って、バクーからトルコ経由で旅行し、帰国。(1885～86年)
紹介は、この調査行についての、ヘディン最初の報告書、
ブダペストでH・バンベリーに会う。バンベリーがこの前書きを。



この書の冒頭にある
ナスール・エッディン
ペルシア皇帝(シャール)
旅行に便宜を頂いた。



『ペルシア、メソポタミア、コーカサス横断
旅の思い出』

スヴェン ヘディン
ヘルマン・バンベリー教授の序文

128図版と地図2葉

ストックホルム
(1887年刊)

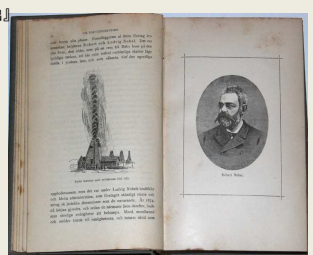
この書の影(表紙版)より

【ご紹介文獻などは、これ以降を省いて、金子氏編さん蒐集のもの、その内容説明も、同様。】

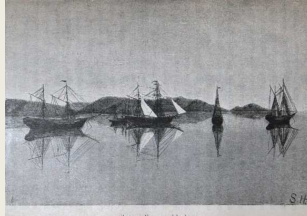
『ペルシア、メソポタミア、コーカサス横断一旅の思い出』
S・ヘディン、1887 より、図版の紹介



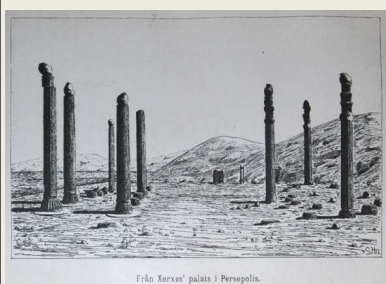
Nahavand i Bakhti



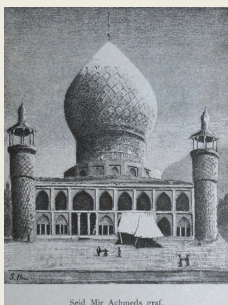
ダイナマイト発明で巨万の富を築いたアルフレッド・ノーベルは、「ノーベル兄弟石油会社」を設立して、バクーで油田開発。
上は、同書中のロバート・ノーベルと、油井の自噴。
左上：豊富な埋蔵は、自噴とともに火災の原因ともなっていた。



カスピ海を隔てた、バクーの対岸クラスノボドスクの港泊地。
タシケント方面への船着点。(表・トルクメンバシ)



Från Xerxes' palats i Persepolis.
当時の、列柱が少し残っていたペルセポリス遺跡
下は、現代 (長岡、2012.7)



Shah Mir Achmeds graf.



セイド・アフメド(シャール・チャラク)廟
下は、その現代
(シャール・ホマ・ホテルのハフより)



Pul-i-Hassanabad i Isfahan.
当時のイсфаハーン、ハーजू橋。全面に水が流れる雪解け時期。



Masjed-e Shah i Isfahan.
右はイсфаハーンのマスジェド・シャール(王のモスク)



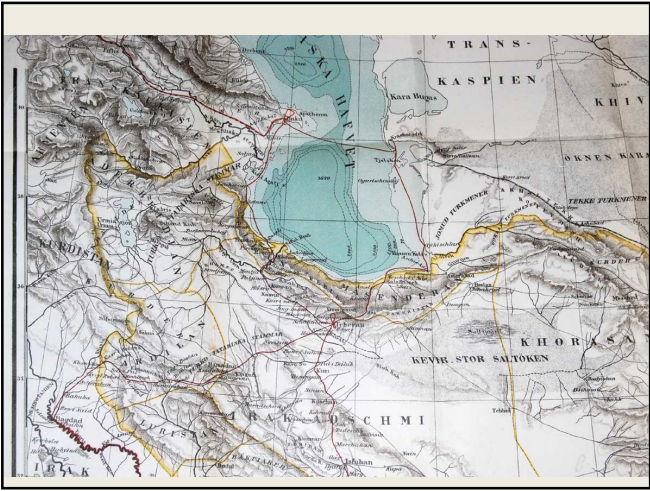
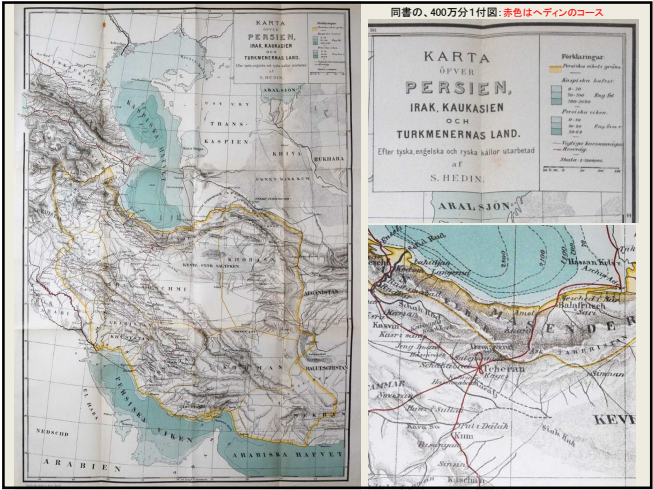
共に、下は現代 (長岡、2012.7) ハーजू橋は夏の洪水期。



イسلام革命後はイマームモスク



当時のイランの人々。左上：楽隊。右上：学校の生徒。
左：商人夫婦。



ベルシア湾に面したブシェールの港（現在は、原発立地で知られる。）

右上：ヨーロッパに続くイスタンブールのガラタ橋。
下は、ヘディンによる「トルコの夫人」スケッチ。
その後の著作にも、人物スケッチが多く載せられる。



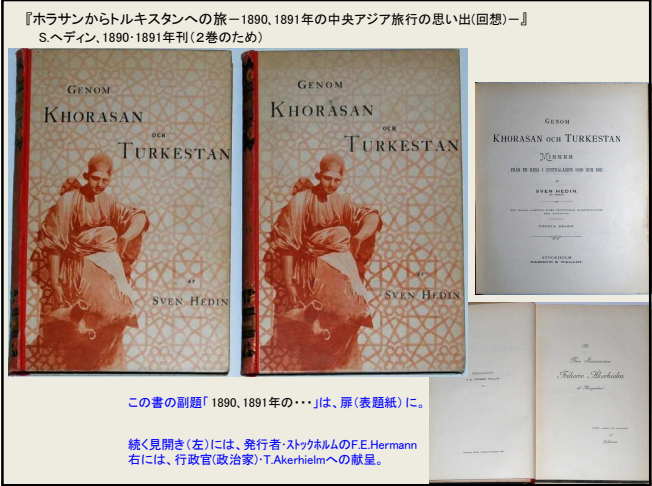
『テヘランからカシュガルへ』S.ヘディン、1891
スウェーデン王オスカル2世がベルシアに派遣した使節団の
随員（通訳として訪問。任務の後、単独で、メルグ、プハラ、
サマルカンド、カシュガルなどを旅行（1890-91年）。
後の報告書の予稿的内容。
ベルリン大学（旧フーベン教授）留学の後、ハレ大学での学位
論文のもとになったのが、左の論文。（金子民雄さんによる。）

下：ヘディンの博士論文『デマバンド』
ベルシア訪問で皇帝の知遇を得、勸めによって、
デマバンド山へ。それを契機としてまとめたもの。



『1890年、オスカー国王よりベルシア皇帝への公使派遣』S.ヘディン、1890
ヘディンによる使節団の報告書。
内容は、使節団のことのみで、そのあとのヘディンの旅についての記述はない。この本は、スウェーデン語のみで、
ほかの多くのように、ドイツ語版はない。

見開きの左に、スウェーデン国王の写真
（次スライドに。）



左：コムのFatima Masumeh Shrine
12イマーム派第8代イマーム・レザーの妹、ファーティマの廟
(シーア派の聖地)

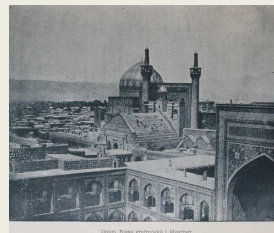


その現在。(英版ウィキペディアより)



Den heliga Fatimas grafmöte i Kôm.

マシュハド(メシェッド)のモスクなど



Shah Raza grafmöte i Mashad.

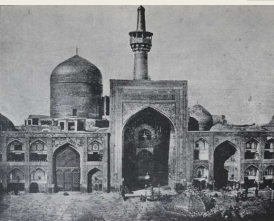
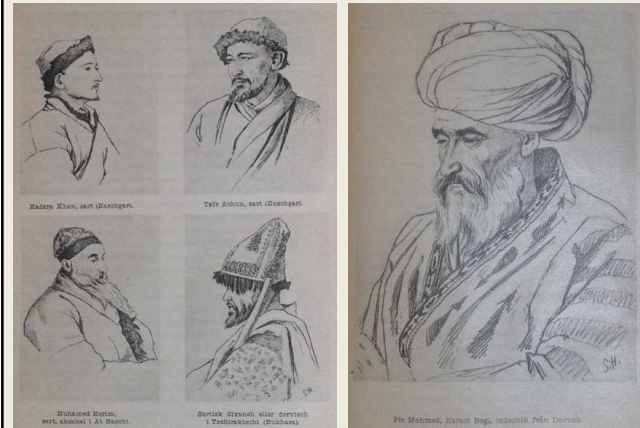


Foto Imam Raza graf i Mashad.



Foto Imam Raza graf i Mashad.

ヘディンの著作には、その初期から、人物画スケッチが多く登場



Khwarezm Khan, sarti (Khwarezm).

Tahir Atabek, sarti (Khwarezm).

Muhammad Khatun, sarti, Khwarezm i A. Bakhshi.

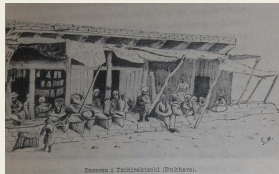
Shah Raza grafmöte i Tashkent (Bukhara).

Shi Mahomed, Kharab Beg, sarti i A. Bakhshi.



Rigistan och huvudgatan till emirats palats i Bukhara.

Shah i Bukhara.



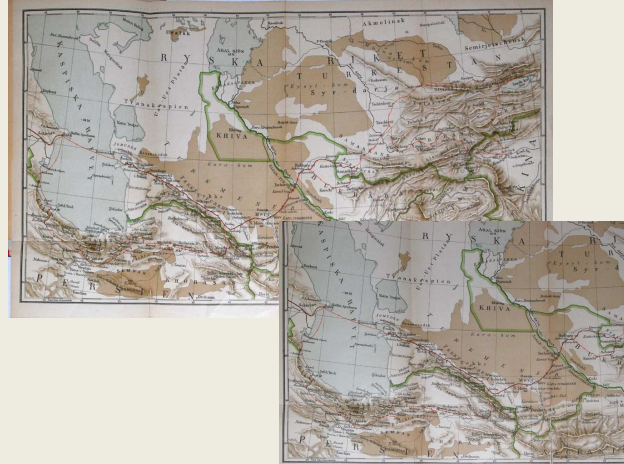
Shah i Tashkent (Bukhara).

ブハラ(バハラ)の城塞と門、
市内の商人

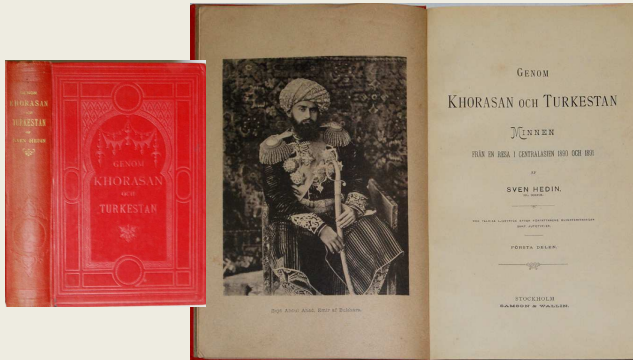


Shah i Tashkent (Bukhara).

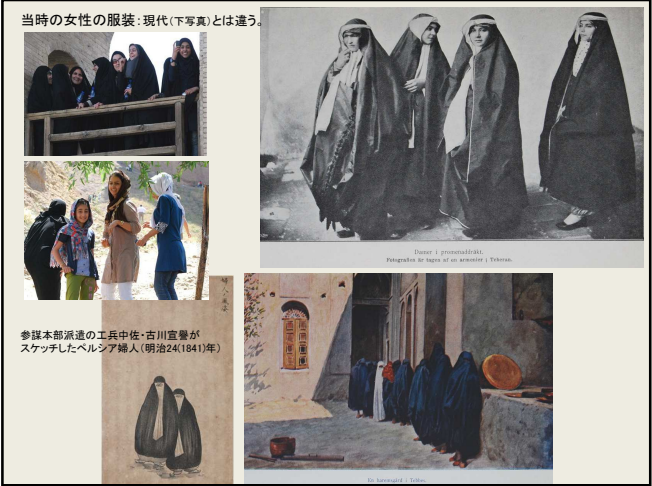
同書の、500万分1付図。赤色はヘディンのコース

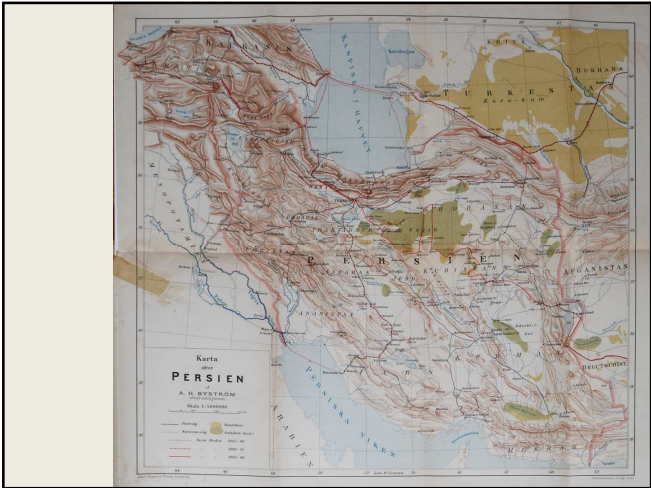
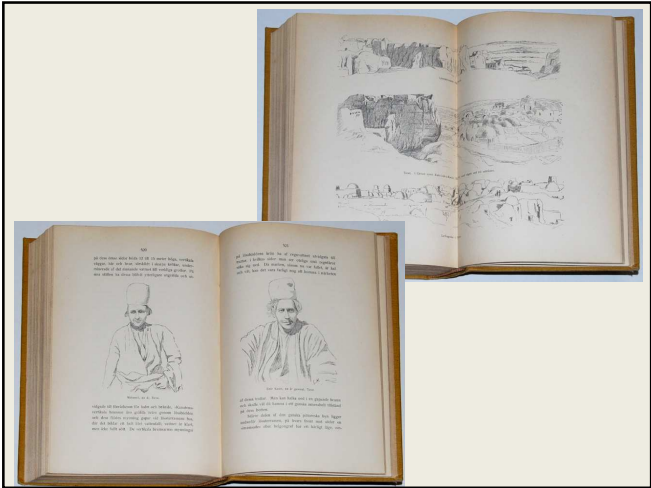


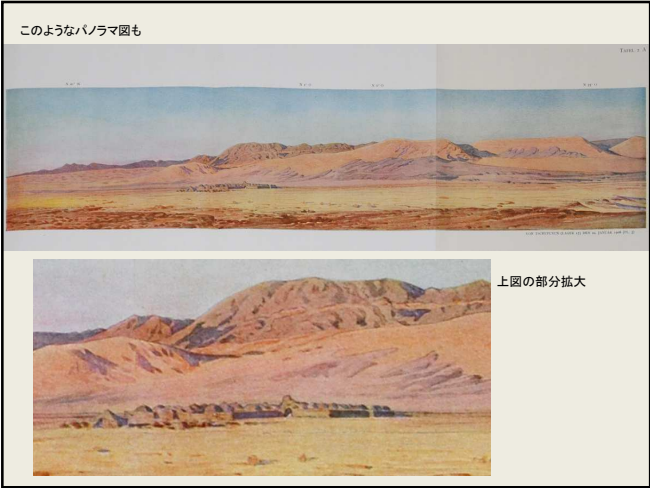
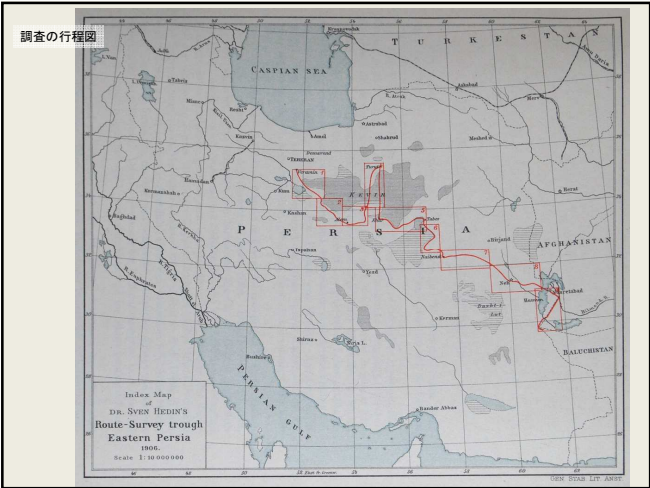
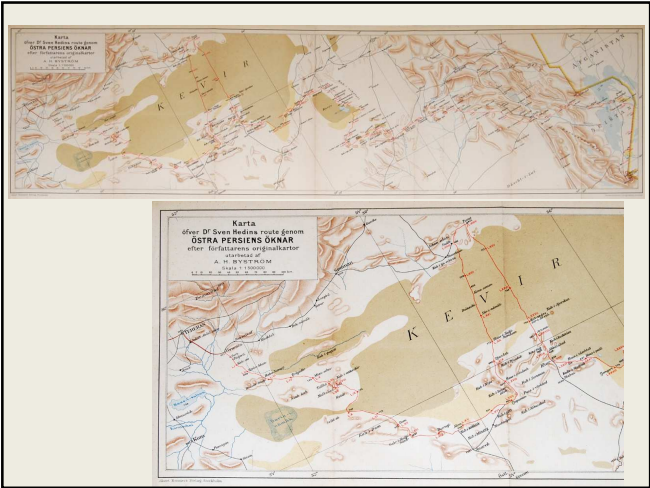
『ホラサンからトルキスタンへの旅ー1890、1891年の中央アジア旅行の思い出(回想)ー』
S.ヘディン、1892年刊 — 同名の、1890-91年刊の2巻本を1冊にまとめたもの

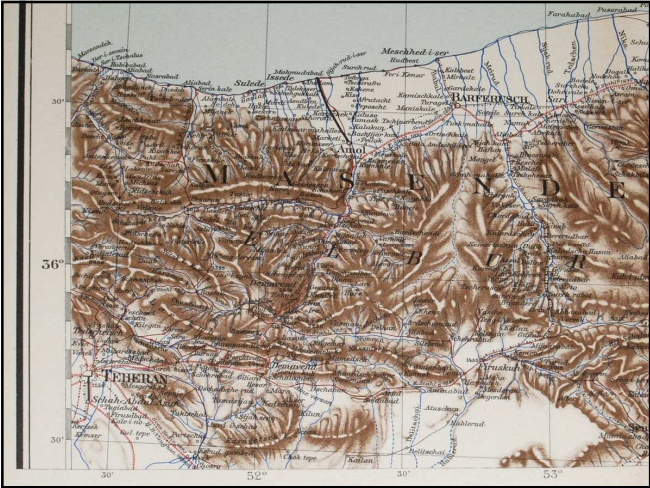
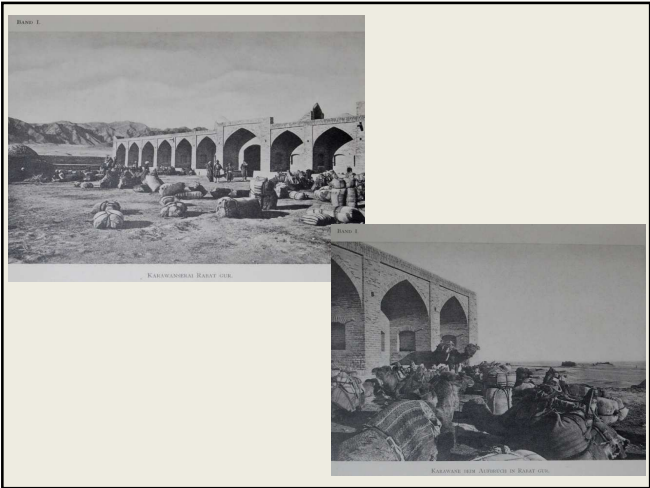


左は、ブハラのエミール(藩王)、
アブドゥル・アハッド



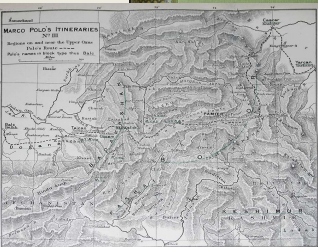
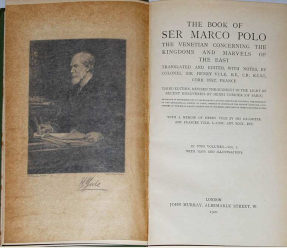






続いて、この地域での関連として、
マルコポーロ(ヘンリ・ユール が欧米で紹介)のたどった道

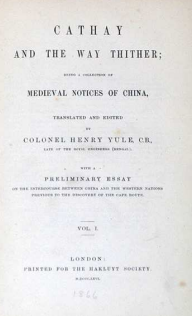
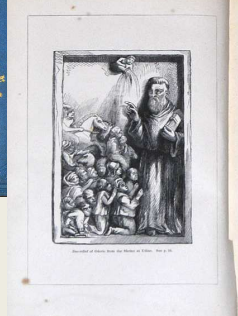
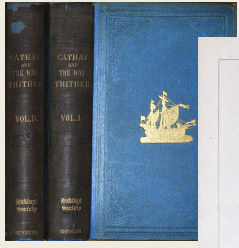
日本では、
『東方見聞録』



Henry Yule (訳・編集)による2巻本、
The Book of Ser Marco Polo - The Venetian
Concerning the Kingdoms and marvels of the East
2 vols. Vol. I cii+462p, Vol. II xxii+662p. London 1921

残念ながら、同所にはベルシア周辺の地図はない。
左は、ワハンを越えて、中国へ入る辺り。

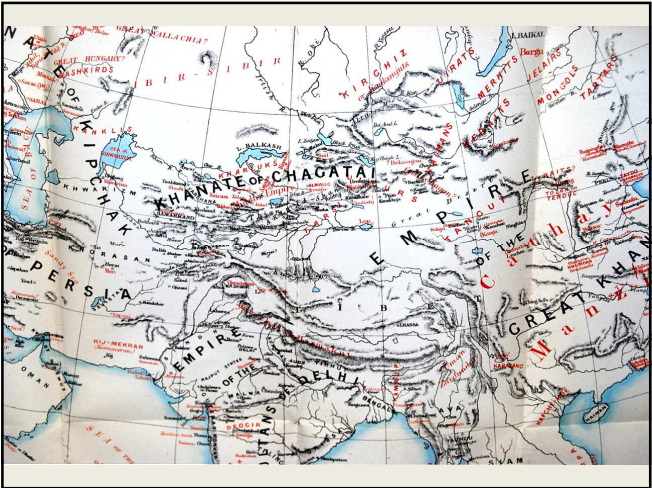
『Cathay and the Way Thither—Being a Collection of Medieval Notices of China』
H.ユール訳著、1866年刊 London



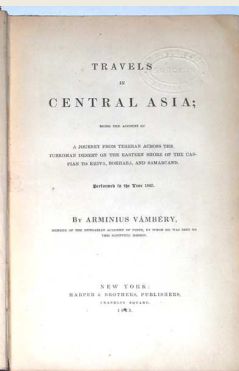
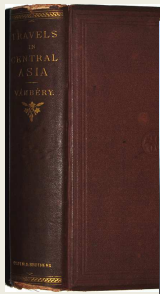


同書にある
当時の国家と
その位置図

次ページに、
部分拡大を



ヴァンペリー
『中央アジアの旅』ヴァンペリー、1855



ハンガリー系ユダヤ人で、ベルシアを放浪して、
当時、入域困難な西トルキスタンへ。
ヘディンがこの書を読んで、ベルシアへ志す。
中央アジアの、古典中の古典。(金子さんによる。)

以下、同書より



ENTRY OF THE EMIR INTO SAMARCAND.
(The Buildings after a sketch by Mr. Lehman.)



サー・パーシー・サイクス
『ペルシアを数千マイルーイランでの8年』
Major パーシー・M.サイクス、1902

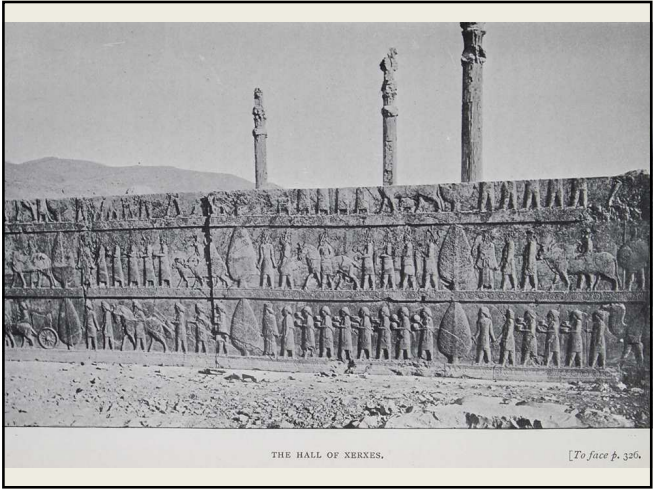
ペルシアの広域についての旅行記。軍人でスパイ。
当時の中東についての、もっとも魅惑的な書。
この書は、日本では紹介されていない。
（金子さんによる。）

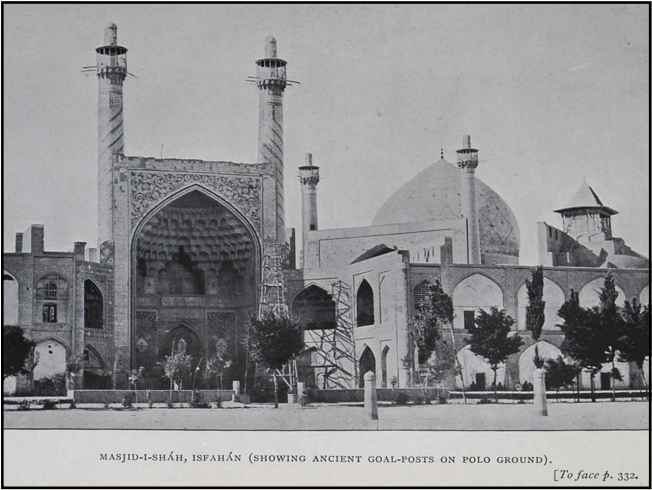
以下、同書より

SHRINE OF THE IMAM REZA AT MASHHAD. [To face p. 24.]

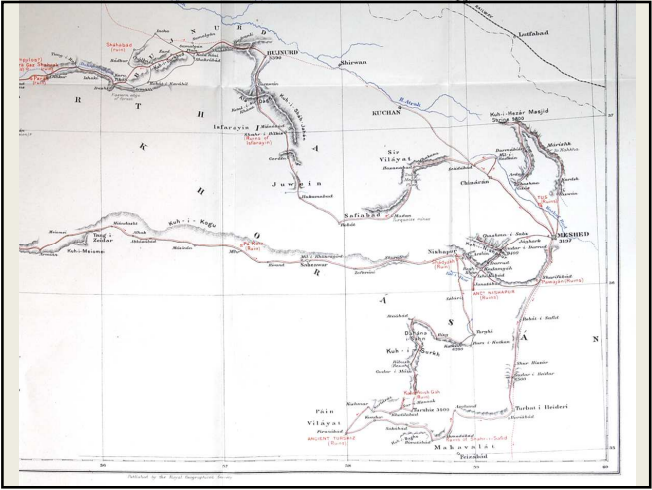
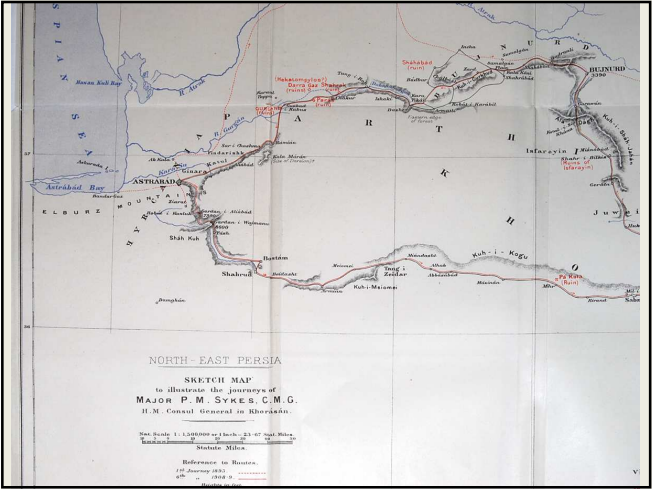
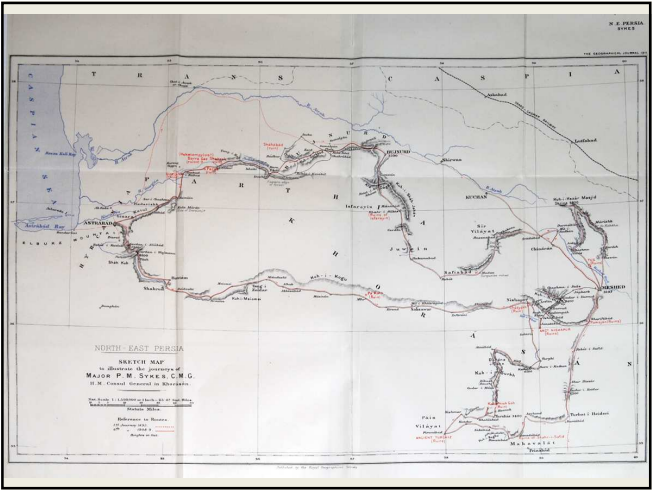
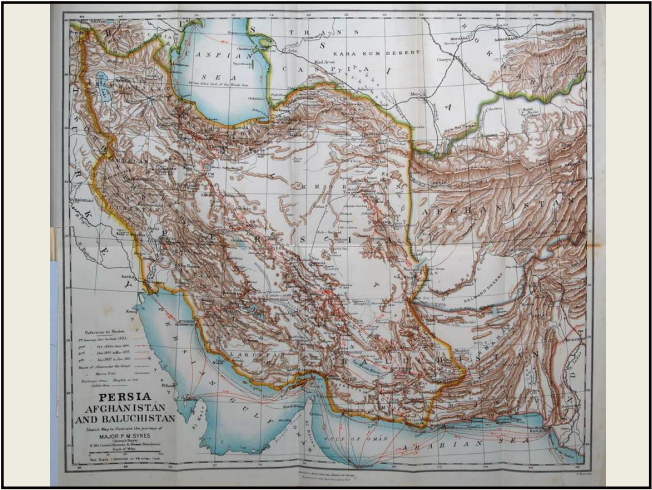
THE GOD ORMUZD HANDS THE KINGDOM TO ORMUZD.

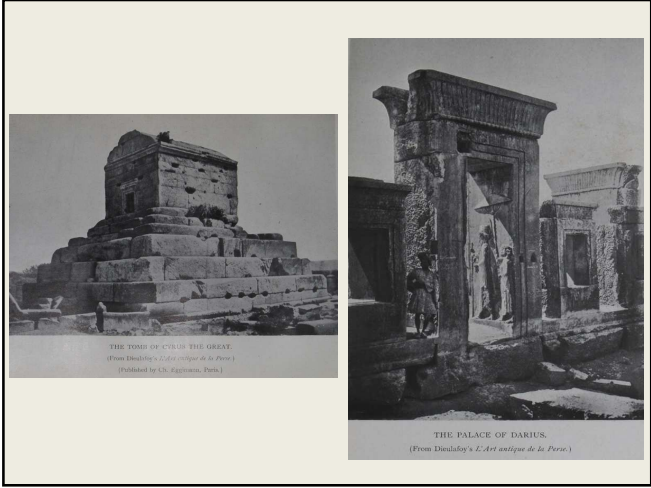
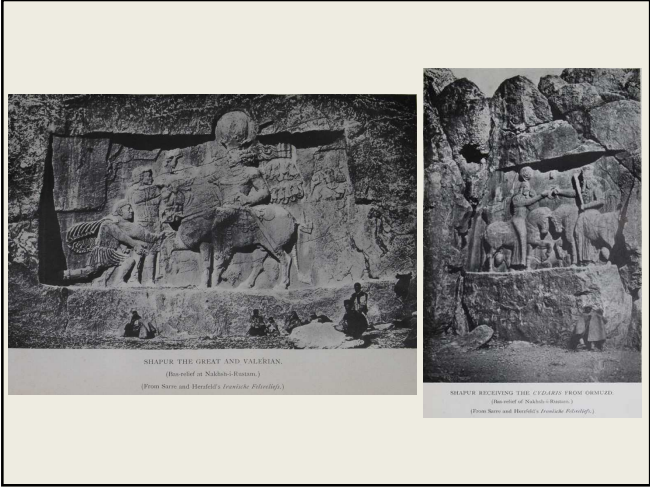
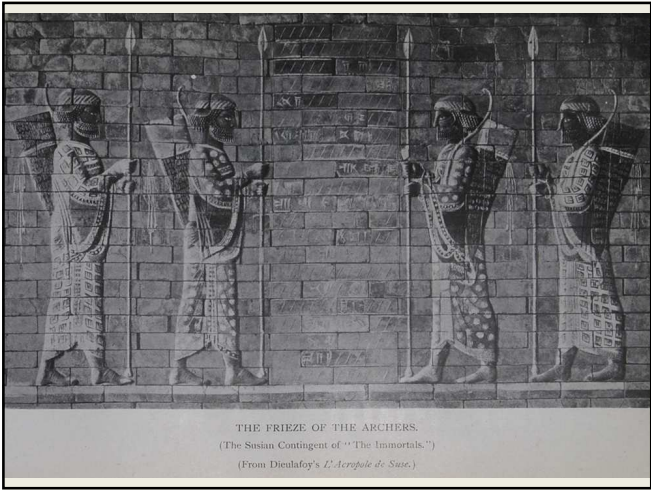
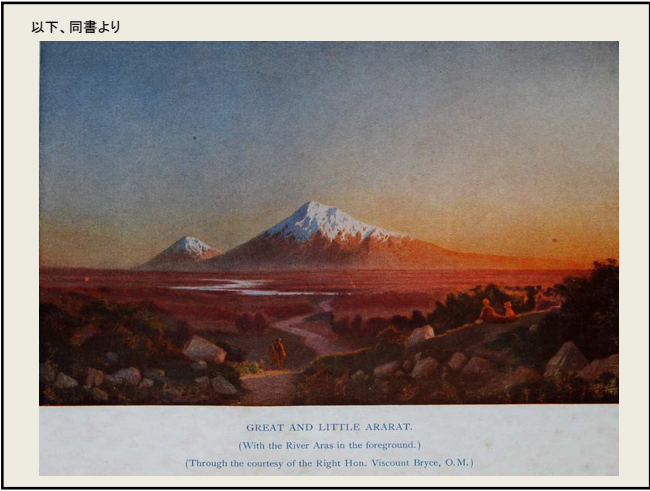
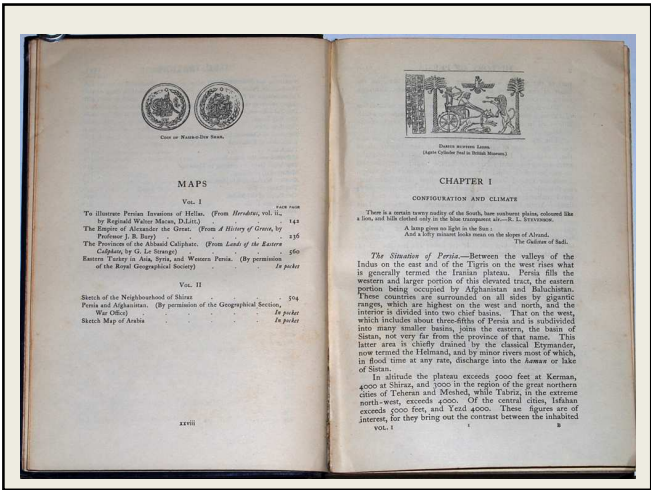
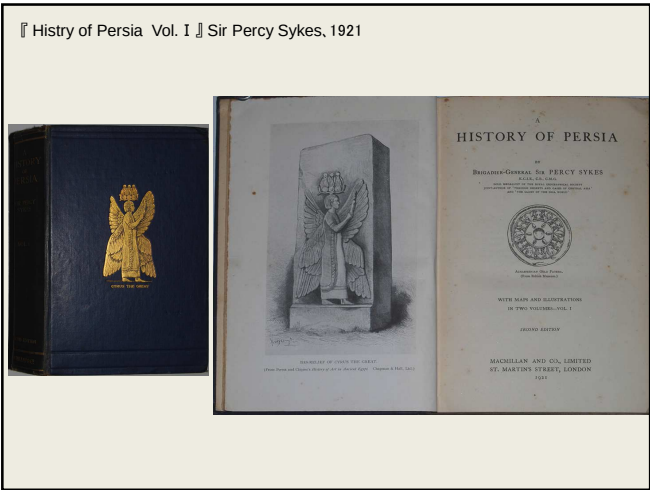
DARIUS AND THE SUPPLIANT EMPEROR XERXES. [To face p. 30.]

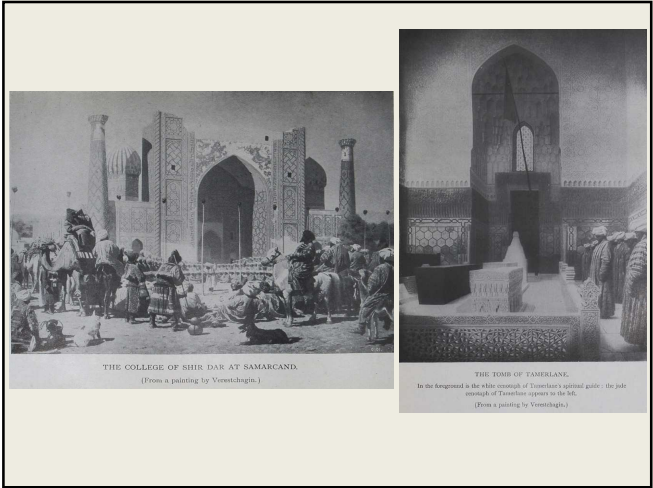
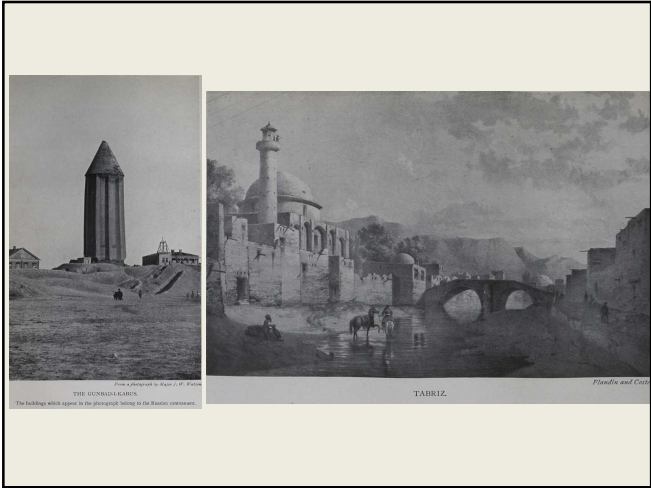
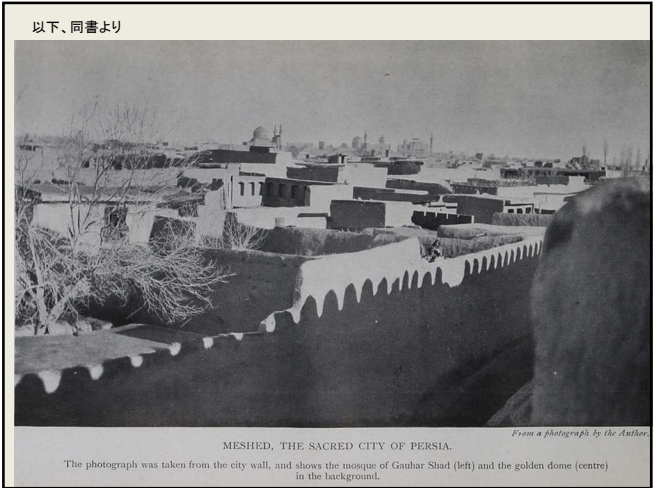
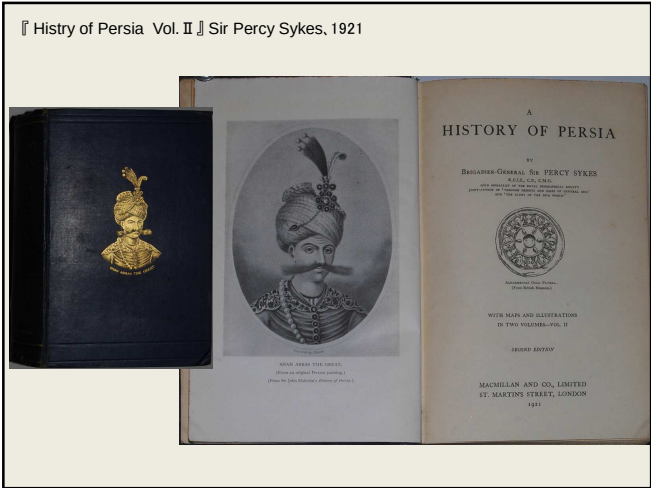
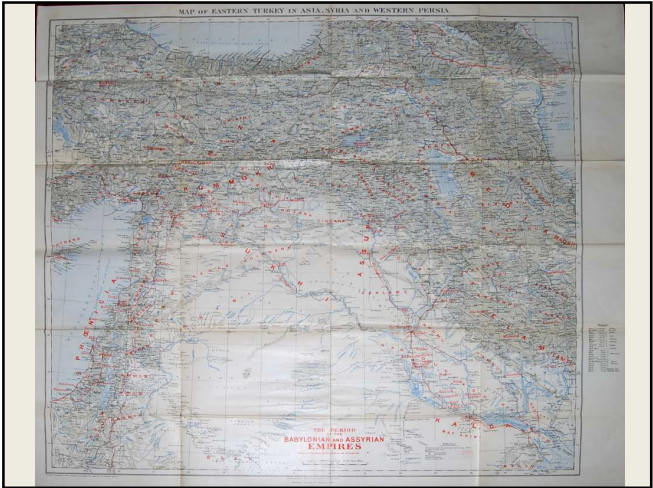


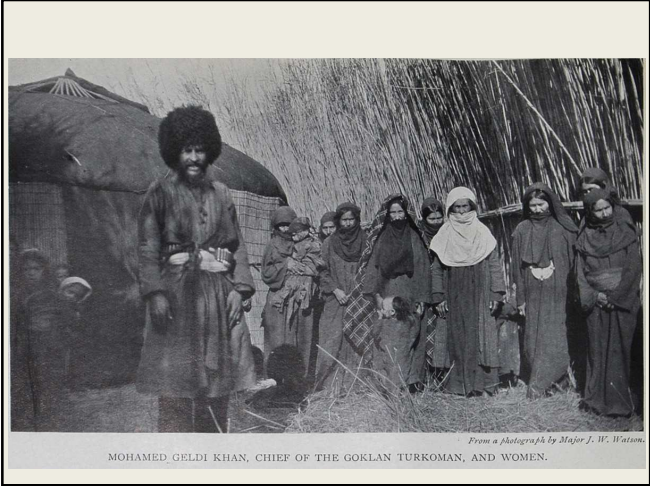
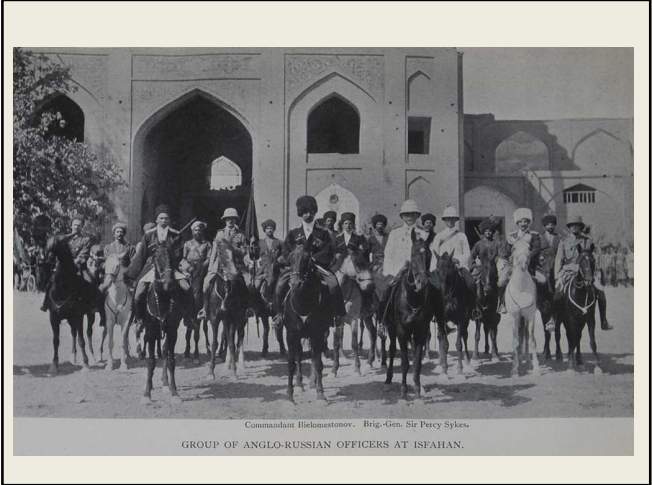
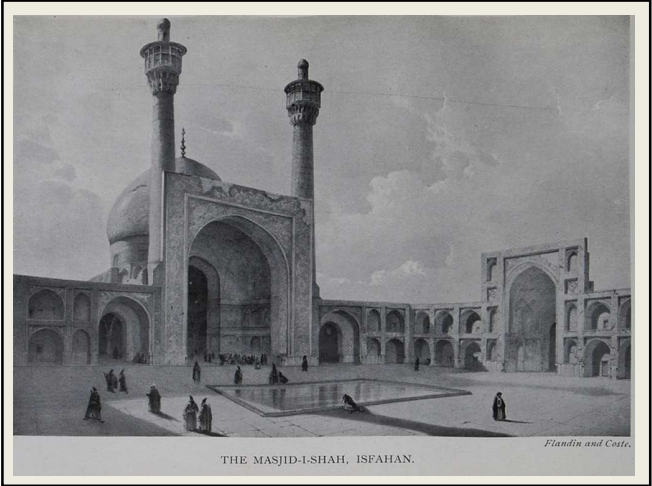
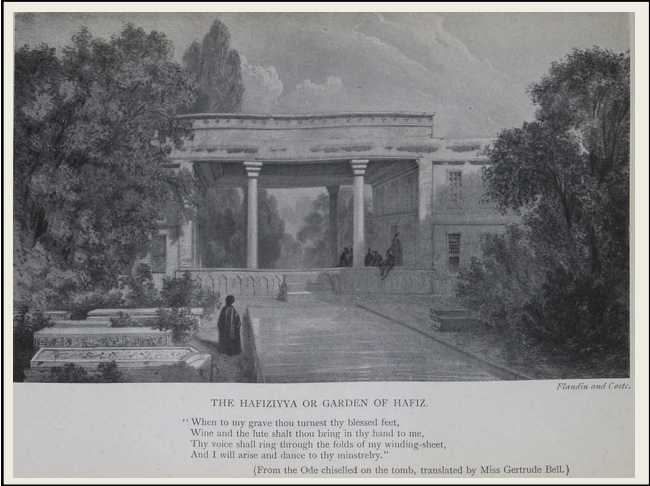


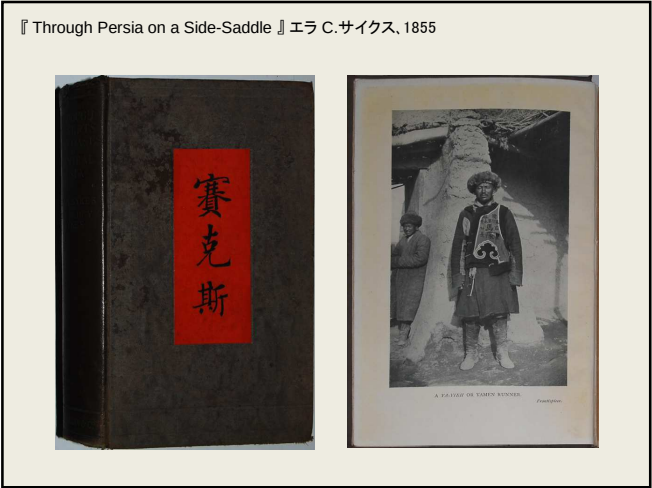
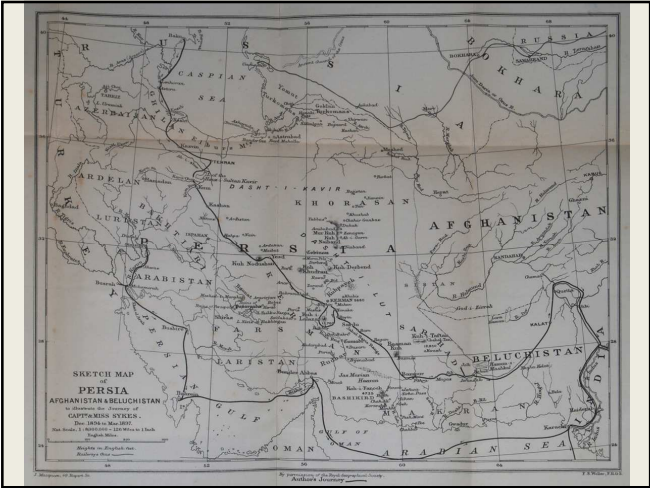
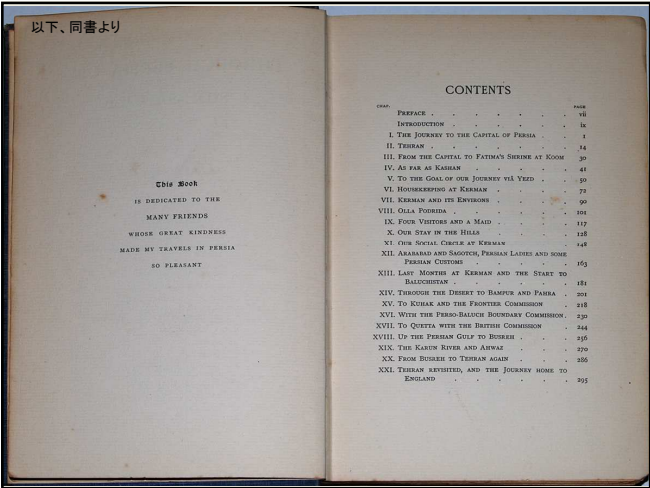
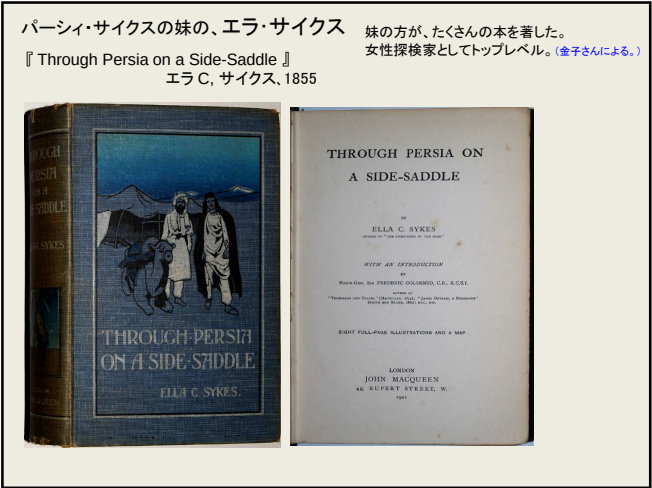
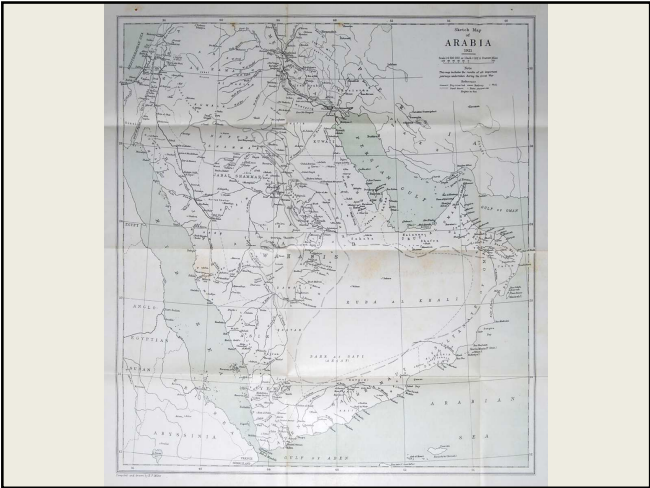
MASJID-I-SHĀH, ISFAHĀN (SHOWING ANCIENT GOAL-POSTS ON POLO GROUND). [To face p. 332.]

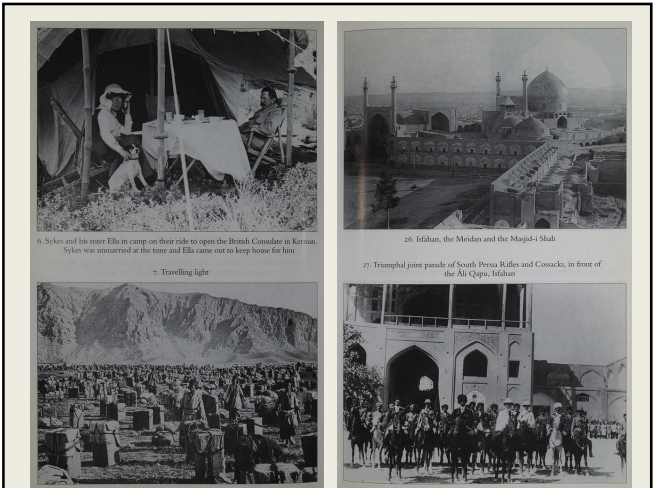
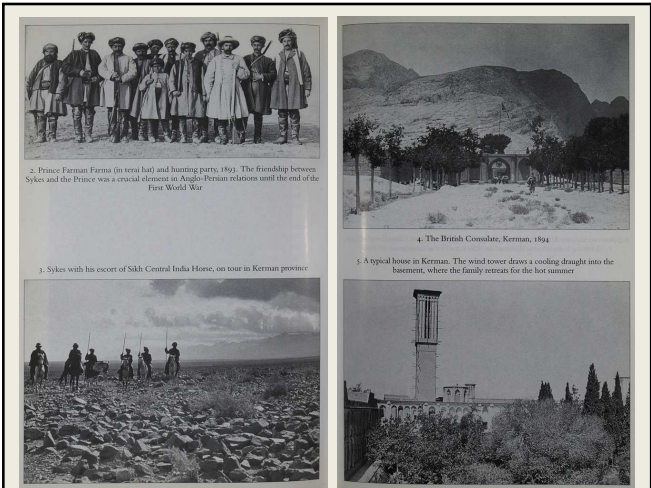
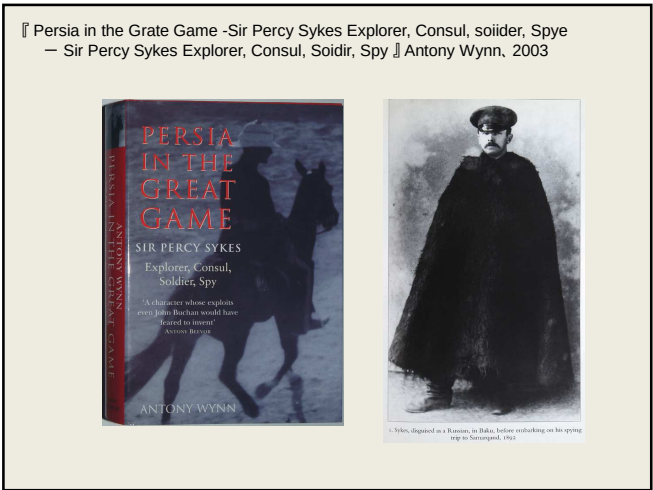
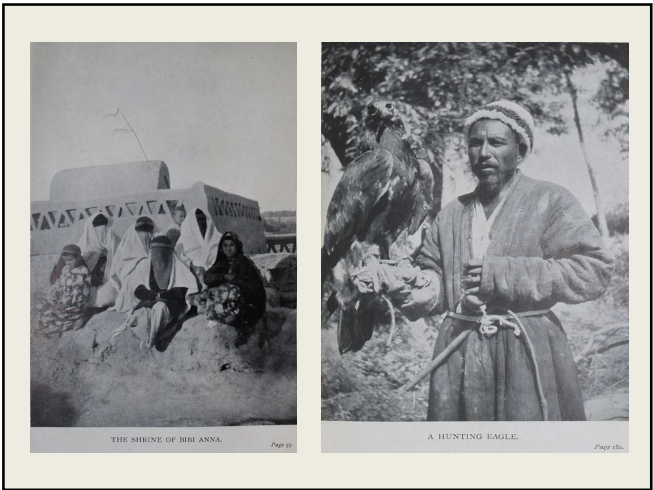
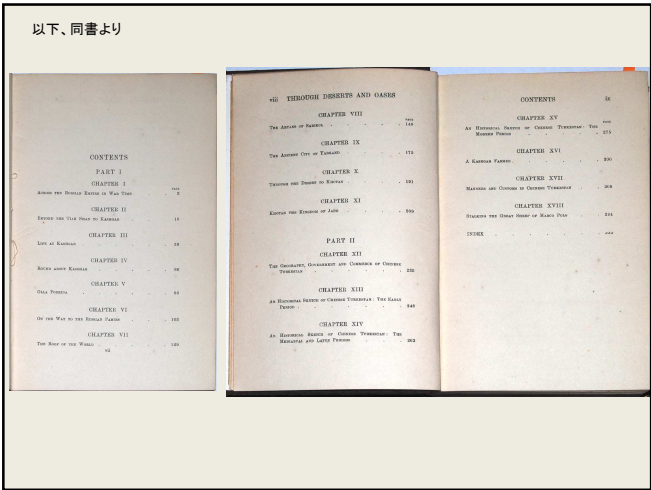








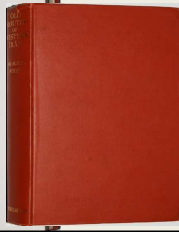




ペルシアにおける A.スタインの事績

サー・オーレルスタイン、1862-1943
英国(ハンガリー生まれ)の考古学者で探検家。
1900年から1916年まで、3回にわたり主にタリム盆地周辺の探検旅行と考古学的発掘。敦煌莫高窟から膨大な經典類を得たことで有名。他の探検家とは違って、インド測量局の優秀な技師を同行したので、詳しい地図を作成できた。
晩年は西アジアを研究対象とする。カーブルに客死、82歳。

『西イランの古道』A.スタイン、1940年刊 十字軍時代の遺跡の発掘報告書。



金子さんコメント：ペルシア、近東に関するスタインの本は合計3冊あり、これは第1号。第3号は、戦後、未定稿のものとして出版された。

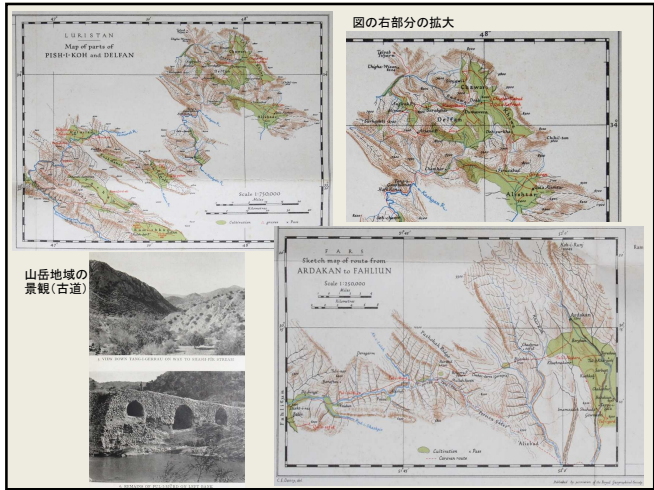
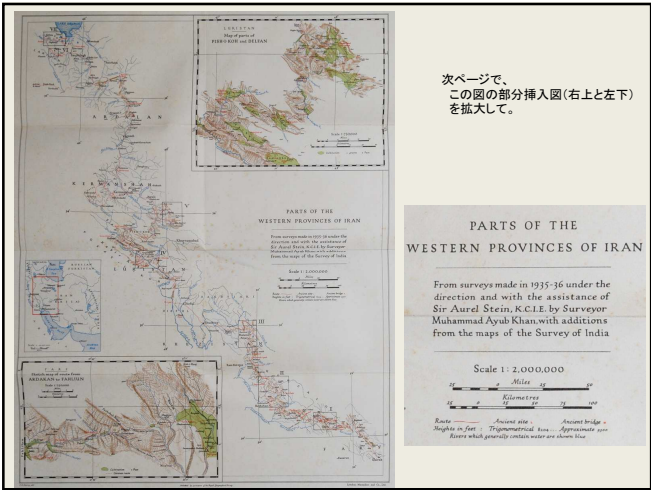
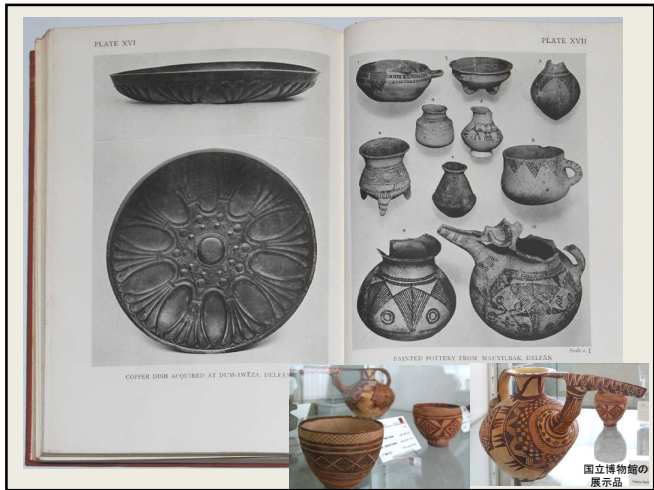
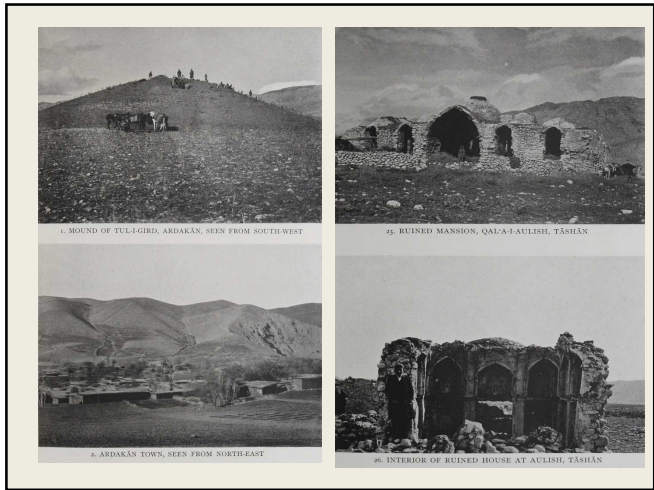
TO
SIR EDWARD D. MACLAGAN
K.C.S.I., K.C.I.E.
LATE GOVERNOR OF THE PUNJAB

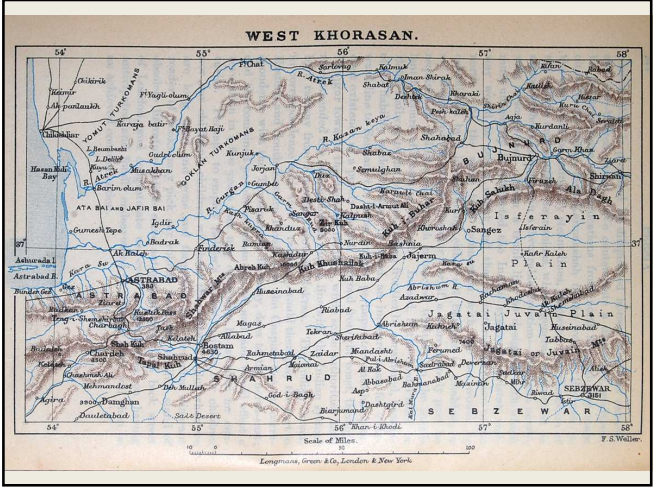
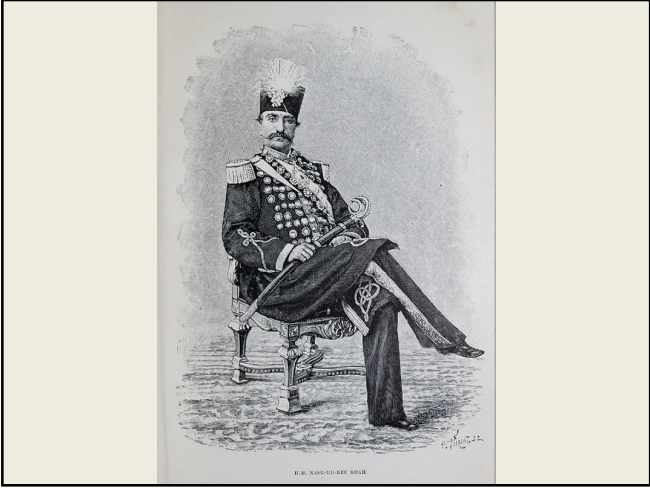
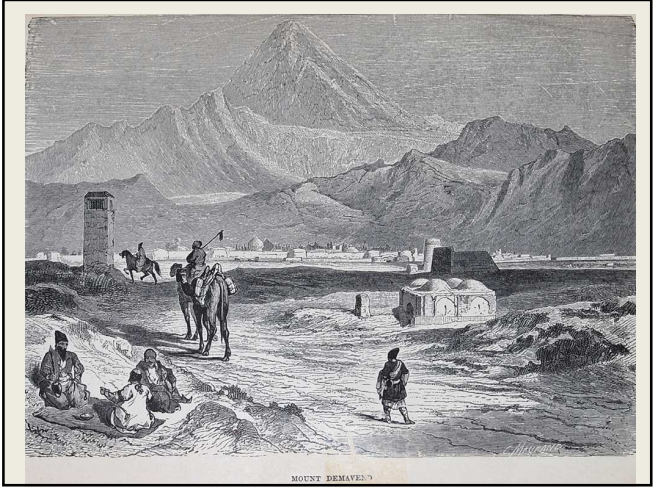
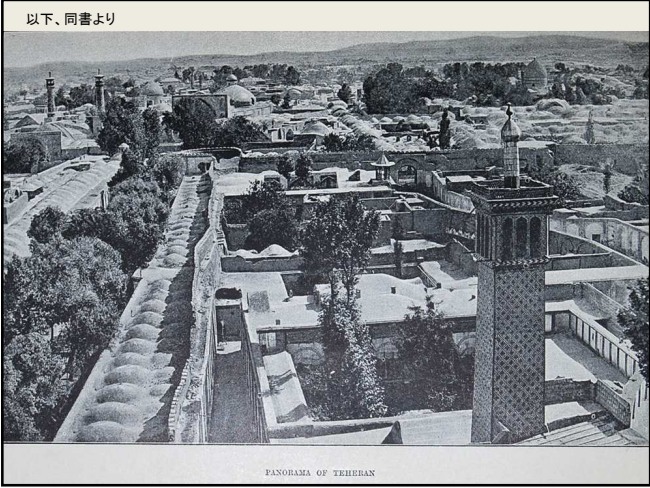
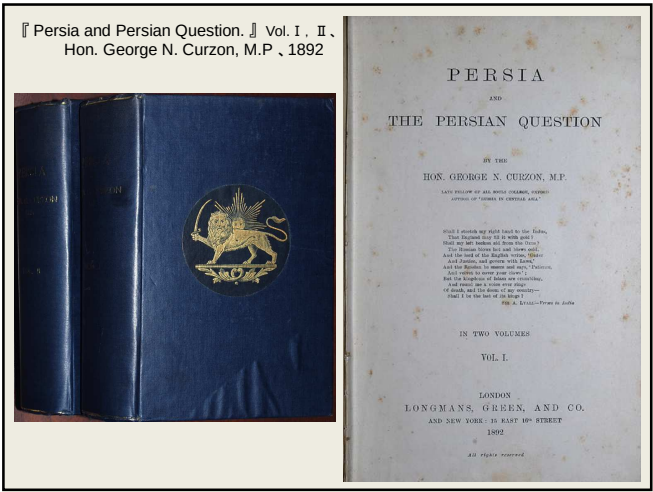
THE FRIEND WHOSE SYMPATHY AND HELP
ENCOURAGED AND FURTHERED MY EFFORTS
FROM THE START OF MY INDIAN CAREER
THIS RECORD OF EXPLORATORY TRAVEL
IS INSCRIBED
IN GRATEFUL AFFECTION

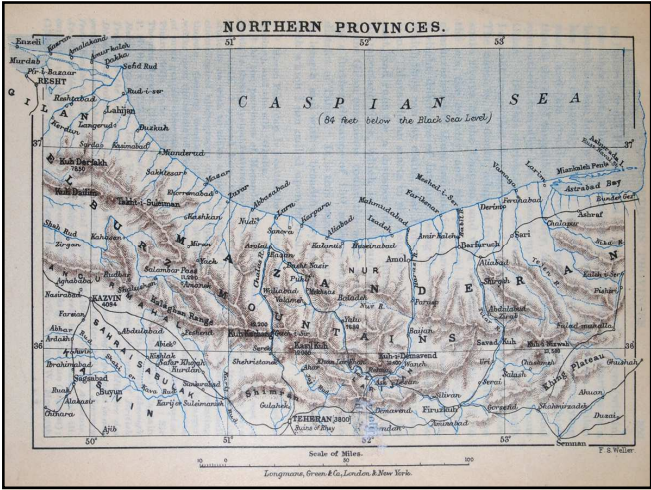
上は、同書にある献量の詩
以下は、金子氏蔵さん訳による。

私のインドにおける人生の出発点は、私の努力をカづけ、進めて下さり、同情と援助を惜しまれなかった
前・ハンジャブヤブ総督
エドワードD. マクラガン卿
K.C.S.I., K.C.I.E. に
この冒険的旅行記を、心からなる感謝の気持ちをもって謹量いたします。

金子さんコメント：
スタインは英国人ではなかったので、英文の表現が大変むずかしくて(複雑)、訳にくいのです。

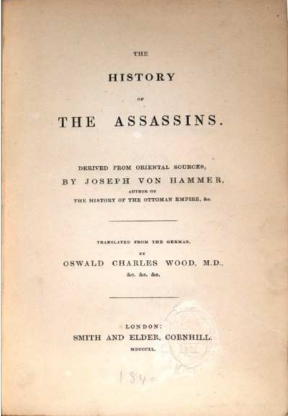
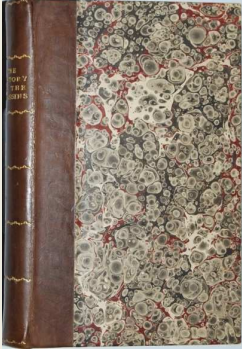






参考ご紹介

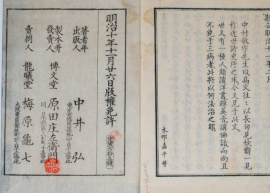
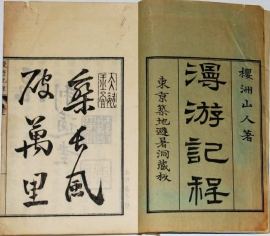
『暗殺者教団の歴史－東洋の伝承』 Joseph von hammer, 1818年刊：
Oswald Charles Wood 英訳、1840年刊



金子さんコメント：珍しい本。綺麗な装丁だが、
初版本は多分、仮とじ本であった。

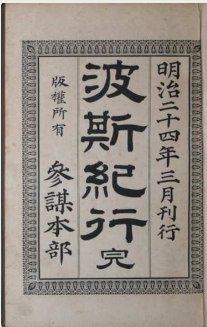
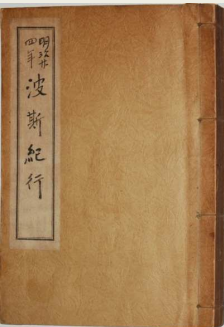
以下は、ペルシアなどにおける 日本陸軍の情報収集活動など：年代順に
明治前期の軍は広範な情報収集

『漫遊記程』中井 弘、明治11(1878)年刊



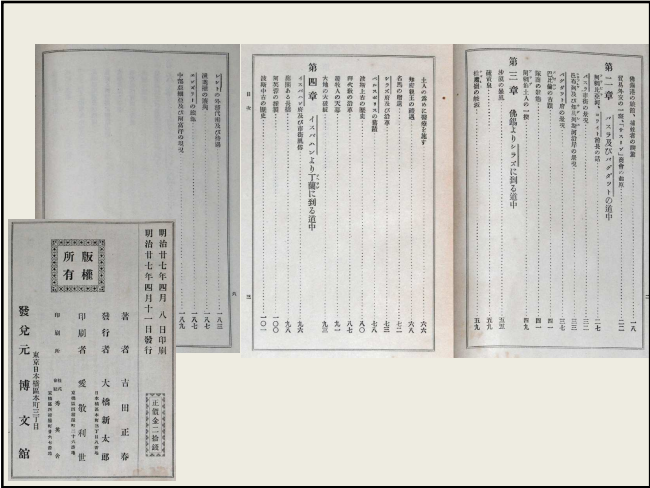
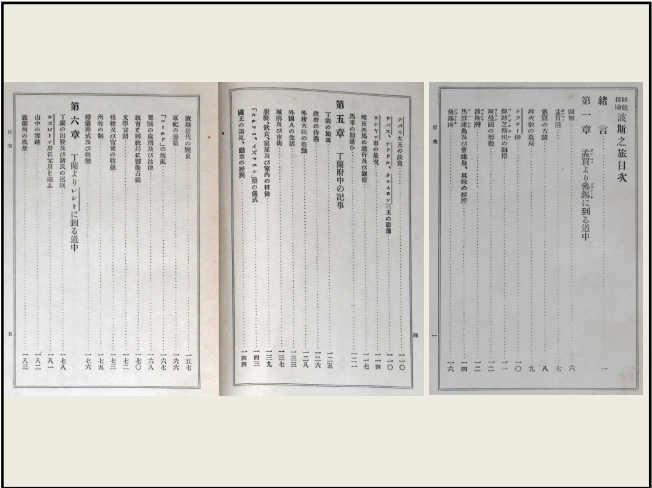
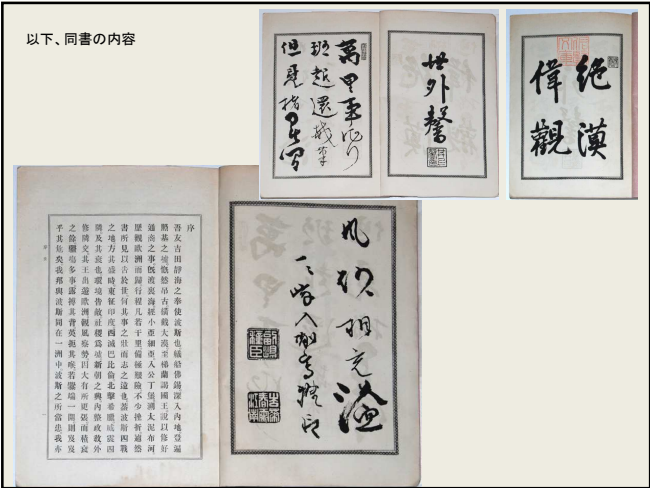
『明治廿四年 波斯紀行 完』参謀本部、明治24(1891)年3月刊行

稀難本のため、広くは読まれていない。
内容はすぐれている。



参謀本部からペルシア(波斯)への初の派遣者、陸軍工兵中佐・古川宣豊の報告書。

次に紹介の、吉田正春らとともに、明治13(1880)年、ペルシア(ガーヂヤール朝)に派遣された。



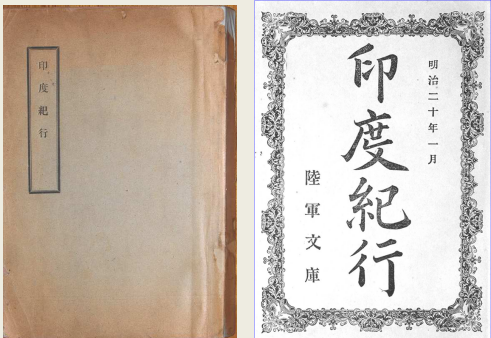
つづいて、よく知られている 福島安正を

『単騎旅行 福島中佐遠征記 全』明治26(1893)年6月刊



ベルリンから内陸アジアを経てシベリアを単騎横断した旅行の冊子()の一部と、右は、晩年の福島(『福島將軍遺稿』(1941)より)。

『明治二十年一月 印度紀行』陸軍文庫、明治23年発行



この書にある、福島安正の全行程図を次ページに



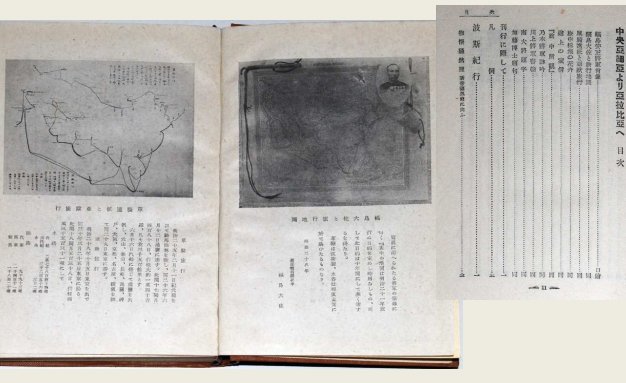
インドにおける福島安正の行程

『中央亜細亜より亜拉比亜へ(福島將軍遺稿 續)』福島安正(遺稿)、昭和18(1943)年刊

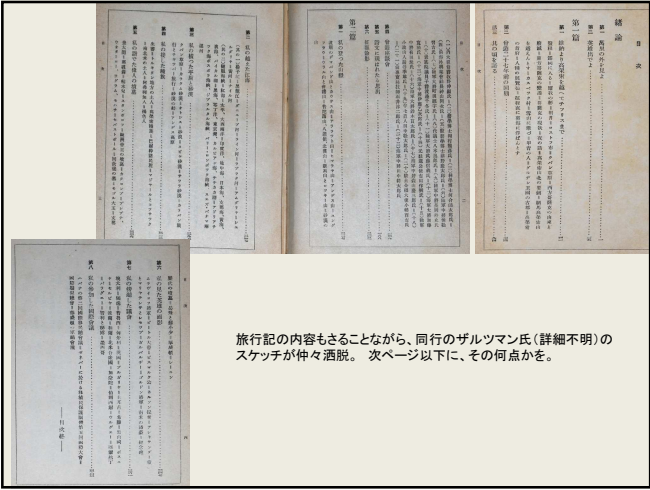
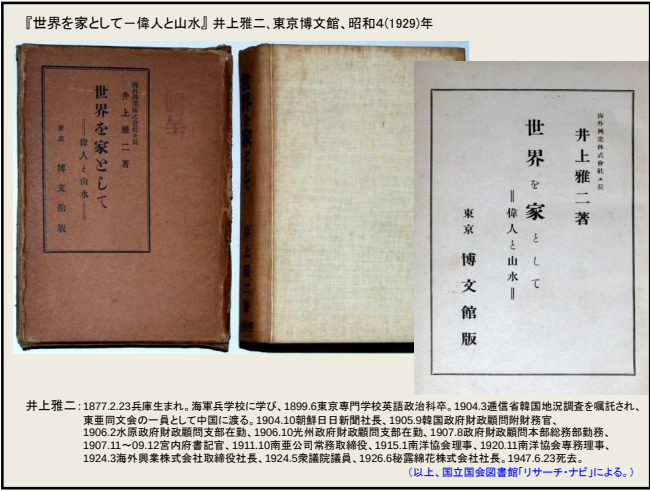
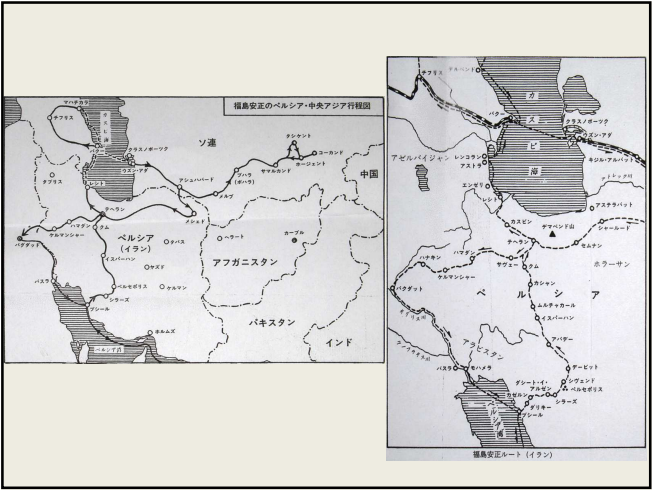
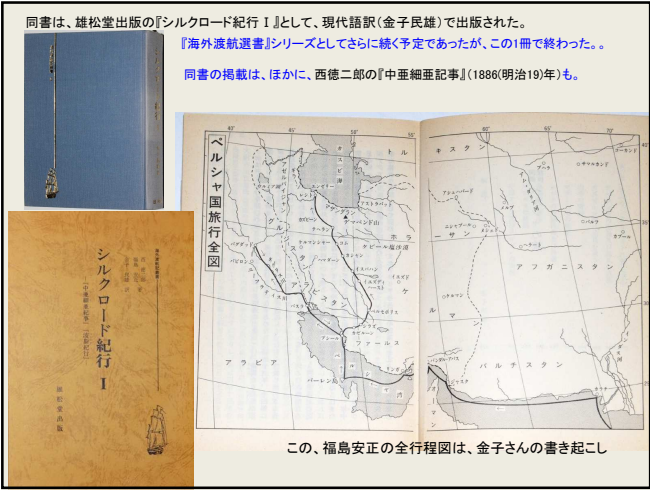


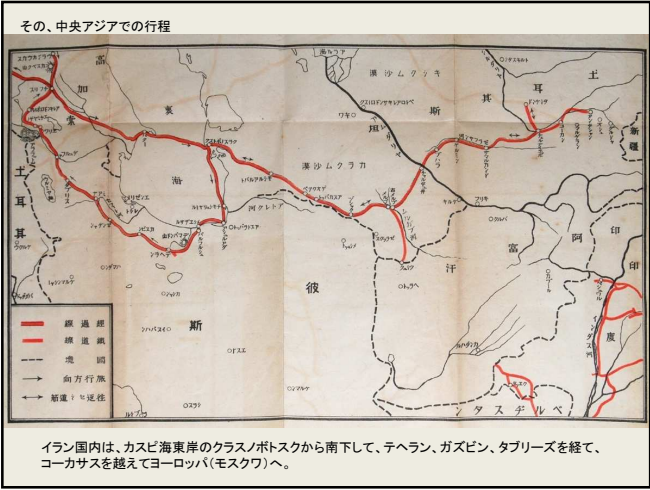
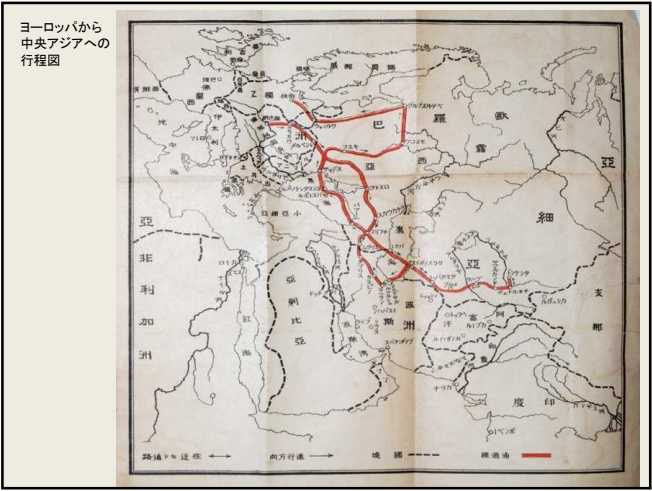
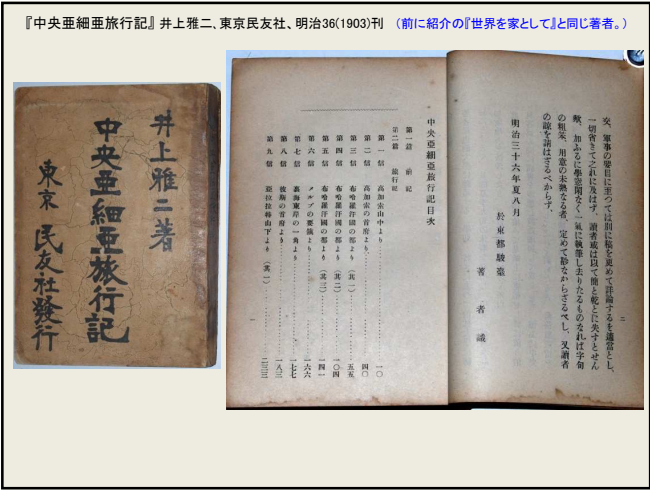
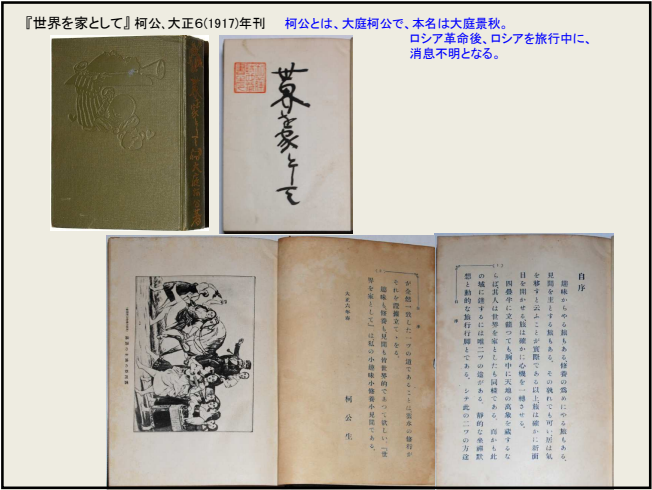
明治25(1892)年の「シベリア単騎横断」で名を馳せた福島安正將軍の遺稿 をまとめたもの。
参謀本部の報告だったので、元本の完全稿本がない。これは、ほんの一部が発見されたもので、元本は不明。
(金子民雄さんによる。)

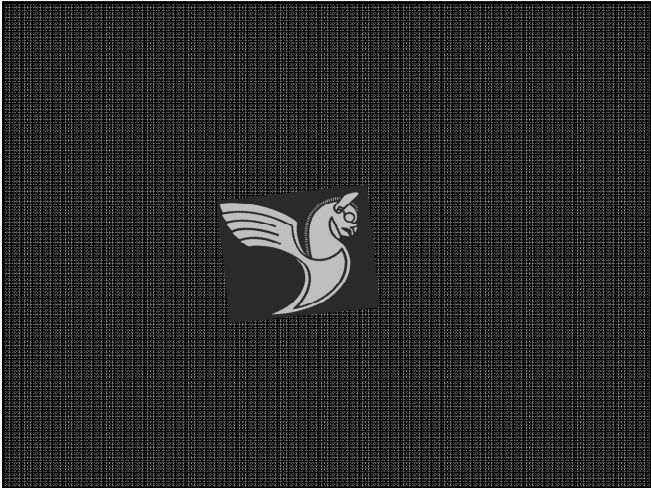
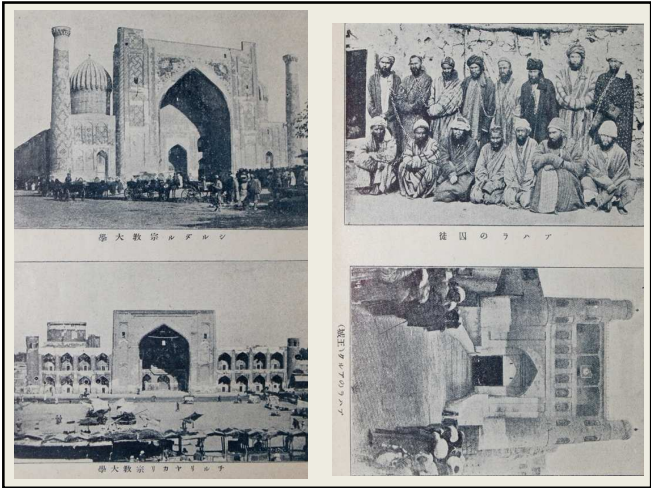
『中央亜細亜より亜拉比亜へ(福島將軍遺稿 續)』福島安正(遺稿)、その内容

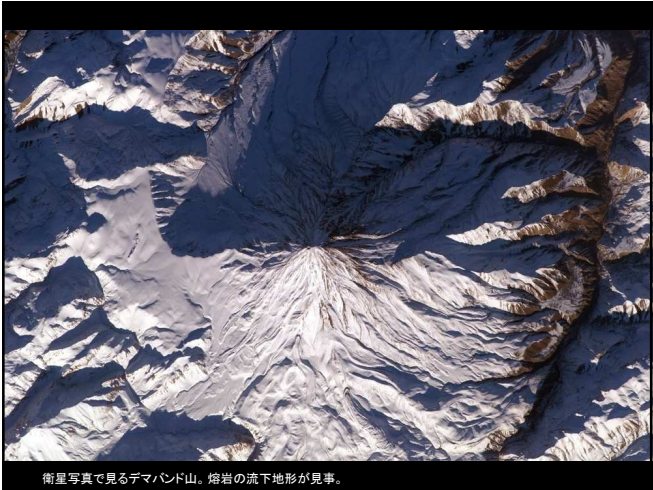












衛星写真で見るデマバンド山。熔岩の流下地形が見事。



デマバンド山の遠望

ディジン・スキー場の最上部から、デマバンド山遠望。

（前田浩之さん、2007.3.8撮影）



前ページと同じ場所から、2008.3.6撮影。

（現地事情をお教えいただいた、AACK 前田浩之さん、2008.11、トーチアル山頂上にて。）



デマバンド山の遠望

（写真は、ともに、英版ウィキペディア。）



前々ページと同じ、ディジン・スキー場最上部から遠望。
前田浩之さん、2008.1.31撮影



周辺一帯は乾燥地帯だが、地形の影響で時には湿地も。

（前田浩之さん、2005.9.21撮影。）

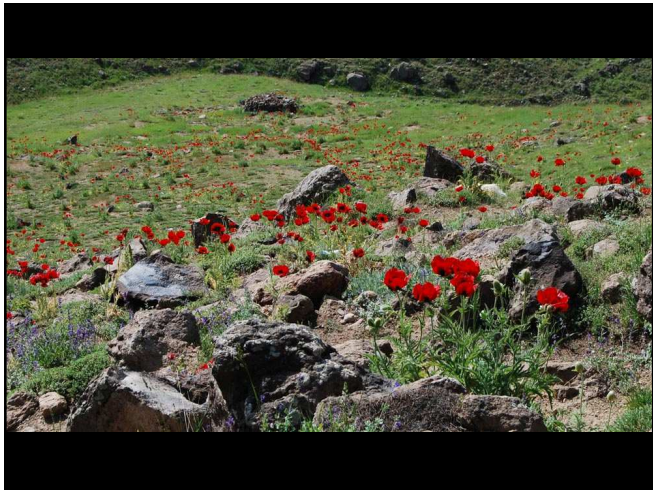
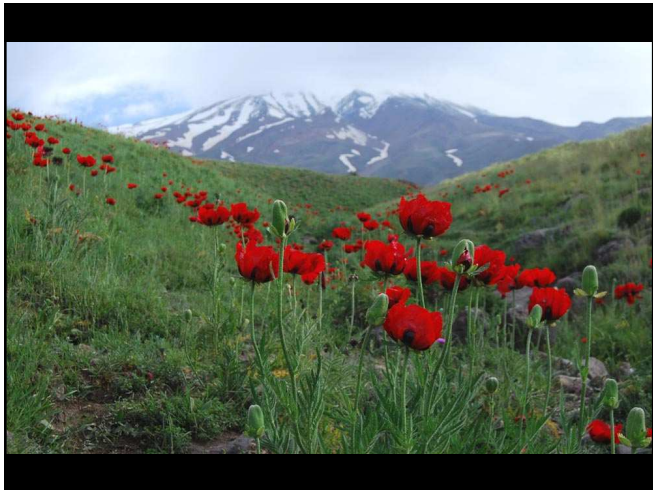




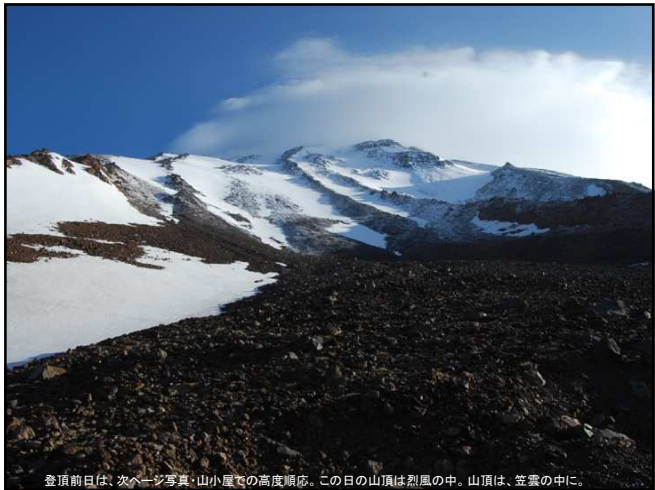


登山基地になる町、レイネ、小さなホテル着。









登頂前日は、次ページ写真・山小屋での高度順応。この日の山頂は烈風の中。山頂は、笠雲の中に。



山中で唯一の小屋(約4000m)。



自炊小屋のため、同行ガイドさんによる調理。



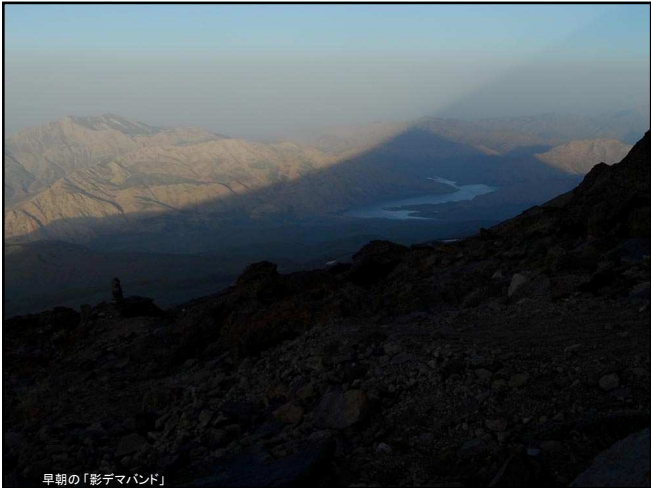
できあがった夕食。



2人で登山の、これからコンロを出して自炊の準備。



一人で登山の



早朝の「影デマバンド」





デマバンド山(公称 5671m)山頂直下。紹介する中では、小生(長岡)の唯一の写真。
5000mを越えれば、夏でも氷雪と烈風の世界。

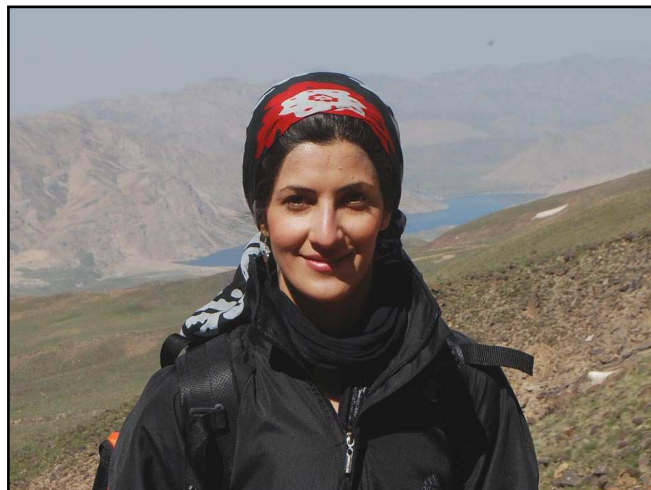


2012年7月4日の山頂火口原と、
右写真は、盛夏の同じ場所。
および 噴気孔(次ページ)。
下2枚は、英版ウィキペディアより



しばらくの後、下山開始。雪のあるのはデマバンド山頂部のみで、周辺は荒涼とした酷乾の山々。





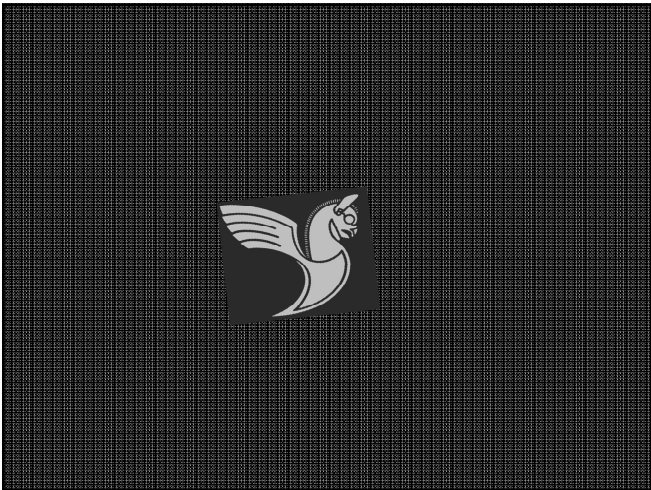




熔岩流の側面が作った崖のわきにて、休息。



各地で見た、ハチミツ取り。







バザールでは、金工・手芸装飾品を中心に、その製作者が店主であることが多い。



こちらのお店でも、販売品のデザインなどは、もっぱら自分たちで。



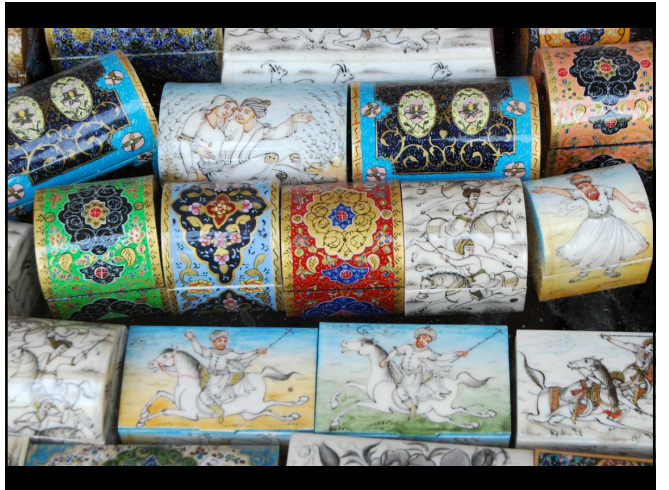
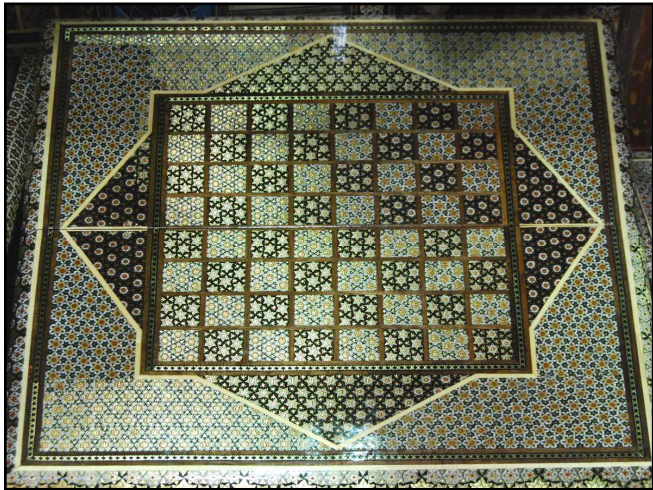
伝統の七宝焼き。



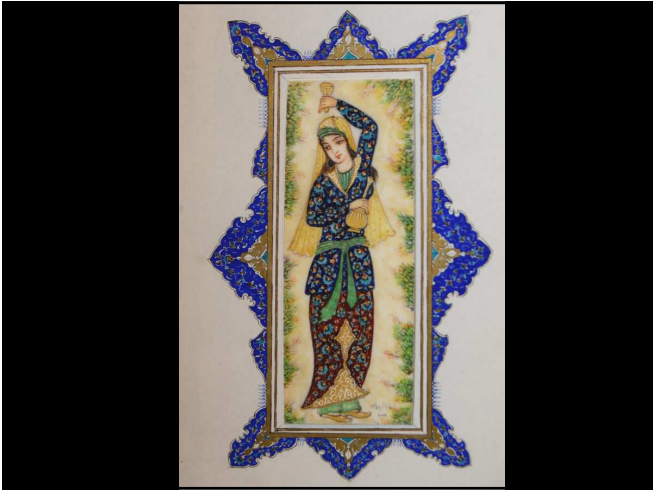
伝統の、魔除けの「目玉」模様は、至る所に。

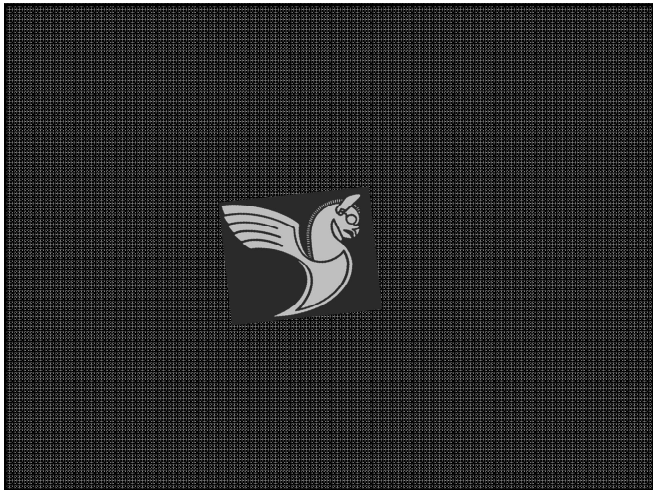
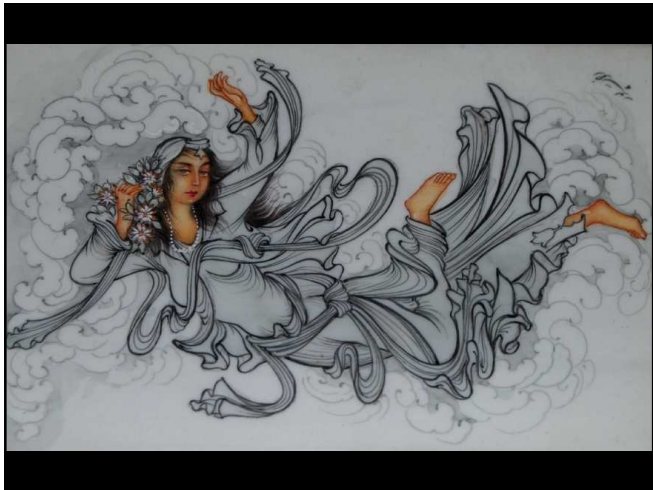


素晴らしいガラス細工の数かず。



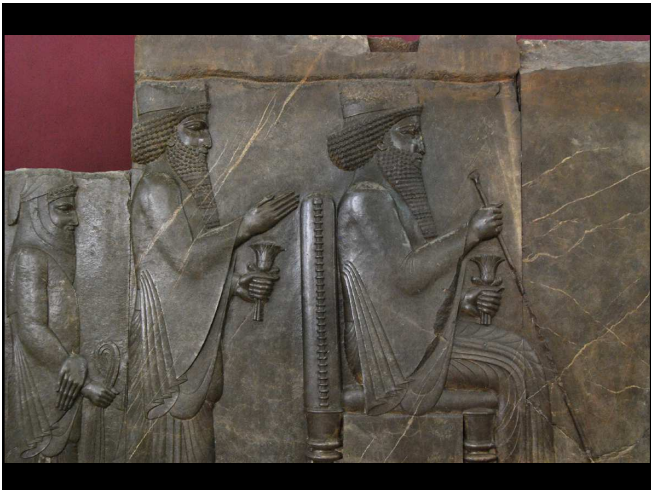












お聴き頂き ありがとうございました



素晴らしいイランの地にて、皆様にお目にかかれそうですように

ご質問は 次へ : nagaoka@almond.ocn.ne.jp

（イスファハーン、王の広場裏面にて、長岡、2012.7撮影）



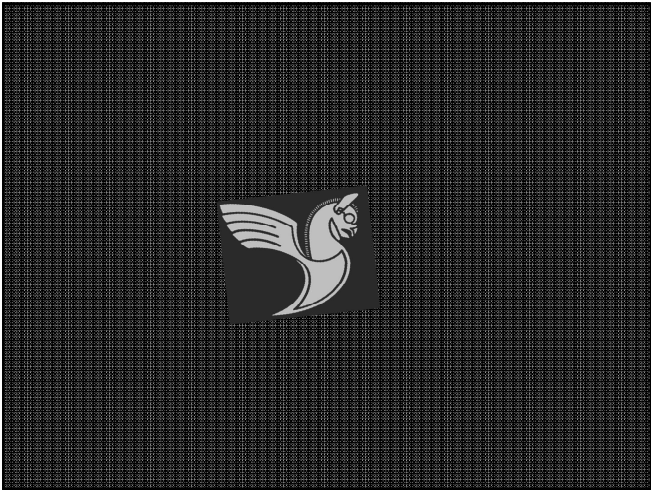
今回のご紹介に際して、次の各位・機関から、
ご教示と、史料の利用等の便宜を頂きました。

（五十音順・敬称略）

牛木 久雄
金子 民雄
中沢 伴行（西遊旅行(株)）
前田 浩之

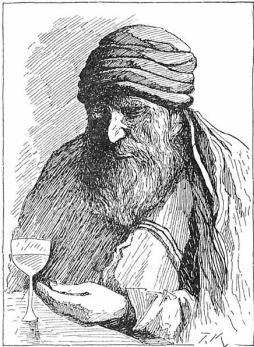
西遊旅行(株)
イランでのガイド、レザさん ほか
山岳ガイド、ザレイさん
イランで出逢った 多くの人々
イラン国立考古学博物館 ほかの 博物館
インターネット上の ウィキペディア ほか

（イスファハーンの スー・オセ横・長岡、2012.7撮影）

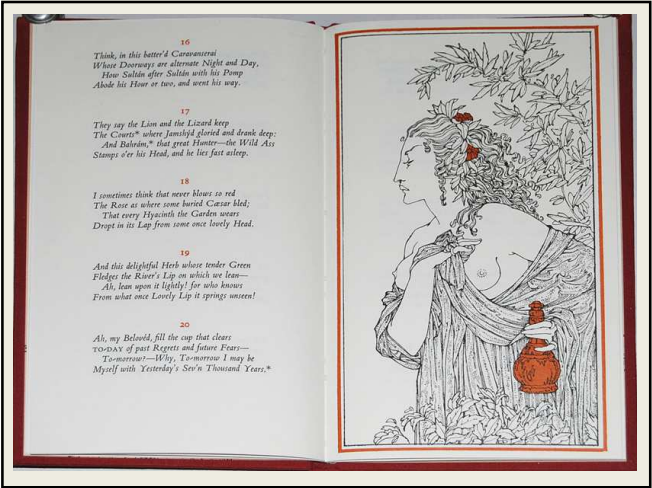
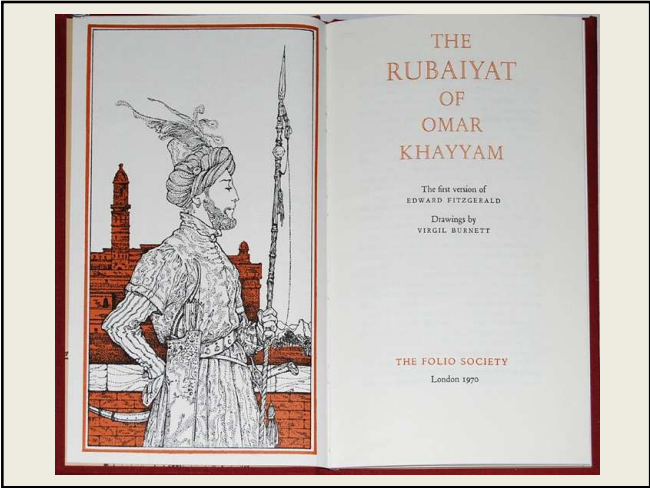
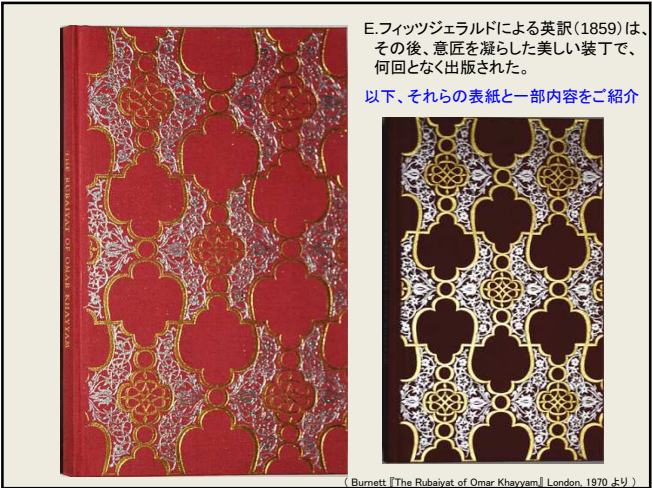
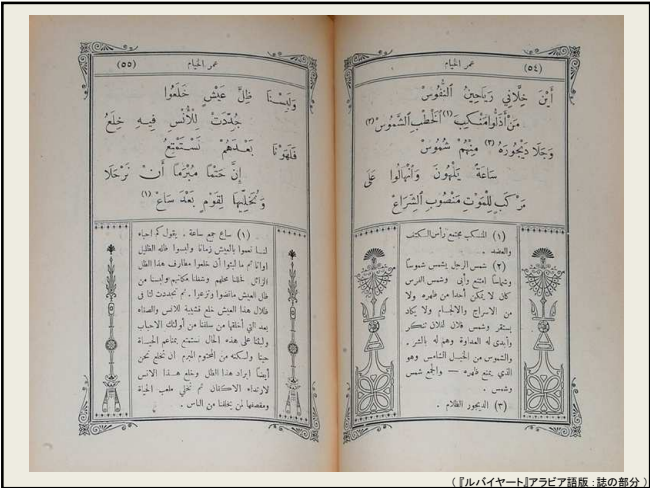
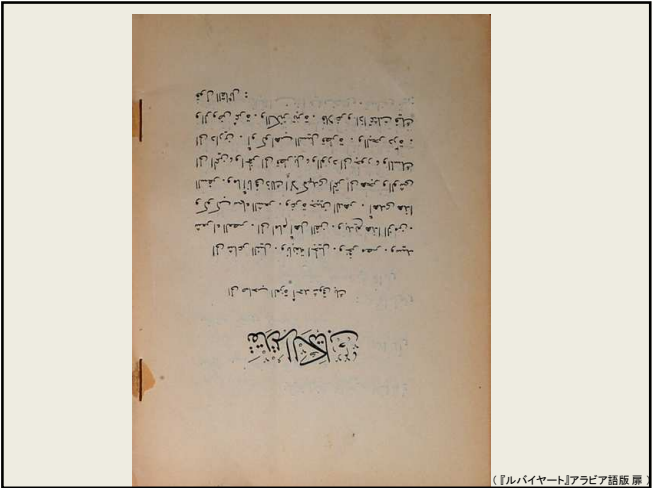
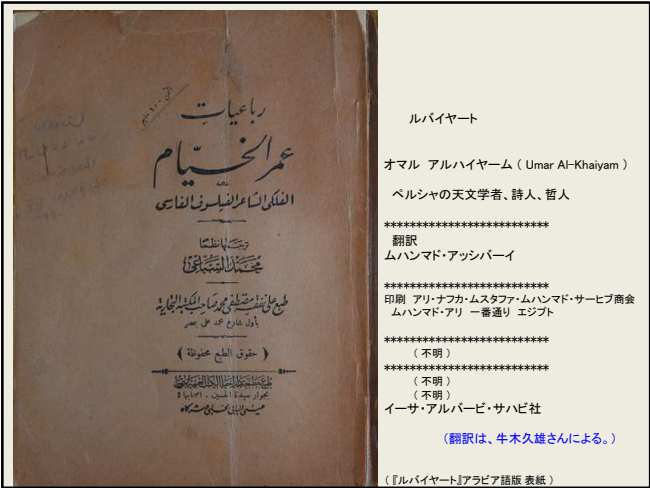


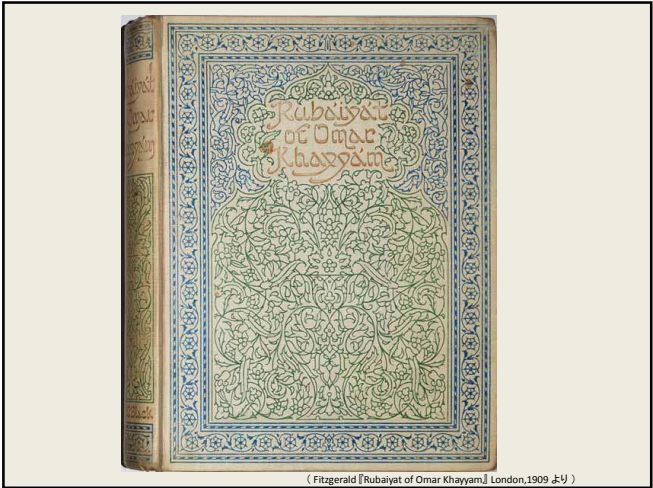
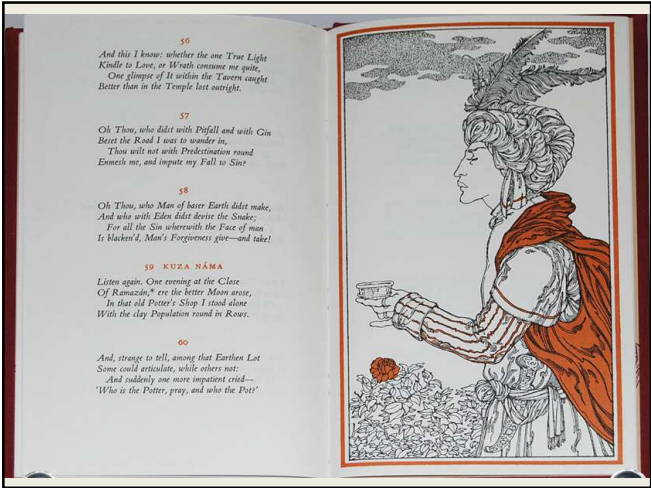
【 以下は、お話しが、ルバイアートに大きく飛躍した場合のご参考として 】

ご所蔵の稀観書にみる **ルバイヤートの世界**

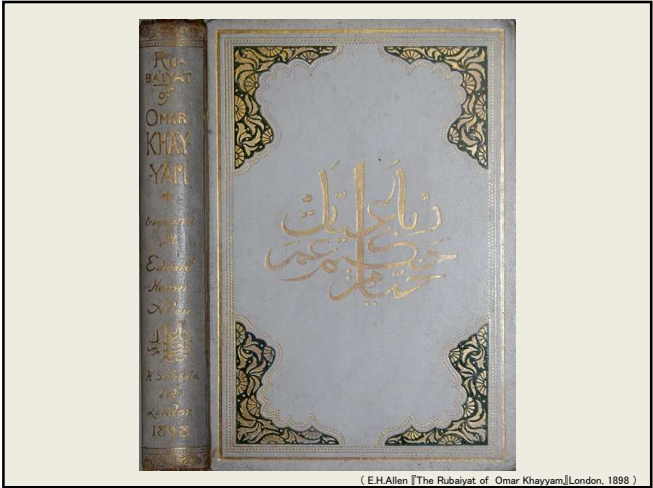
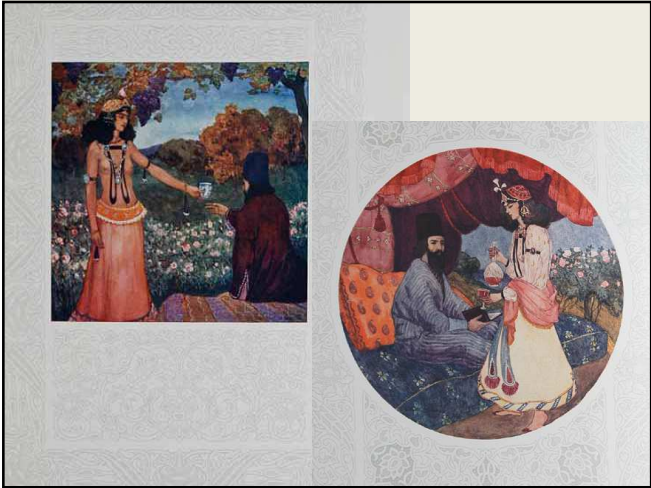
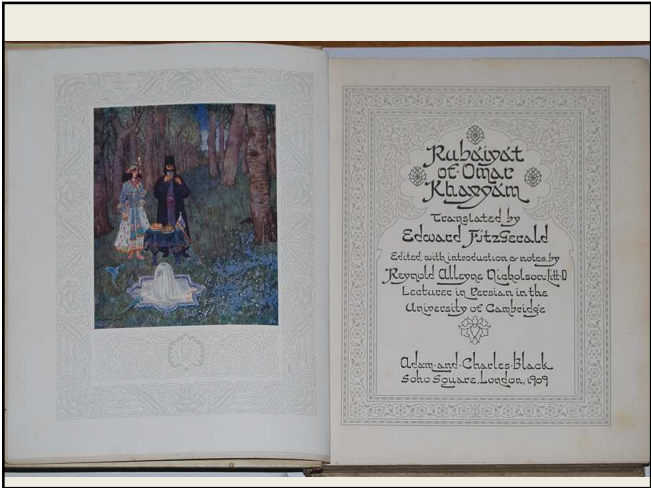


（金子さんの想像：作者オマル・ハイヤーム、晩年の面影）

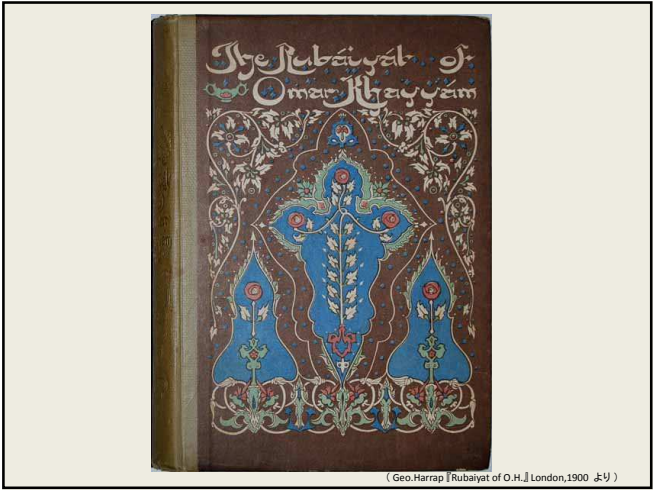




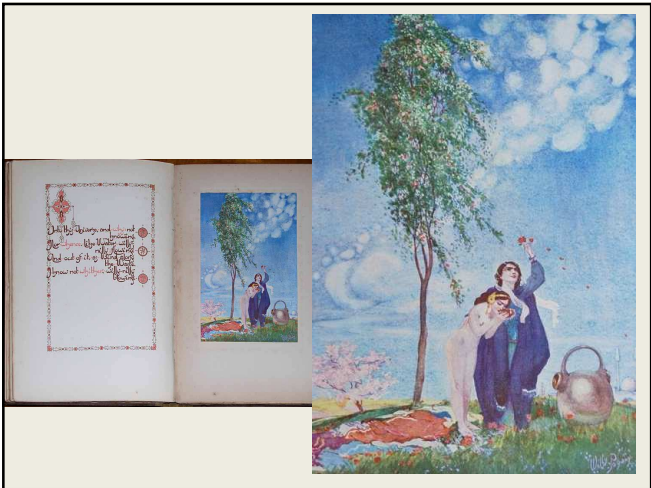
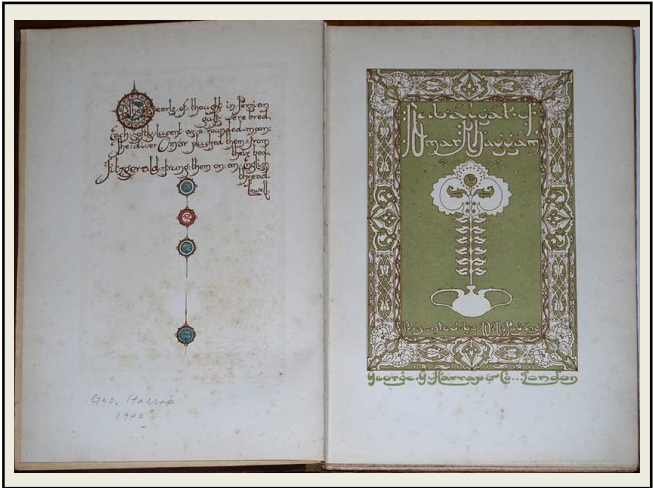
(Fitzgerald『Rubaiyat of Omar Khayyam』London,1909より)

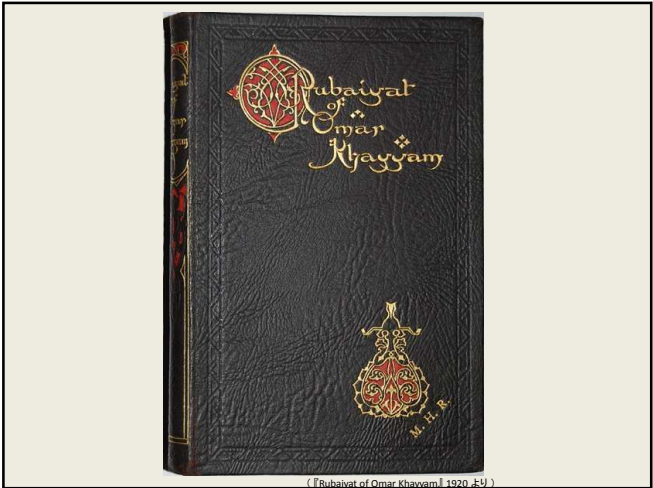
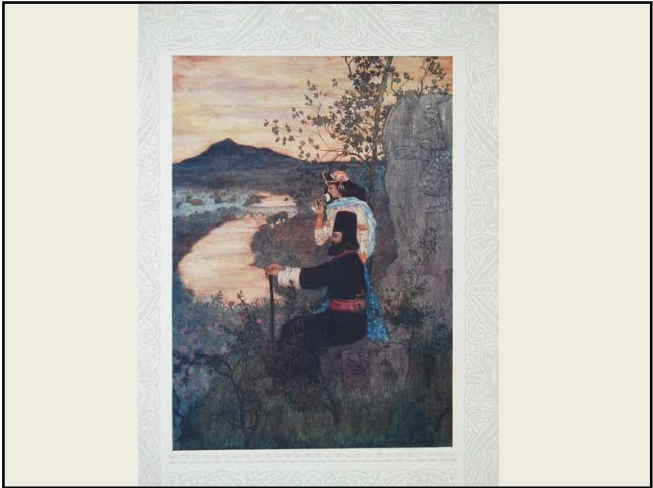
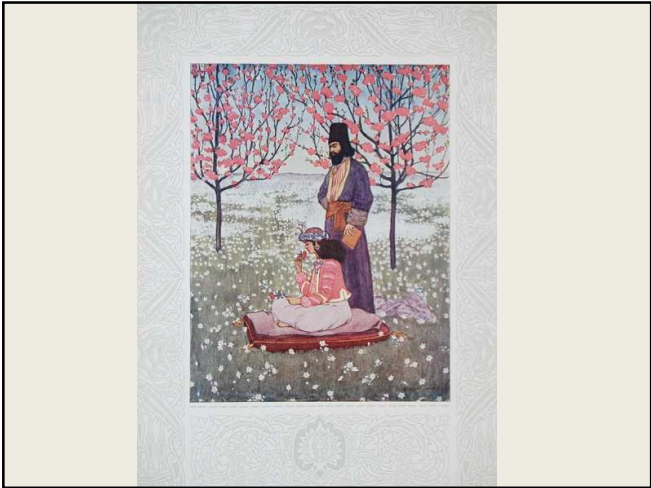


(E.H.Allen『The Rubaiyat of Omar Khayyam』London, 1898)

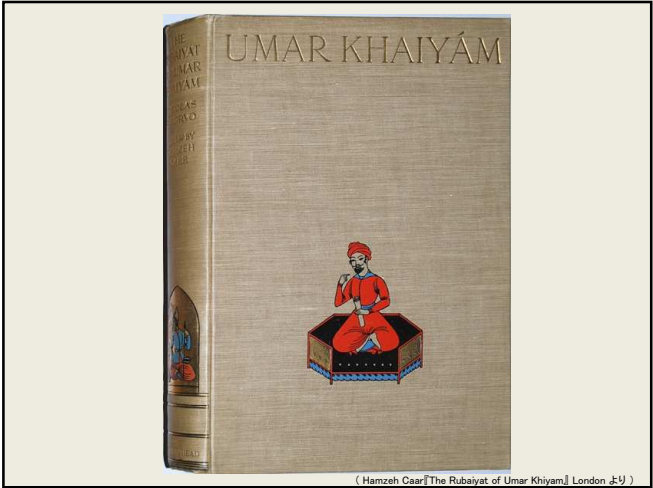


（Geo. Harrap『Rubaiyat of O.H.』London,1900 より）

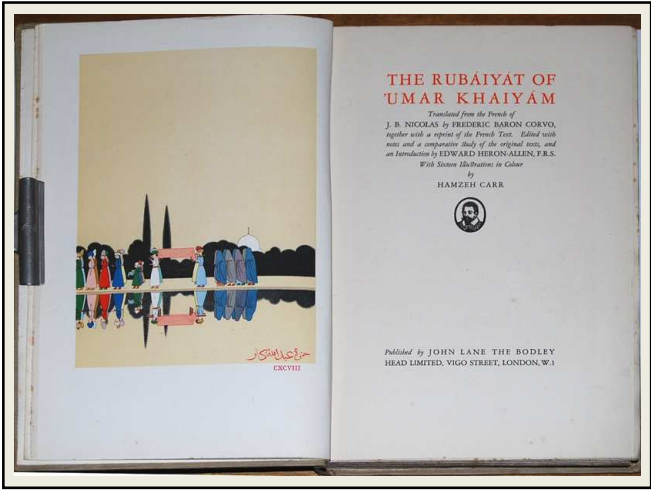




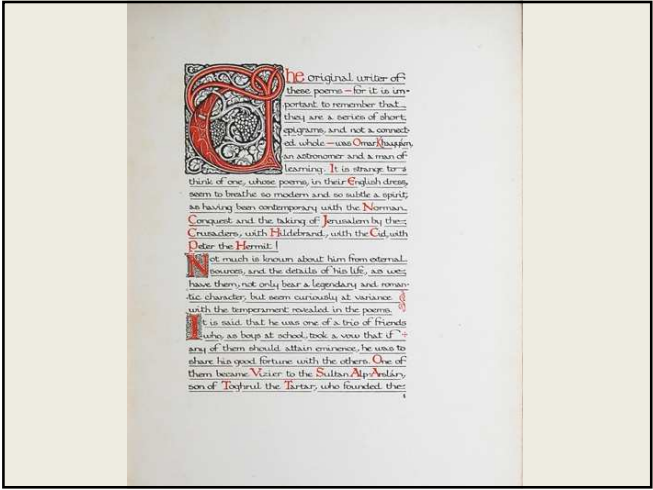
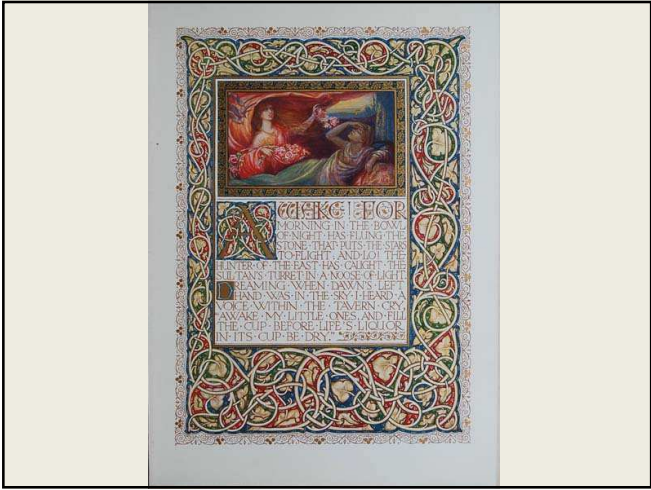
（『Rubaiyat of Omar Khayyam』1920 年より）

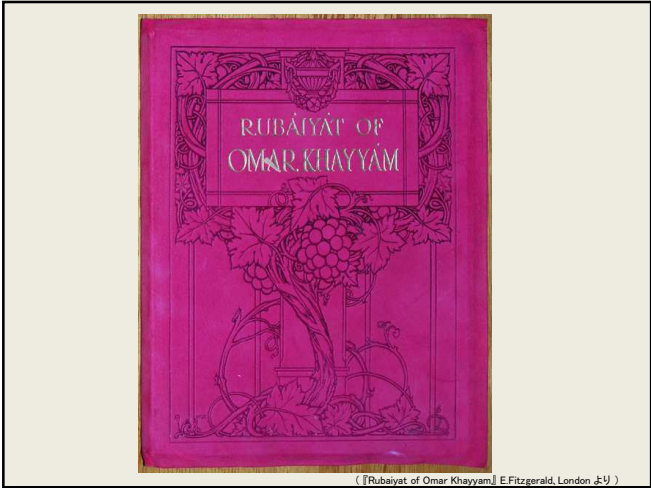
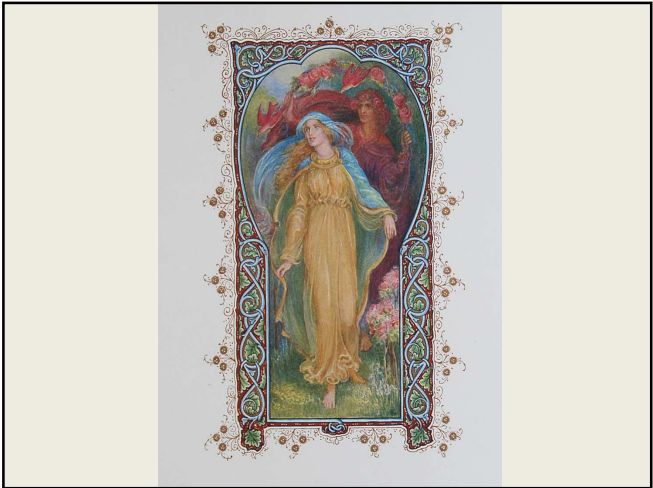
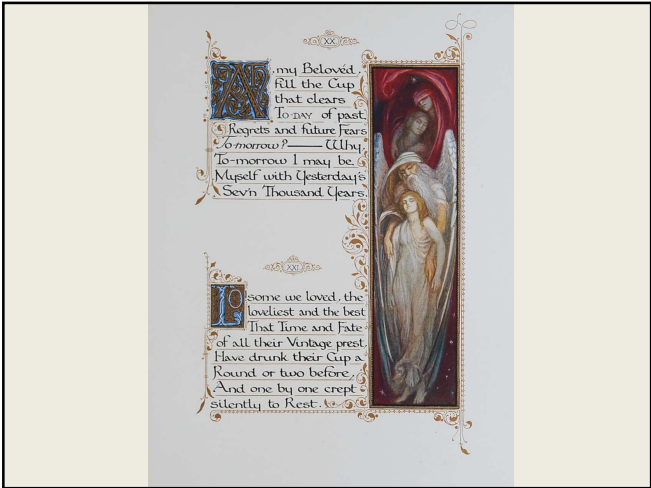
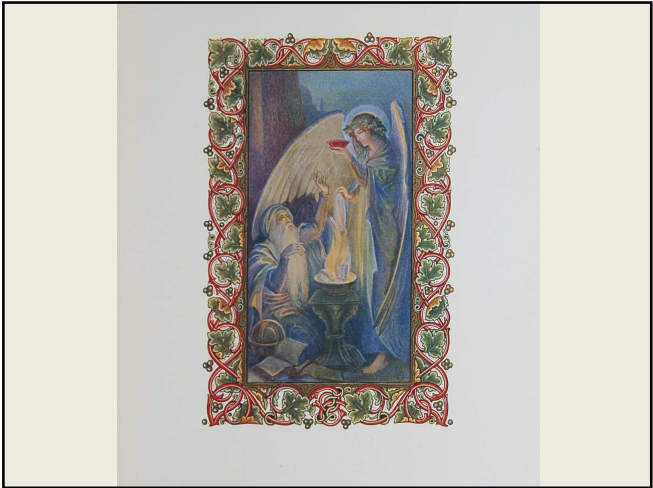
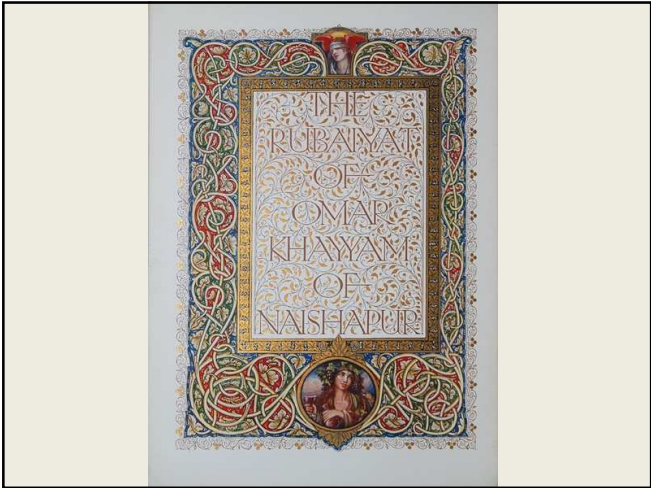


（Hamzeh Caar『The Rubaiyat of Omar Khayyam』London より）

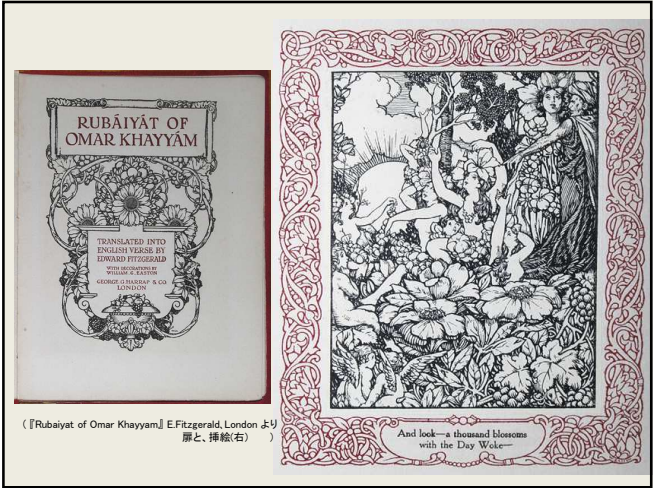


(Benson『Rubaiyat of O.H.』London, 1910 より)





（『Rubaiyat of Omar Khayyam』E Fitzgerald, London より）



（『Rubaiyat of Omar Khayyam』E Fitzgerald, London より
冊と、挿絵（右））

And look—a thousand blossoms
with the Day Wake—

